て分類したものである。これらの時期は異質なもので明確にできないが、松山Ⅳ期以降になろうか。

22～27は脚部の接続部内面の径が広いもので、とりあえずγ２として分類時に分けたものである。これらは、脚部径が大きく短い一群（22～24）と長い一群（25～27）に細分できるものである。脚部の短いものは、低脚坏又は脚坏椀の可能性も考えられるが明確なことは判らない。また、時期についても不明である。脚部が長いものは、完形品が無いので良く判らないが、あまり広がらない形態のものと思われる。時期は松山Ⅳ期以降のものであろうか。

28～30は脚部内面がすぼまるものであり、分類時にγ３としたものである。また、これらの脚部は、厚みがあるものである。時期的には、良く判らないが、松山Ⅳ期頃と思われる。

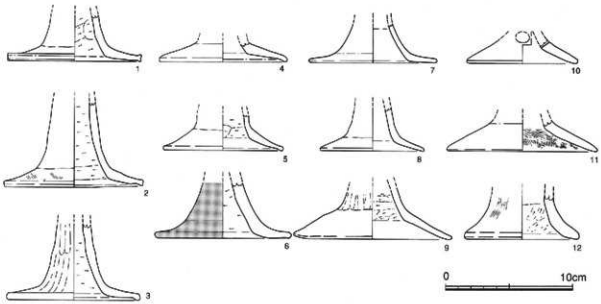
**高坏（脚部）（図184）** 脚部として分類したものは、脚端部まで残っており、接続部が無いものである。分類は脚端部の形態から行い、端部に面を持ったり肥厚させたりする一群（１～６）と端部がそのままで終わる一群（７～12）に大きく２つに分けている。

１～６は端部に面を持つもの（１～３）と端部内面が肥厚するもの（４～６）とにさらに細分される。また、端部に面を持つものは、脚部の裾が大きく屈曲し水平方向に広がるものばかりである。時期は、良く判らないが、１～３が松山Ⅱ期～Ⅲ期頃、４～６が松山Ⅲ期～Ⅳ期と考えられる。

７～12についても細分され、器壁が薄くてシャープなもの（７～９）と厚いもの（10～12）に分けられる。これらの時期は厚いものが相対的に新しい可能性が考えられるが、不明である。時期は、松山Ⅲ期～Ⅳ期であろうか。

**低脚の高坏（図185）** 低脚の高坏とは、脚部が高坏と低脚杯の中間の高さであるものについて、とりあえず今回呼んでいる。これらは胎土が精製され、作りも丁寧な１、２と雑な３とに分けられる。また、３は高坏とするよりは、脚坏の椀などの別の器種になる可能性を含んでいる。これらの時期は１と２が松山Ⅳ期頃、３が松山Ⅳ期以降であろうか。

**低脚坏（図185）** 低脚坏は弥生時代後期後葉に出現する器種であるが、竹ノ崎遺跡からは、古墳時代以降のものが出土している。また、ここで記述する低脚坏には、脚付椀と分類した方が適切なものも含んでいる。分類は脚部の径に注目して細分していたが、掲載時に若干変更している。



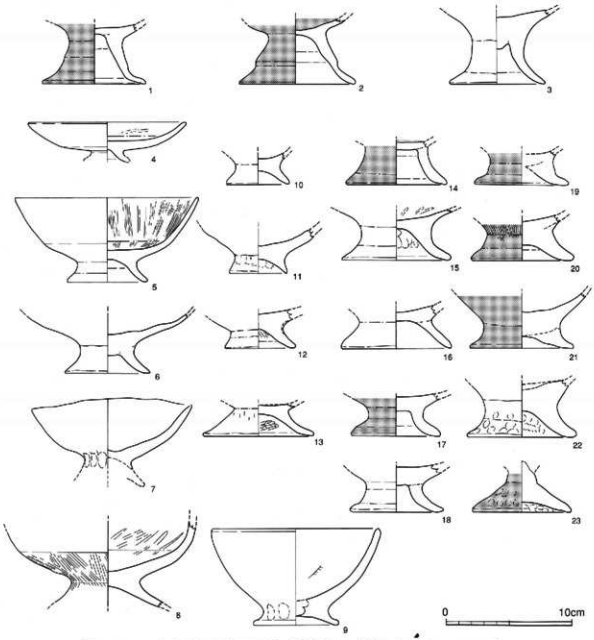

第184図　出土土師器実測図⑯（高坏）（Ｓ＝１：３）

4は弥生時代後期からの系譜を引く典型的な低脚坏である。遺跡からは、全形の判るものは1点だけ出土している。この土器の時期は松山1期新段階頃と思われる。

185図5～9の低脚坏は、4とは異なり非常に坏部が深く脚部が大きいものである。時期的にも4より新しいものと推測される。また、これらは脚部の径が小さめのもの（5～7）、大きめのもの（8）、特異なもの（9）とに細分可能なものである。これらの時期は松山Ⅱ期～Ⅳ期と考えられる。

185図10～23は低脚坏の脚部である。これらは脚部の径と厚さで3つに細分することが可能である。

10～13は脚部の径が小さく、短いものである。これらは弥生時代後期からの低脚坏に近い脚部の形態を持つものであるが、4と同じような坏部になるかどうかは不明である。時期はおそらく松山Ⅱ期～Ⅲ期と考えられるが、確証はない。




第185図　出土土師器実測図⑰（低脚高坏・低脚坏）（S＝1：3）

14～18は脚部の径が大きめであり、いわゆる「低脚坏」とは異なるものと考えられる。また、これらの坏部は5～8に近い形態をとるものと想像される。時期は松山Ⅱ期～Ⅳ期と推測される。

19～23も脚部の径が大きめのものであるが、器壁が非常に厚い一群である。また、23は他の低脚坏とは、異なる形態をとるものであり、例外的なものである。これらの時期は赤色顔料が塗布されたものが多いことから、松山Ⅳ期前後と思われる。

**坏（図186）** 坏は当初分類時に口縁形態から大きく4つに分類し、掲載時に口径・器高も考慮にいれて若干変更した。変更した分類は基本的に大形のもの（1，11～28）と小形のもの（2～10）とに分け、端部の形態、器高（深さ）で細分した。時期は、古墳時代中期後半と推測される。

1はやや大形の坏で、口縁が直立するもので、須恵器蓋坏の模倣と思われるものである。これは、すべて赤色顔料が塗られている。時期は松山Ⅳ期と思われる。

2～4は小形のもので端部が外に折れるものである。これらは内湾した口縁が端部付近で折れる2と、口縁が厚く先端部が若干外に折れる3、4とに細分される。時期は明確にできないが、松山Ⅲ期～Ⅳ期と考えられる。

5、6は小形でやや深めのものであり、口縁が直立気味で底部との境に稜が付く個体である。時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期と思われる。

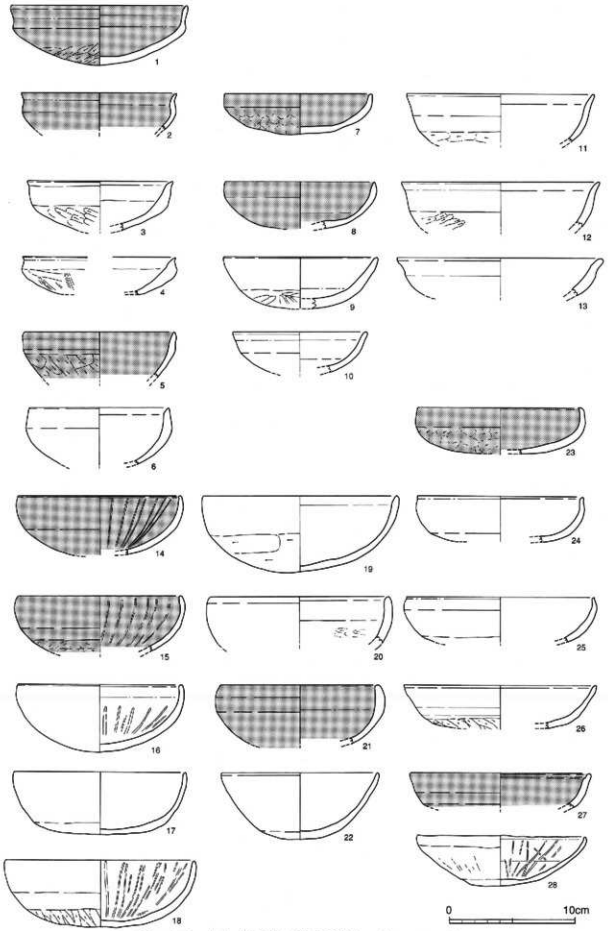
7～10は小形で、口縁が内湾して立ち上がる椀形のものである。これらは口縁端部が直立するタイプ（7、8）としないタイプ（9、10）とに細分可能である。時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期のものと考えられる。

11～13は大形のもので、口縁端部が外反するものである。時期は明確にはできないが、松山Ⅲ期～Ⅳ期と思われる。

14～22は大形で深く、口縁が内湾して立ち上がる椀形ものであるが、22はあまり丸みを帯びないものである。また、この一群の内面には全個体ではないが、比較的多い割合でヘラによる暗文が施されている。これらは、器壁の薄いもの（14～19）と厚いもの（20、21）のとに2つに細分可能なものである。さらに厚いものは、やや胎土が粗い印象を受ける。時期的には、松山Ⅲ期～Ⅳ期と考えられる。

23～26は大形で浅い器形のものである。これらの器形を見ると内湾するもの（23～25）と外に広がるもの（26）に細分可能なものである。また、端部を見ると内側に折れるもの、外側に折れるものなどあり、細分の可能性を持つものであるが、分けなかった。これらの時期はおそらく松山Ⅲ期のものと考えられる。

186図27と28の坏は、大形で浅い形態のものであるが、これまでの分類に入らない異形のものである。時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期であろうか。




第186図　出土土師器実測図⑱(坏)　(S＝1：3)

**その他の坏(187図1～9)** これまで述べてきた坏は、古墳時代中期に属する坏であったが、古墳時代後期以降の坏も若干ではあるが、出土している。

1～4は、すべて赤色顔料が塗布された坏である。いわゆる畿内(第3分冊)系の坏と呼ばれるものであるが、搬入品ではなく、在地で製作されたものと考えられる。1は、小形のもので口縁が内湾する坏である。畿内で言う飛鳥Ⅱのものと思われ、7世紀中葉頃と推測される。2は口縁が外側に折れる坏で、8世紀後半頃のものと推測される。3は高台付の坏で飛鳥Ⅳ～Ⅴに対応すると思われ、7世紀後葉～8世紀初頭と考えられる。4は坏底部の破片であり、ヘラ描きで「井」と記されている。時期の詳細は不明であるが、7世紀以降と推測される。

5～9は、底部を回転糸切りによって切り離している坏である。全体の判る5は、底部から外方に向かって開く個体であり、10世紀頃(第3分冊)と推測される。6～9の坏については、底部のみであることから時期については、明確に判らないが、平安時代頃であろうか。

**鉢(187図10～25)** ここで掲載している鉢は、時期的には古墳時代中期に属するものと考えられるものである。当初の分類では口縁端部が外折するもの（10～15）と、しないもの（16～25）に大雑把に2つに分けている。それを掲載時に全体の形態などから細分している。

10～13は口縁部が外折するタイプで、口径も比較的近似している。ただし、10は大形であり口縁端部も他のものより折れないものである。これらの時期は、おおよそ松山Ⅲ期頃と考えて良いのではなかろうか。

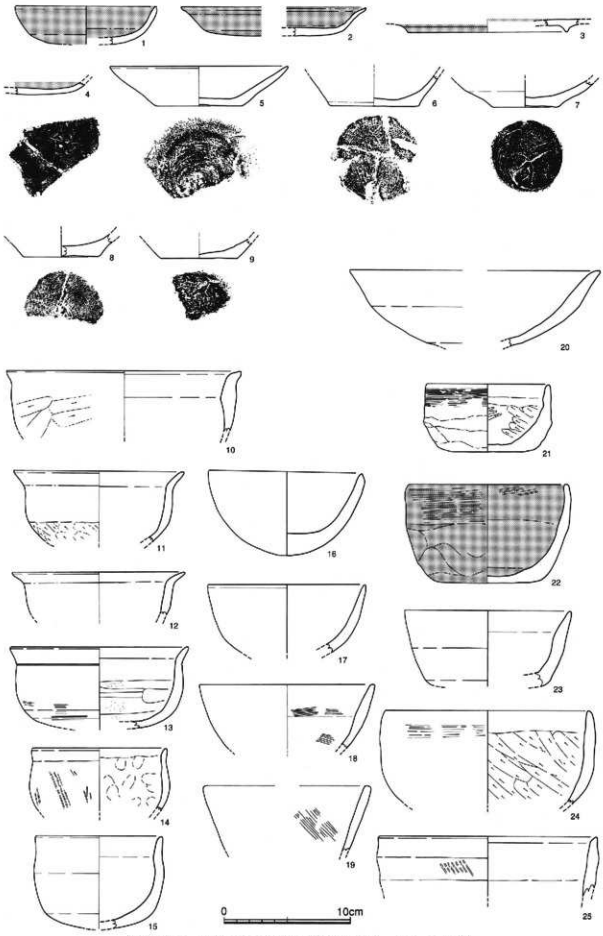
14、15はあまり口縁部が外折しないもので、口縁部径が小さく、深い鉢である。これらの時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期と推測される。

16～19は口縁端部が真っ直ぐで球形に近い形態の一群であり、大きさも似かよっているものである。ただし、19は丸みのない器形であり、やや分類からはずれるものである。これらの時期は、松山Ⅲ期～Ⅳ期と推測される。

20はどの分類にも入らない形態のものである。やや高坏の形態にも似ているが、胎土、色調が異なるものである。時期は不明である。

21～24は口縁部が垂直に近く立ち上がる平底の鉢である。これらの法量は一定していないが、図化したものを見る限りでは、大形（24）中形（22、23）小形（21）と三段階の法量のものが存在している。また調整を見ると、口縁部外面には、ヨコハケが施されていることなど共通する点が認められる。これらの時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期と推測される。

25は口縁部が垂直に立ち上がるものであるが、21～24のものとはやや器形が異なるものである。時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期に属するものであろうか。




第187図　出土土師器実測図⑲(坏・鉢)　(S＝1：3)

**甑（図188～190）** 甑は、完形品として復元できたものはなく、全体の形態について検討は不可能であった。そこで、分類は口縁部（図188）、底部（189図1～6）、把手（189図7～11、190図1～8）の各部に分類して、それぞれ細分している。

**甑（口縁部）（図188）** 口縁部は、その形状によって分類し、口縁端部付近で若干外折するもの（1～5）、口縁部が外側に大きく屈曲するもの（6～8）、口縁部が真っ直ぐで屈曲しないもの（9）の3つに分けた。これらの中で6～10については、甑と分類したが、甕である可能性が存在している。時期的には5世紀後半～7世紀代頃が考えられる。

**甑（底部）（189図1～4）** 甑の底部は、一般的に底部に中心に円孔を穿ちその周りに円孔や半円形の孔を穿つタイプ（A）、底部に1本の桟を渡すタイプ（B）、底部がなくて側面に円孔を穿つタイプ（C）の大きく3つのタイプが存在している。また、それぞれのタイプは、おそらくA－B－Cの順で変遷していると思われる。竹ノ崎遺跡では、そのいずれのタイプの甑も出土しているが、破片のものが多く詳細については不明な点が多い。

1～4は、Bタイプの桟の破片である。長さ、幅などが異なるものが存在するが、調整はナデによって仕上げられている。これらの時期は、松江市福富Ⅰ遺跡[第12次]の出土例から推測した場合、出雲1期の須恵器と共伴していることから、松山Ⅳ期または出雲1期以降と考えられる。そして出雲4期頃まで存続するタイプと思われるが、不明確な点である。

5は、Aタイプの底部であり、孔の形状、数などは不明である。時期は松山Ⅲ期～Ⅳ期と考えられる。

6は器壁側面に円孔を穿つCタイプの破片である。このように器壁側面に円孔を穿つタイプの時期は、東出雲町淡山池遺跡[第13次]の出土例から推測した場合、出雲4期以降の須恵器と共伴することは確実なようである。よって、古墳時代後期以降と思われる。

**甑（把手）（189図7～11、190図1～8）** 甑の把手は、大きめのものとやや小振りなものが存在している。ただし、大形のものと小形のものが明確に分かれるというわけではなく、大まかに分けたものである。また、把手の接続方法は、本体の器壁に貼り付けるもの、本体の器壁に孔を穿ち、把手を差し込むものの2つの技法が存在している。

189図7～11、190図1は、大形の把手である。7～9は、把手を貼り付けて接続するタイプのものであり、10～11、190図1は、把手を差し込んで接続するタイプのものである。また、12と13は接続方法が不明なものである。

190図2～8は小形の把手である。接続方法が分かるものは少数であるが、2は貼り付けて接続するタイプで、4は差込式のものである。なお、8は甑の把手と考えているが、やや異形なもので別器種の把手である可能性が存在する。

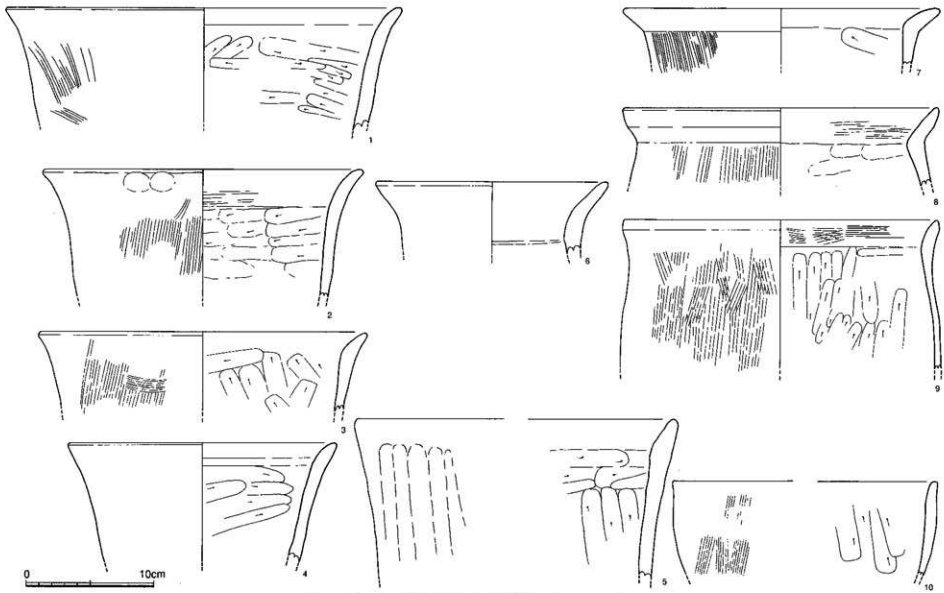
**把手状製品（190図9～15）** 甑の把手と考えられる破片以外にも把手状の製品が存在する。

9、10は形状は甑の把手に類似しているが、非常に小形のものである。これらは、一つの可能性として小形の甑の把手と考えることもできるが、良く判らない。

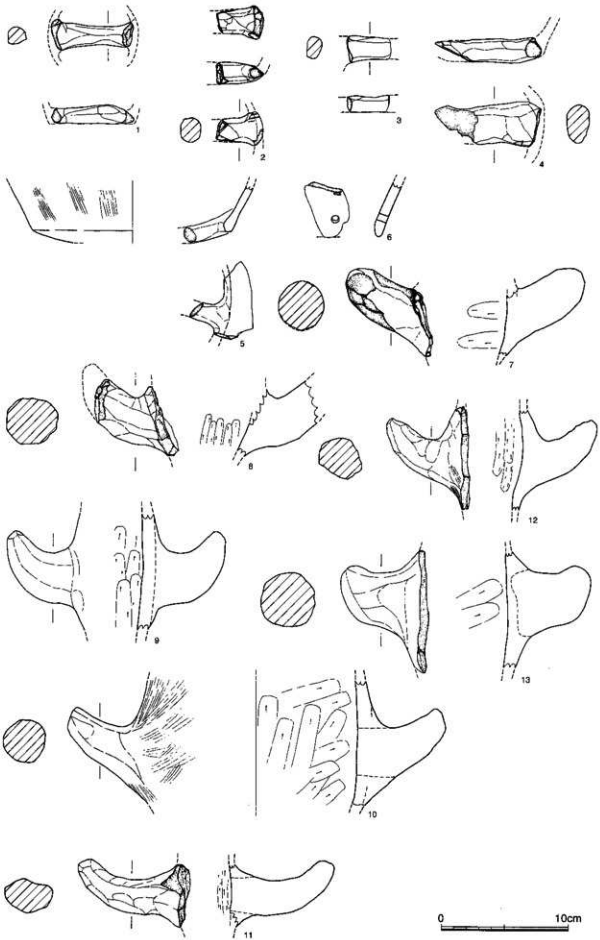
11は環状の把手として復元できそうな把手状の製品である。器種については不明である。

12は外面に対応するかのように内面が窪む把手状の製品である。器種については不明である。

13は環状の把手の破片である。非常に小形の器種と想像されるが、良く判らない。胎土や色調は、弥生土器よりは土師器で見られるものに似通っている。

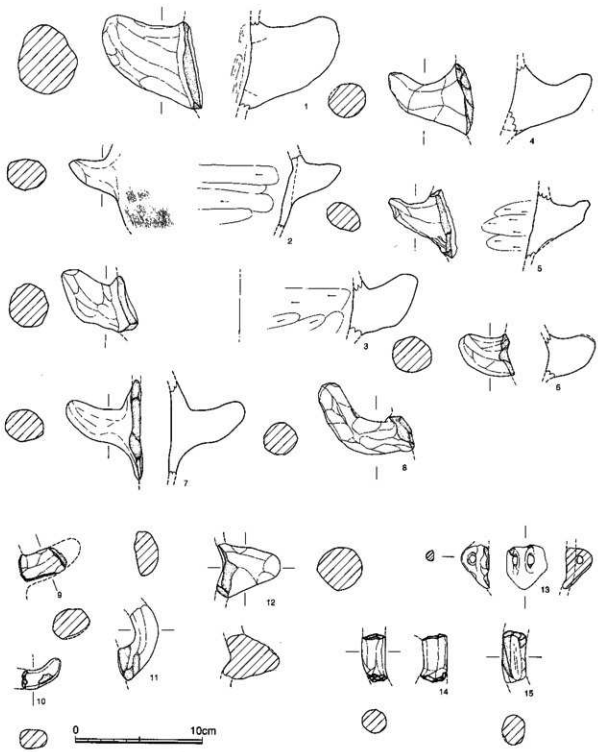



第188図　出土土師器実測図㉑（甕）（S＝1：3）




第189図　出土土師器実測図㉑(甑)　(S＝1：3)

190図14、15は、真っ直ぐに近い棒状の製品であるが、若干弧を描くものである。これらは、瓶の底部に渡す桟である可能性が考えられるが、小片であり良く分からない。




第190図　出土土師器実測図②（瓶把手・把手状製品）（S＝1：3）

**竈（図191、192）** 竈は、完形品として復元できるものは、存在しなかった。そこで、口縁部、底部、庇に分けて検討した。また、時期は6世紀後半～奈良時代頃[注20]までと推測され、細かな時期については、今後の課題である。

**竈（口縁部）（191図1～3）** 竈は、口縁部片だけでは特定することは本来困難なものと推測されるが、とりあえず器壁が厚いもので、特に頸部が厚いものを竈の口縁と判断している。もちろん器壁の薄いものでも竈の可能性があり、これまで甕と判断したものの中には、竈の口縁部が含まれていることは十分に考えられる。1と2は器壁の厚いもので、口縁内面にヨコハケがある等、調整も似ているものである。3はやや器壁が薄いもので、甕の口縁の可能性もあるものである。

**竈（底部）（191図4～7）** 竈の底部は破片のものばかりであり、焚き口との関係等について明らかなものは存在しない。

4と5は底部の端部が広がるものであり、製作時に自重によって広がったものと思われる。6は底部内面を削りによって面取りしているものである。7は底部端部付近の外面をナデによって平滑に仕上げたものである。

**竈（庇）（191図）** 竈の庇は、上部の軒庇が焚き口全体に沿って付いているものである。なお、今回の記述では、竈を正面から見た場合での左・右で行う。

1は軒庇である。2～4は軒庇から焚き口の右サイドにかけてのコーナー付近の破片である。また、3と4は焚き口の面が残存している。5～9は軒庇から焚き口の左サイドにかけての破片である。10と11は焚き口の右サイドの庇である。

**土製支脚（図192、193）** 土製支脚は、前面に甕などを受ける2つの突起が付いたものが出土している。このような土製支脚は、6世紀後半から奈良時代頃まで存在しているようである[注21]。また、出土した土製支脚は背面の形状から分類している。

192図1、2は背面に円孔を穿つものである。また、円孔が穿たれている個体はすべて前面まで貫通している。

192図3～6，193図1は、背面に突起が付くタイプである。いずれの個体も基本的に外面ナデ調整によって仕上げられている。また、裾部分の内面を上方に窄ませているのが普通であるが、6の個体は著しく大きく窄ませたもので、ケズリが認められるものである。

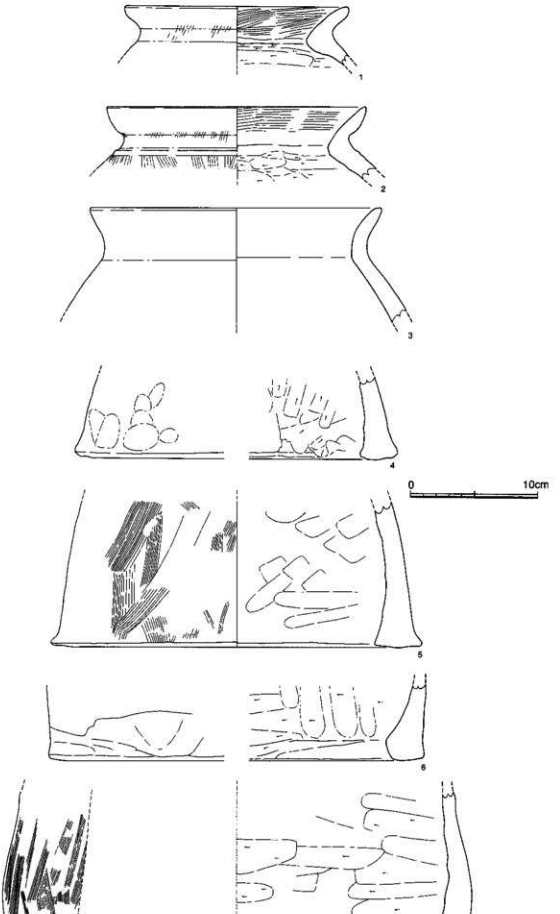
193図2は背面が突起ではなく、方形の鍔状の突起が付くタイプである。

193図3は下方部分の破片であるが、裾部分が大きく広がる個体である。4は小形の土製支脚である。

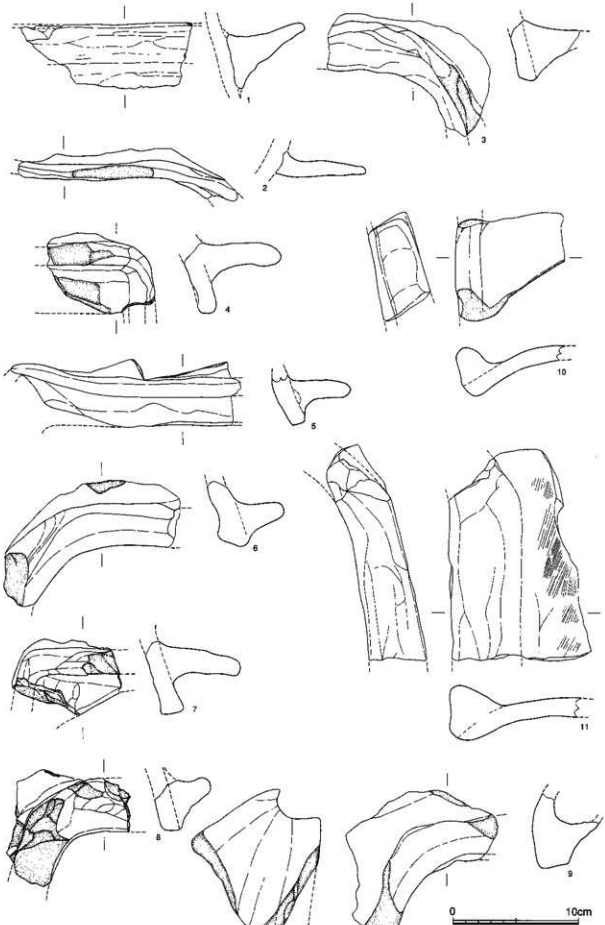
**土錘状製品（194図1）** 形状が土錘に類似した土製品が、1点出土している。基本的に形状は、土錘となんら変わるものではない。しかし、一方の端部の面にヘラ状工具による斜格子文が認められており、土錘と判断することを保留している。この斜格子文は、他のパーツと接合するために刻まれたものである可能性も存在しているが、詳細は不明なものである。

**土製品（194図2～4）** 2は円孔の穿たれている土製品である。これは、紡錘車の可能性も存在するが、破片であり良く分からないものである。

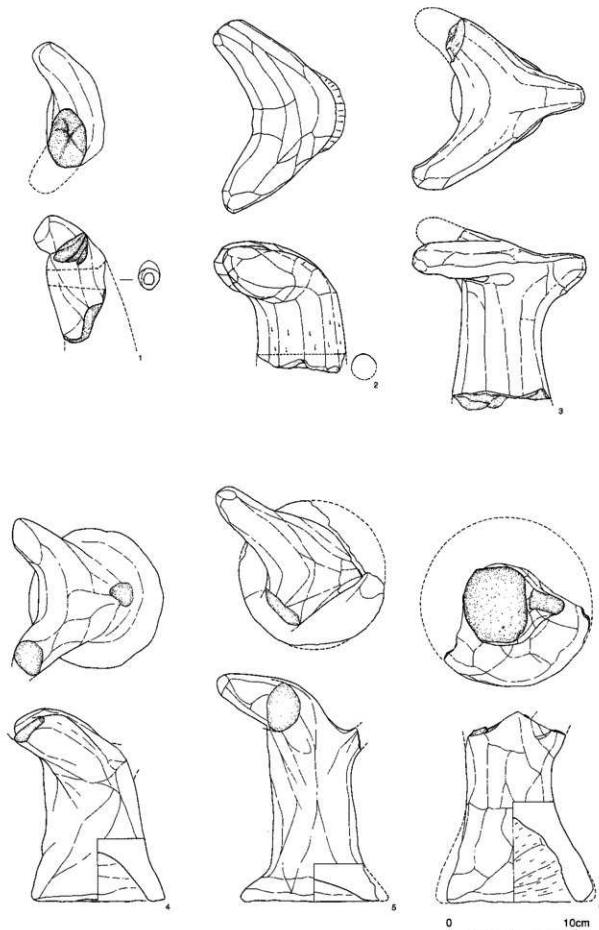
3は径6㎜程の円孔が少なくとも4つ穿たれている土製品である。これがどのような性格のものかは、不明である。




第191図　出土土師器実測図㉓（竈）（S＝1：3）

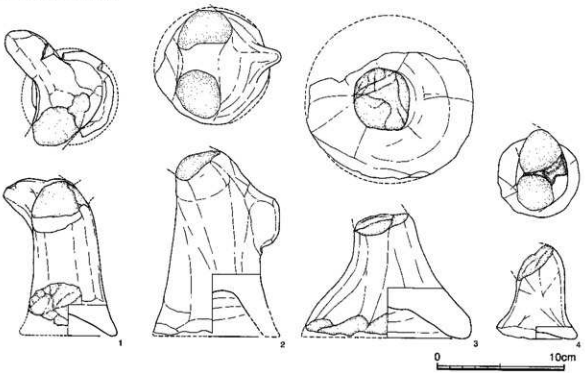



第192図　出土土師器実測図㉔（竈ひさし）（S＝1：3）

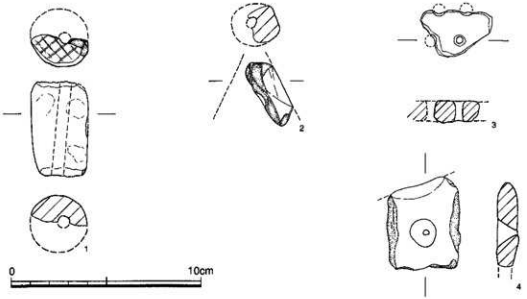



第193図　出土土師器実測図㉓(土製支脚)　(S＝1：3)

195図4は、土器片に二次的に円孔が穿たれている破片である。これについても詳細については、不明なものである。




第194図　出土土師器実測図㉙(土製支脚)　(S＝1：3)




第195図　出土土製品実測図(S＝1：2)

## 7．須恵器（図196～224）

須恵器は、古墳時代～平安時代までのものが量の多少はあるが、それぞれの時代のものが出土している。出土している器種は、蓋坏、皿、鉢、高坏、甕、壺・瓶類、硯、器台などがあり、一般的な器種から特殊なものまで見られた。なお、各出土須恵器の編年的な位置付けについては、出土した須恵器の時期幅を網羅した一貫した編年案が存在していないことから困難ではあるが、大谷晃二の編年案と安来市高広遺跡での編年案を併用しながら記述していきたい。(6)(22)

**坏蓋（図196～199）** 杯蓋は、出雲1期～出雲8期、さらに高広ⅣB期頃までの各時期のものが出土しており、蓋坏が出現してから消滅するまでのものがそれぞれ出土している。

坏蓋は、基本的に須恵器出現以降存在する坏の蓋（坏H蓋(4)(23)）、小形の無高台の坏とセットのつまみ付き蓋（坏G蓋）、高台付の坏とセットのつまみ付き蓋（坏B蓋）の大きく分けて3種類のものが出土している。以下各種類ごとに検討したい。

**坏H蓋（図196、197）** この種の蓋は、多数出土しているが、天井部まで完全に復元できるものが少ないことから、厳密な意味での大谷晃二の編年案で行われた型式分類が適用できなかった。このことから、蓋坏口縁部の形態を主に注目して分類した。

196図1～7は、大谷のA1型にほぼ対応するものである。1～4は端部を外面に反らせ面を作り、そこに沈線を入れたものである。5、6は端部を反らせず、沈線を入れたものである。7は口縁端部が欠損しているが、おそらくこのタイプのものであろう。これらの時期は出雲1期と推測される。

196図8～12は大谷のA2型に対応するものである。肥厚した口縁端部に沈線を入れ段状に仕上げているものである。時期は出雲2期と推測される。

196図13～25は、大谷のA2型及びA3型に対応するものと思われる。これらも肥厚した口縁端部に沈線を入れ段状に仕上げているが、13～25と比較してやや上方に沈線を入れており、また段がやや緩いものである。これらは口径の大小で分かれるものであり、大形のもの（13～16）とやや小形のもの（17～25）とに分けられる。また、この大小2つの一群を比較すると、大きい一群には、肩部の稜をしっかり作り出しているものが多く、口径が小さい一群より古い様相を認めることができる。これらの時期は出雲2期～3期と推測される。

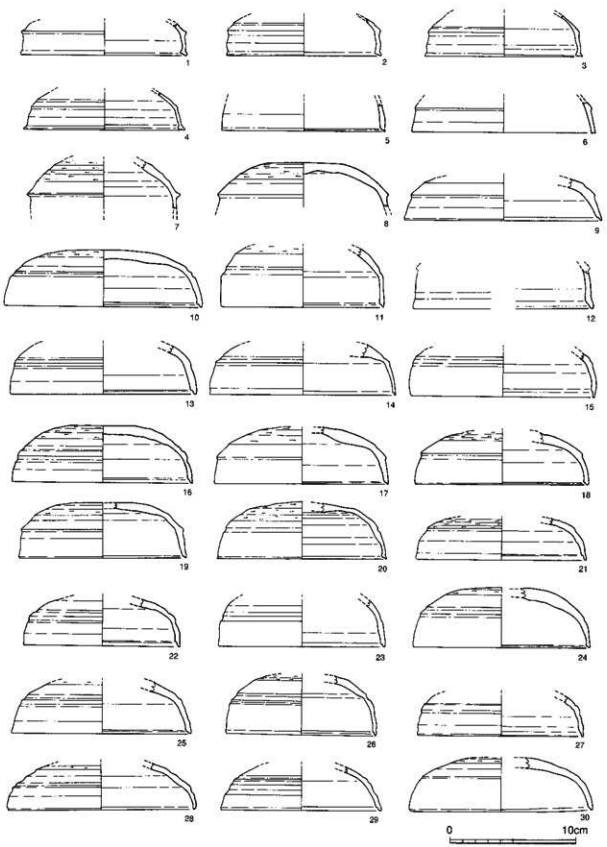
196図26～30は、大谷のA3型におおよそ対応すると思われる。これらの口縁端部にも沈線を入れ段状にしているがこれまでのものより緩く、肩部は沈線によって稜が作り出されているものだけである。時期は出雲3期～4期と推測される。

197図1～9は、大谷A4型に対応するものである。これらは口縁端部よりやや上方に沈線を入れているものである。時期は出雲4期と推測される。

197図10～11は、大谷A4型に対応するものである。これらは、口縁端部に沈線を入れないもので単純にまるくおさめたものである。時期は出雲4期と考えられる。

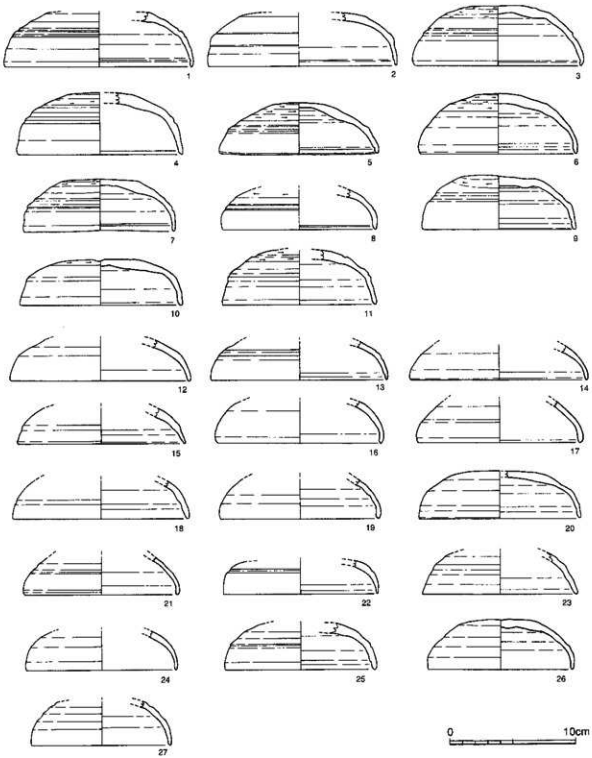
197図12～27は、基本的に大谷A7型に対応するものであるが、一部大谷A5型、A6型、A8型のものが含まれている可能性がある。これらは天井部の回転ヘラ削りが認められないもので、また肩部の稜も退化したものである。なお、口径の大きいものから順に掲載しているが、最大のものが15.8cm、最小のものが11.4cmである。ところで、大谷A7型とA8型は口径の大小によって分けられており、大谷のA8型は口径10cm前後まで小型化したものである。今回、図化した個体から見

る限り、竹ノ崎遺跡ではＡ８型にあてはまる杯蓋は存在しないのかもしれない。そうであれば、これらの蓋の時期は、出雲５期におさまるものと考えられる。

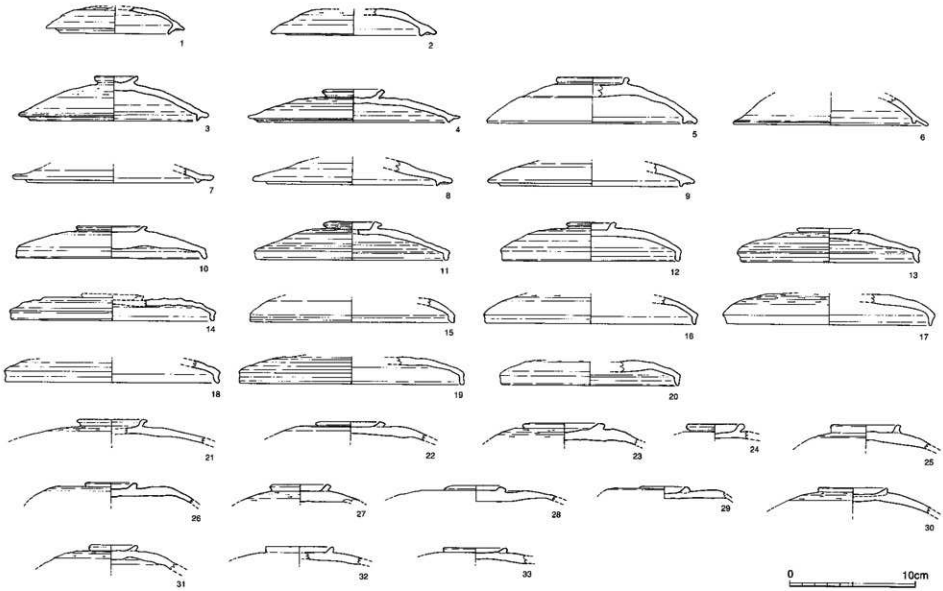



第196図　出土須恵器実測図①(坏蓋)　(Ｓ＝１：３)

**坏G蓋(198図1、2)** この種のつまみ付きでかえりのある小形の蓋は、非常に出土個体数が少なく、セットになる坏Gも対応して少ない。前述した坏H蓋の小型化した型式（大谷のA8型）も出土していないことから、竹ノ崎遺跡では全体的に小型の蓋坏の出土が少ないことが判る。なお、出土したものはつまみが欠損しているが、おそらく乳頭状か擬宝珠状のつまみが付いたものと考えられる。なお、こられの型式は大谷のC型であり、時期は出雲6b～6d期（高広ⅡB期）と考えられる。




**第197図　出土須恵器実測図②(坏蓋)（S＝1：3）**




第198図　出土須恵器実測図③(坏蓋)　(S＝1：3)

**坏B蓋(198図3～33、199図)**　この種類の蓋は、高台付の坏とセットになる蓋である。これらは、大形で輪状つまみが付きかえりがあるタイプ(大谷B1型)、大形で輪状つまみが付きかえりがないタイプ（大谷B2型)、かえりがなく宝珠つまみが付くタイプ、宝珠つまみが付き口縁端部が屈曲し平坦なタイプの大きく4つに分けることができる。

**輪状つまみ蓋（かえり有）(198図3～9)**　大谷のB1型に対応する。これらは、器高や輪状つまみの形状などで細分できる可能性もあるが一括している。時期は高広ⅢA期と推測される。

**輪状つまみ蓋（かえり無）(10～20)**　かえりがなく口縁端部が下方に垂直に折れ曲がった一群であり、大谷のB2型に対応し、一部B3型を含んでいる。これらも細分可能なものであるが一括した。

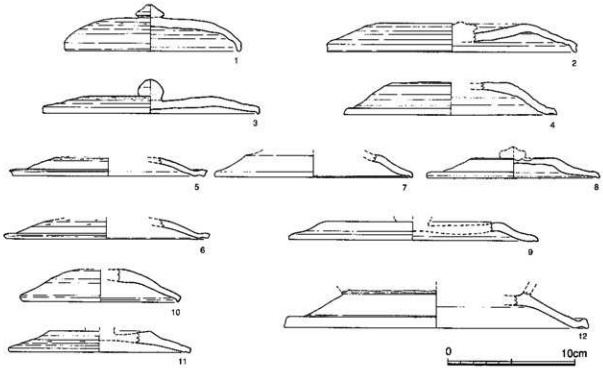
なお、13は天井部を静止糸切りによって切り離している。これらの時期は、ほぼ高広ⅢB期と考えられる。

**輪状つまみ片（21～33）**　輪状つまみの形状は多種多様であり、天井部の切り離しも静止糸切りのもの（22、23）や回転糸切りのもの（28）が存在している。また、つまみの上端部を見ると外側に折れる個体（21)、面を持つ個体（22～28)、面を持たない個体（29～33）が存在する。今回有効な分類を行わなかったが、今後検討が必要であろう。時期は高広Ⅲ期～ⅣB期である。

**宝珠状つまみ蓋(199図1～11)**　宝珠状のつまみが付く蓋は、基本的に口縁端部を下方に折り曲げるものであるが、輪状つまみの蓋と比べ短い。また、器高も扁平であったり口縁が屈曲した形態である。これらは、口縁端部の特徴からいくつかに細分される。なおこの坏蓋の時期は、ほぼ高広ⅣB期と考えられる。

199図1、2は、下方に折り曲げられた口縁端部が長いものである。ただし、2は口縁付近が屈曲したものである。

199図3～11は、折り曲げられた口縁端部が短いものであるが、口縁端部の形態や器高などで細分されるものである。3は非常に扁平なタイプ、4は器高が高く口縁付近で屈曲するタイプ、5と




**第199図　出土須恵器実測図④(つまみ付蓋)　(S＝1：3)**

6は口縁付近が屈曲し、また外傾する面を持つタイプ、7～9は口縁付近が屈曲し、端部の面がまるく口縁端部が短く沈線状のタイプ、10は口縁付近の屈曲が弱く全体的にまるいタイプ、11は口縁端部がほとんど無く沈線状のもので、また口縁付近が屈曲しないで真っ直ぐのびるタイプである。以上宝珠状つまみの杯蓋は様々なものがあるが、口縁端部の長さが短いものほど時期的に新しいものと推測される。

**その他の蓋(199図12)** 12の蓋は、天井部の縁辺部に突帯あるいは環状のつまみが付いたものであり、類例の少ない異形の蓋である。この種の蓋はこれ1点のみ出土している。また、口縁端部はかえりがなく、口縁付近では若干屈曲し面を持ったものである。このような形態の蓋は、いまのところ出土例を知らないが、類似したものとして、出雲国庁跡[注24]で出土しているものが近い。その蓋は天井部の縁辺部に突帯がめぐり、輪状つまみが付くものである。ただし、蓋の形状や器高が異なっているものである。時期はとりあえず、高広ⅣB期と考えておく。

**杯(図200～205)** 坏は、蓋と同様に出雲1期～出雲8期、そして高広ⅣB期までの時期のものが出土している。また、その器形の種類は須恵器出現から存在する坏(坏H)、無高台でつまみ付きの蓋とセットの小形の坏(坏G)、蓋とセットの高台付の坏(坏B)、蓋とセットにならない無高台の坏が存在している。

**坏H(図200、201)** この形態の坏は、多数出土している。分類は、立ち上がりの形状、口径、底部の調整に着目しておこなった。

200図1～5は、大谷A1型にほぼ対応する杯身であり、端部の形状から2つに細分される。1～2は、立ち上がり端部に面があり、そこに沈線を入れているものである。一方、3～5は立ち上がり端部の内面傾に沈線を入れ段状に仕上げているものである。これらの時期は、出雲1期と推定される。

200図6～8は、大谷A2a型に対応するものと思われる杯身である。立ち上がり端部に沈線を入れて段状に仕上げているものであるが、1～5の杯身に比して不明瞭なものである。時期は出雲2期と考えられる。

200図9～21は、大谷A2b型又はA3型に対応する杯身である。特徴は立ち上がりの端部に段が存在していない点であり、また、立ち上がりがある程度高いものである。これらは立ち上がりの傾斜で2つに細分され、立ち上がりが垂直に近いもの(9～12)と立ち上がりが内傾するもの(13～21)が存在する。この2者では立ち上がりが垂直に近いものが古い様相を持っている。時期は出雲2期～出雲3期と考えられる。なお、10の杯身の中からは滑石製の小玉が出土している。

200図22～24は立ち上がりが欠損しているが、大谷のA2型、A3型に対応する杯身と考えているものである。

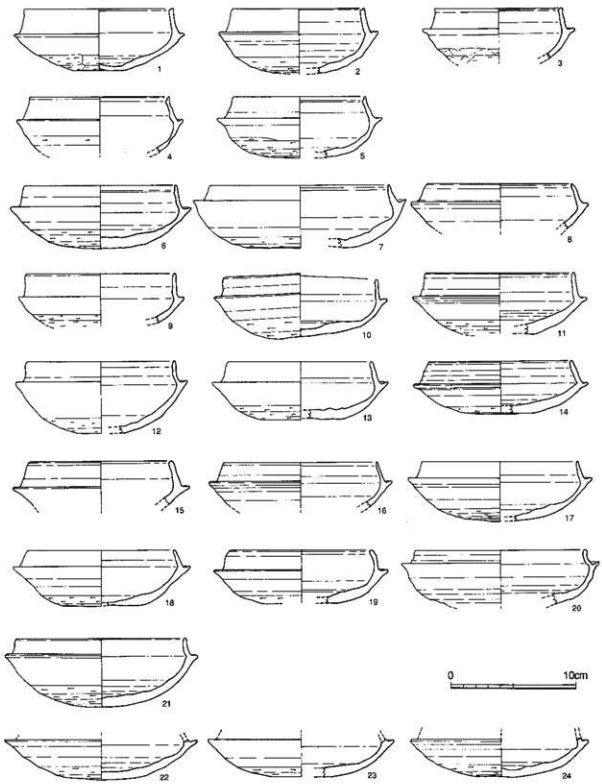
201図1～10は基本的に大谷A4型に対応する杯身であるが、大谷A5型、A6型のものも一部含まれている可能性がある。これらは立ち上がりが内傾し、これまで述べてきた杯身に比して立ち上がりが低いものである。時期は出雲4期と考えられる。

201図11～32は、基本的に大谷A7型に対応する杯身であるが、大谷A5型・6型・8型のものが含まれている可能性がある。これらは、底部の回転ヘラ削りが認められない点が一番の特徴であり、立ち上がりも内傾して低いものである。なお、口径の大きい個体から順に掲載しており、最大のものが13.8cm、最小のものが9.6cmである。図化した個体を見る限り、口径が小さい29～32は、大

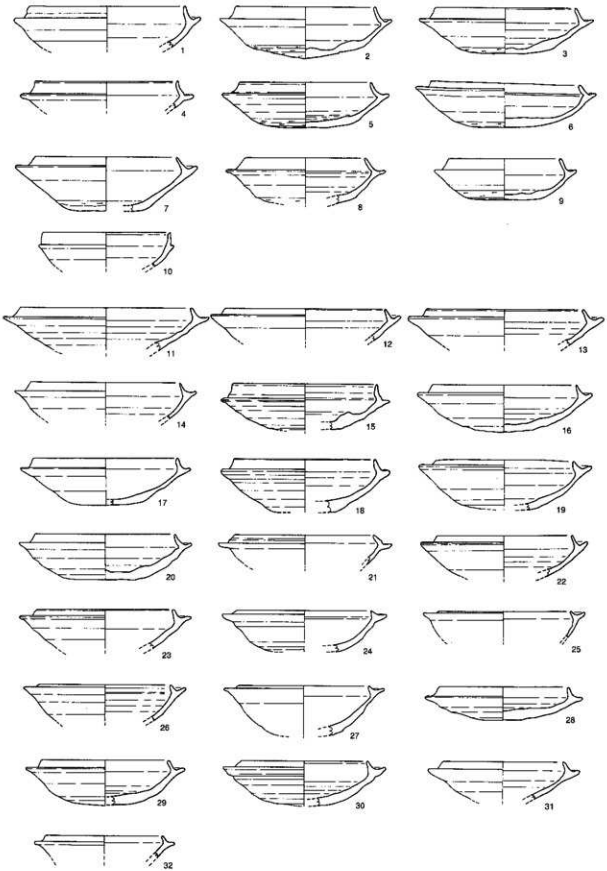
谷A８型に相当するものかもしれない。時期は出雲５期～６期と考えられる。

**杯G（202図１、２）** 無高台でつまみ付蓋とセットとなるこの種の坏は、非常に個体数が少ないものである。なお、大谷の分類ではC型に相当し、時期は出雲６期と考えられる。

ただし、出土した個体はヘラ切り後にヘラ削り調整を施すものであるが、２は底部を静止糸切りによって切り離し、周辺部を回転ヘラ削り調整している。この２の坏については、これまで糸切り




第200図　出土須恵器実測図⑤（坏身）（S＝1：3）




第201図　出土須恵器実測図⑥（坏身）（S＝1：3）

によって切り離す例がないことから、坏Gとすることが問題であるかもしれないが、胎土、色調そして底部の回転ヘラ削り等を見る限りでは、一般的な坏Gとなんら変わることがない。このことから坏Gは、糸切りが採用される7世紀後葉頃[注255]（出雲8期、高広ⅢB期）の時期を考えた方が良さそうである。そうすれば、その時期にも坏Gが製作された可能性が考えられるが、例外的な個体とも考えられ、今後の出土例から厳密に検討しなければならない。

**無高台の坏（202図3～図203）** ここで述べる器形の坏は、セットの蓋が存在しない坏である。これら出土した坏は、基本的に高広Ⅳ期を中心とした時期が考えられる。

202図3～12は口縁部がやや内湾して立ち上がり、厚みが変わらない坏を一括したものであり、個体差が見られる。掲載した個体の底部の残存しているものは、回転糸切り痕が認められる。時期は高広ⅣA期と推測される。

202図13～19は、口縁部が内湾して立ち上がり端部が肥厚するタイプの坏である。掲載した個体は、底部を回転糸切りによって切り離したものである。これらは、器高、口径等比較的近似しているが、やや18と19は異なる器形である。時期は高広ⅣA期頃と考えられる。

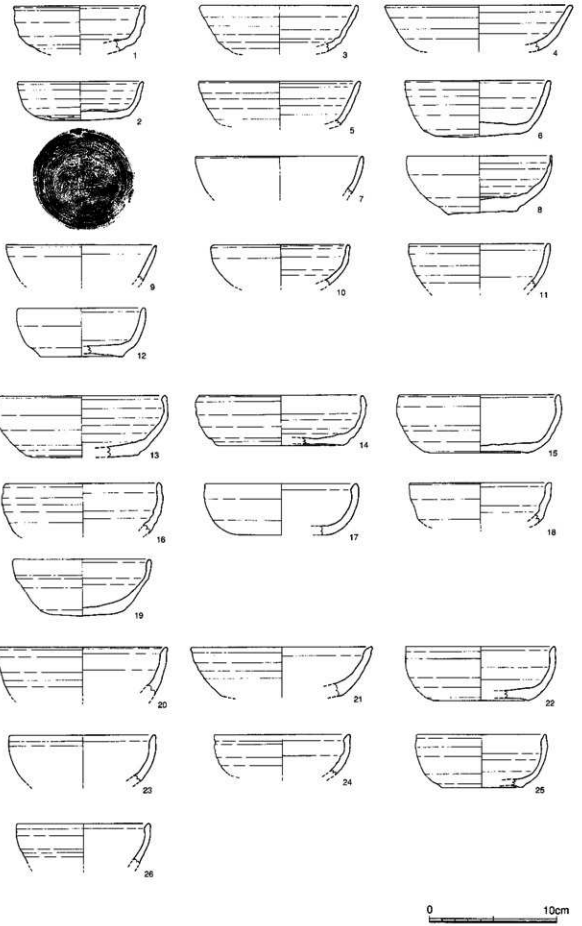
202図20～26は、口縁部が内湾して立ち上がり、端部が肥厚し外面に若干屈曲するタイプの坏であるが、個体差が多いものである。掲載した個体では、底部回転糸切りである。時期は高広ⅣA期と推測される。

203図1～7は口縁が内湾して立ち上がり、端部が外面に屈曲するもので、前述の202図20～26の坏に比して、外面により屈曲したものである。また、特に1は屈曲が激しいものであり、他のものとはやや異なる。これらの坏は、器高が浅いもの（2～12）と深いもの（13～17）に細分することができ、器高が浅いものは比較的口径も近似する。掲載した個体では底部回転糸切りであり、時期は高広ⅣA期と考えられる。

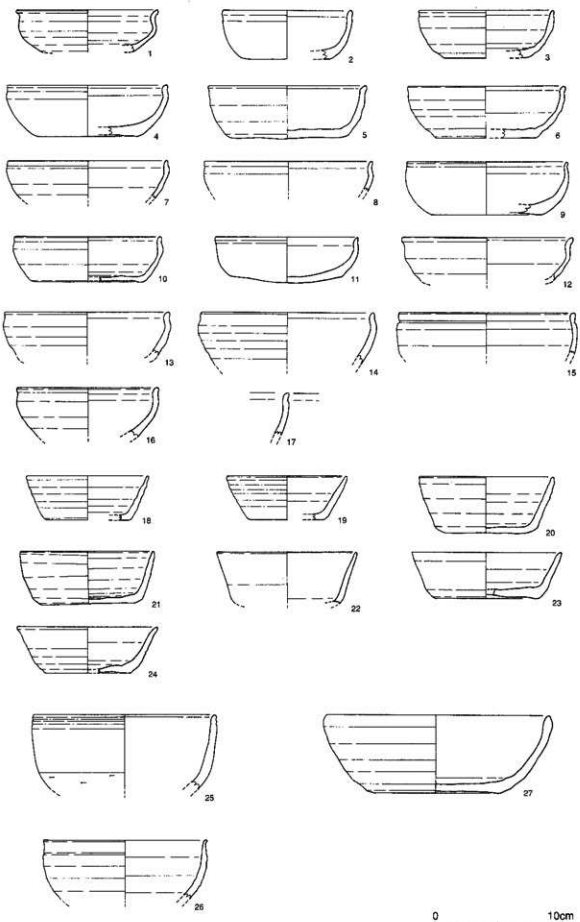
なお、この種の坏は、屈曲が明瞭なものの方が古いという指摘[注257]があり、ここで述べる1～7の坏が202図20～26の坏より古く位置付けられるのかもしれない。

203図18～24は、口縁が直線的で外方に広がり、口縁端部がシャープな坏である。これらの掲載した個体の底部は、回転糸切りである。また、口縁の広がりによって細分でき、若干広がる個体（18～23）と大きく広がる個体（24）とに分けられる。この細分した2者では、口縁が大きく広がる個体の方が新しく位置付けられ、時期は前者が高広ⅣA期、後者が高広ⅣB期に相当するものと思われる。

203図25～27は、これまでの無高台の坏とは異なる器高が深い坏である。25は椀形のもので、口縁端部に2条の沈線が施され、底部周辺には回転ヘラ削りが認められる。時期は高広Ⅲ期頃と推測される。26は、口縁端部付近がシャープ、外面に稜が認められる坏である。時期的な位置付けが難しいが、高広ⅢB期前後であろうか。27は、口縁が内湾して立ち上がり肥厚する口径が大きい坏である。これも時期的な位置付けが難しいが高広Ⅳ期を中心とした時期であろうか。




第202図　出土須恵器実測図⑦(坏)　(S＝1：3)




第203図　出土須恵器⑧(坏)　(S＝1：3)

**無高台坏底部（図204）** 出土している無高台の坏底部は、口縁部の立ち上がり等からある程度細分可能であるが、一括している。底部の切り離しを見ると静止糸切りのもの（1～3）、回転糸切りのもの（4～9）、不明なもの（10、11）が存在する。これまで述べた無高台坏では、静止糸切りの個体は見られなかったが、口縁が欠損しているものを検討した場合、静止糸切りの個体も存在するようである。

**坏B（高台付の坏）（図205）** これらは高台が付いた坏であり、基本的に蓋がセットになるものと考えられるが、どの蓋の型式とセットになるのかは不明である。なお、全体の形状が分かる程図化できる個体は少ない。分類は口縁の形状、高台の位置を目安にしておこなった。

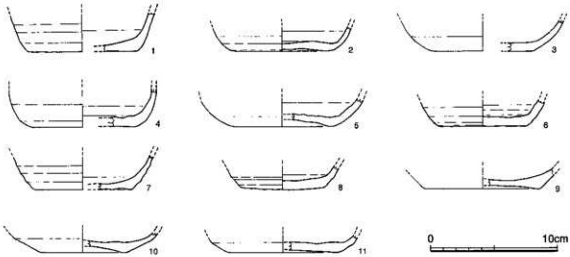
205図1～4は、口縁が内湾して立ち上がる坏であり、高台は底部の内側に付くものである。なお、これらは細分も可能であるが、図化できるものが少数であるので一括している。また、底部の調整は静止糸切りのもの（3）と回転糸切りのもの（4）が存在し、時期的にも幅があるものと思われる。時期的には、口縁があまり上方に立ち上がらない1が古く、3、4の順に新しく位置付けられると思われるが、概ね高広ⅢA期～ⅣA期と考えられる。

205図5～7は、口縁がやや外方に向かって直線的に立ち上がり、高台が底部の外周に付いた坏である。時期は、高広ⅣB期と推測される。205図8と9は、口縁が外方に向かって直線的に立ち上がり、深い坏である。底部が存在していないので不明な点があるが、高台は底部の外周に付くものと推測される。時期は高広ⅣB期と思われる。

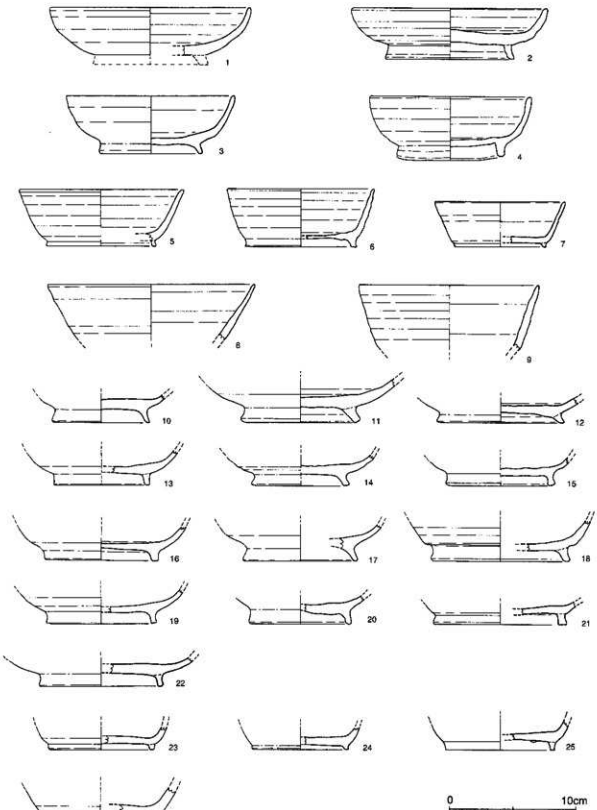
205図10～26は、高台付の坏底部である。これらは高台の位置で大きく2つに分けることできる。

10～22は高台が底部の内よりに付けられている坏である。この中では、口縁部の立ち上がり等から11が最も古い可能性がある。また、底部の切り離しは10～13が静止糸切り、14～16が回転糸切り、17～22が不明なものである。時期は高広ⅢA期～ⅣA期と思われる。

23～26は高台が底部の外周に付けられている坏である。26はやや器壁が厚いもので、特殊なものである。これらの時期は高広ⅣB期と推測される。

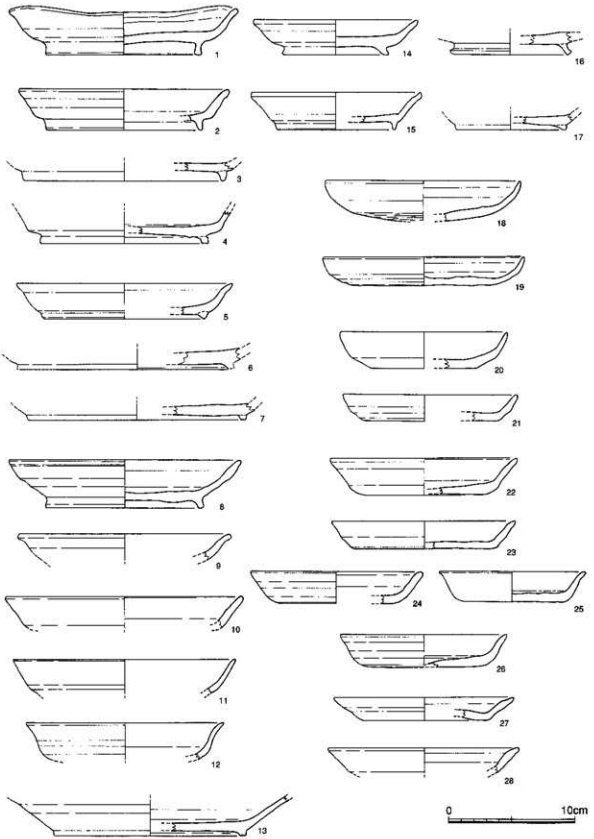



第204図　出土須恵器実測図⑨(坏底部)　(S＝1：3)




第205図　出土須恵器実測図⑩（高台付坏）（S＝1：3）

**皿(図206)**　皿は、高広ⅣA期から出現する器形であるが、竹ノ崎遺跡では、高広ⅣA期～Ⅴ期頃のものが出土している。器形は、高台の付くものと付かないものの2種類が存在している。




第206図　出土須恵器実測図⑪(皿)　(S＝1：3)

**高台付皿（206図1～17）** 高台付の皿は、大形のサイズ（1～13）と小形のサイズ（14～17）に2つのサイズに分けることができる。また、高台の付く位置によって細分され、底部の外周につくものが、内側に付くものより時期的に新しいものと推測される。

1～4は、底部の内側よりに高台が付く皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部が外に若干折れる形態である。掲載したものでは底部の切り離しは、回転糸切りである。時期は高広ⅣA期と推測される。

5～7は、底部の外周に高台が付けられられた皿である。全形の分かる個体は1のみであるが、口縁部の形態は、高台が内側に付く皿とあまり変わらない。時期は高広ⅣB期と推測される。

8は、口縁部があまり立ち上がらないで直線的な皿であり、あまり見られない形態である。底部は回転糸切りである。時期は高広Ⅳ期と思われる。

9～12は皿の口縁部である。これらの中で、12はやや見られない形態の皿であるので、他の器種である可能性が存在する。時期はどれも高広Ⅳ期と思われる。

14～17は小形の皿であるが、16と17は口縁部が欠損しており、皿以外の器種である可能性がある。これらも高台の付く位置によって細分され、底部の内側に付くもの（14、16）と外側に付く（15、17）ものがある。高台が内側に付く14は高台が内傾して踏ん張り、口縁部は外側に開くものである。時期は高広ⅣA期と思われる。高台が外周に付く15は高台が直立し、口縁部が直線的に外に開くものである。また、口縁端部が若干屈曲している。時期は高広ⅣB期と考えられる。

**無高台の皿（206図18～28）** 高台の付かない皿も、大形のものと小形のものにサイズで分類される可能性があるが、今回は一括した。分類は、口縁部の形状に主に注目しておこなった。

18と19は、やや口径が大きめで口縁が内湾して立ち上がる皿である。これらの底部は、18がヘラ切り後に回転ヘラ削りで仕上げられ、19は回転糸切りである。なお、18は盤と呼んだ方が適切であるのかもしれない。時期は高広ⅣA期と推測される。

20～26は、やや口径が小さめで口縁部が直線的になる皿である。これらは、口縁部の形態と底部の切り離しから2つに細分される。20と21は、口縁部が内湾気味に立ち上がる皿であり、底部は静止糸切りである。時期は高広ⅣA期と推測される。22～26は、口縁部が直線的に外に広がる皿であり、底部は回転糸切りである。時期は高広ⅣA期と推測されるが、前述した20、21の皿よりやや新しく位置付けられる一群である。

27は口縁部が大きく外に広がり、口縁部先端が細くなる皿である。また、底部は回転糸切りであり、底部の外周が設置部分であり、平坦なものではない。時期は高広ⅣB期と考えられる。

28は皿の口縁である。無高台の坏と思われるが、高台の付く皿である可能性も存在する。

**高坏（図207～209）** 高坏は、出雲1期～出雲6期頃までのものが出土しているが、全対の形が分かるものは、極めて限られている。高坏の種類は、大谷の低脚無蓋高坏A型、長脚無蓋高坏A型・B型の3種類が出土している。

**低脚無蓋高坏A型（207図1～20）** この器形の高坏は、出雲1期から存在しており、透かしが1段の無蓋高坏である。なお、坏部のみの破片では、長脚無蓋高坏B型と区別がつかないものであるので、別に一括して掲載している。

207図1～3は、大谷A1型の坏部である。これらは坏部の中程に突帯を巡らし、櫛描の波状文が施されている。時期は出雲1期～2期と推測される。

4～9は高坏の脚部である。脚端部の形状で大きく分けられ、外面に稜をもつもの（4）と稜がないもの（5～9）が存在する。また、前者は大谷A1型、後者は大谷A2型に相当するものと思われる。これらの時期は出雲1期～2期と推測される。

10と11は完形に復元できた高坏である。坏部は稜のない内湾するもので、脚端部外面は外傾又は、直立する面をもつものである。また、透かしは2方で、三角形と切れ目がセットになっている。これらは大谷A5型であり、時期は出雲5期前後と推測される。

12～20は大谷A3型～A6型の高坏脚部である。これらは、脚端部外面に内傾または直立する面を持つものである。また透かしの方向で細分され、4方向のもの（12）、3方向のもの（14、15）、2方向のもの（16～20）に分けられる。なお、13は2方向か4方向なのか明確にできないが、おそらく2方向のものと推測される。図化した脚部の透かしの形状を見ると、4方向と3方向のものは方形であり、2方向のものは三角形である。大谷の分類では、4方向と3方向のものはA3型であり、出雲3期～4期と考えられ、2方向のものはA4型又はA5型に相当し、出雲4期～出雲5期頃と思われる。

**長脚無蓋高坏B型（207図21～25）** この器形の高坏は出雲3期から出現しており、2段透かしで坏部が大きいものである。なお坏部は低脚無蓋高坏A型と一括して記述する。よって、ここでは2段透かしの脚部について述べる。

21と22は、大谷B2型又はB3型の高坏脚部である。これらは3方向に透かしがあるもので、脚端部外面は内傾又は直立する面をもつ。透かしの形状は、21が三角形で22が方形である。時期は出雲4期～5期と推測される。

23は大谷B5型の高坏脚部である。透かしは下段のものしか分からないが、方形である。時期は出雲5期～6期と推測される。

24、25は透かしの方向が不明な脚部である。

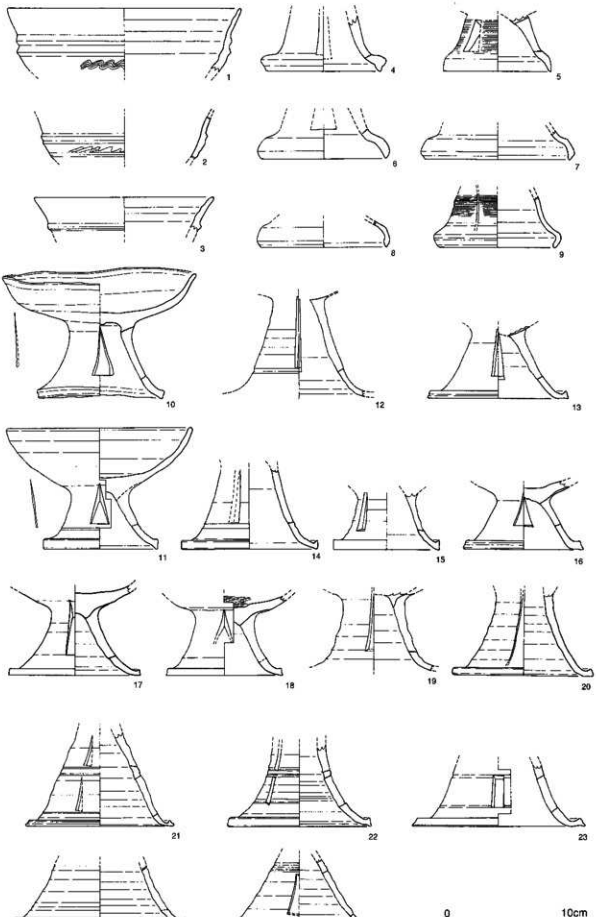
**坏部（低脚A・長脚B型）（208図1～19）** ここで記述する低脚無蓋高坏A型または、長脚無蓋高坏B型の坏部は、出雲3期以降の時期が考えられるものである。これらは、坏部の形状から大きく2つに分けられる。

1～3は坏口縁部と坏底部の境が明瞭であり、突帯や沈線が認められる一群である。ただし、2は突帯や沈線が無くやや新しい器形である。これらは、大谷低脚A3・A4型（長脚B1～B3型）の坏部と考えられる。時期は出雲3期～5期と推測される。

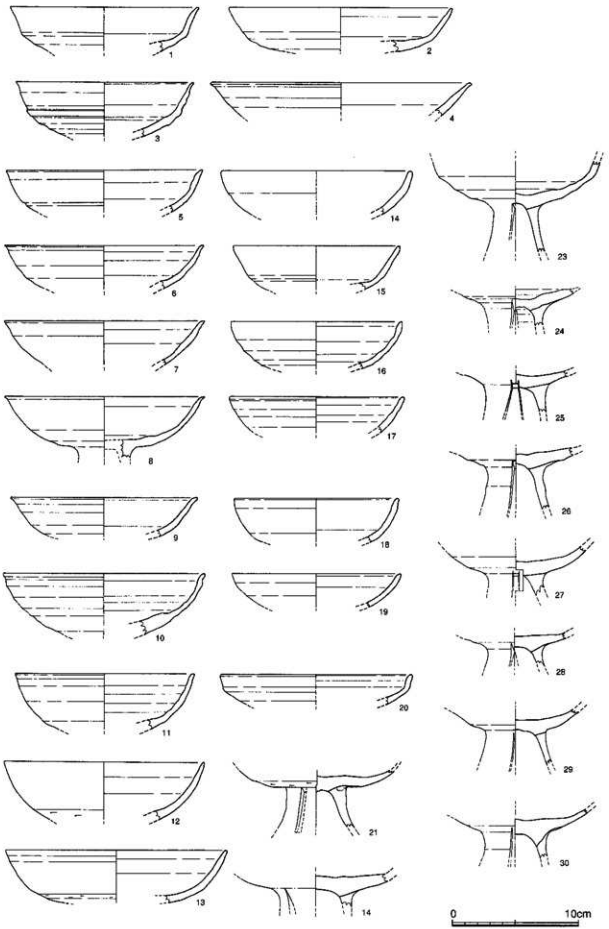
4～19は坏口縁部と坏底部の境が不明瞭なもので、坏口縁が内湾する一群である。これらは、大谷の低脚A5～A7型（長脚B4～B6型）の坏部と考えられる。また、坏口縁端部の形状から2つに細分される。5～10の坏部は端部が若干外反しシャープなものであり、11～19の坏部は端部が外反しないでまるいものである。なお、この一群の坏部の時期は出雲5期～6期と推測される。

**その他の坏部（209図20）** 20は、大谷の分類した高坏とは系譜の異なる形状の坏部である。これは坏部口縁が垂直に近く屈曲するものであり、坏部は浅いものと想像される。また、高坏ではなく盤の可能性も存在している。時期については、良く分からないが、7世紀以降のものか。

**接続部（低脚A・長脚B型）（208図21～30）** 低脚無蓋高坏A型または、長脚無蓋高坏B型の高坏の接続部は、時期的に出雲3期以降が考えられるものである。分類は透かしの方向と形状で分けられる。なお、30は透かしの方向と形状が不明なものである。




第207図　出土須恵器実測図⑫(高坏)　(S＝1：3)




第208図　出土須恵器実測図⑬(高坏)　(S＝1：3)

21と22は、３方向に透かしが見られるもので、方形と三角形のものがある。大谷の低脚Ａ３型(長脚Ｂ２・Ｂ３型）の高坏に相当するものである。時期は出雲３期～５期と考えられる。

23～27は、２方向に方形透かしが見られるものである。大谷の低脚Ａ４・Ａ５型(長脚Ｂ５型？）の高坏に相当するものと思われる。時期は出雲４期～５期と推測される。

28と29は、２方向の三角形透かしのものである。大谷の低脚Ａ４・Ａ５型（長脚Ｂ５型？）の高坏に相当するものである。時期は出雲４期～５期と推測される。

**長脚無蓋高坏Ａ型(209図)**　この器形の高坏は出雲３期から出現するものである。２段透かしである点はＢ型と同じであるが、坏部が小形で口縁部が直立するものである。

209図１、２の脚部では、脚端部外面の形状と透かしで細分されるものである。１は脚端部が外傾して３方向の方形透かしがあるものである。これは大谷の長脚Ａ２・Ａ３型に対応し、時期は出雲３期～４期と推測される。２は、脚端部外面がやや内傾して２方向の方形透かしがある。大谷の長脚Ａ５・Ａ６型に対応し、時期は出雲４期～５期と推測される。

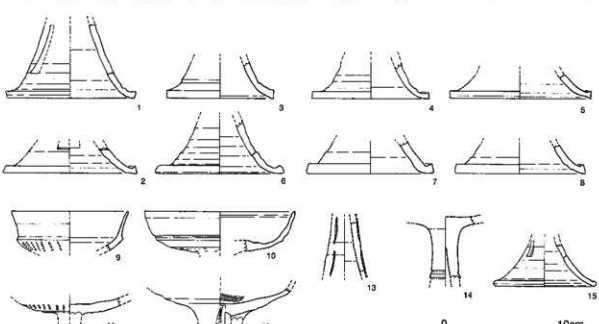
３～８は透かし方向、形状が分からない脚部である。これらは脚端部外面の形状で、直立するもの（３～５）と内傾するもの（６～８）に二分される。

９、10は坏部である。９は坏底部と口縁部の稜が明確で、刺突文が施され、古い様相を持つが、例のない形状であり、時期については不明である。10は大谷Ａ５型以降の坏部であろう。

11、12は接続部である。11端突文が施され、12は２方向の方形透かしがあるものである。

13、14は径の細い脚部である。13は切れ目の３方向透かしが見られ、14は透かしが不明なものである。これらは大谷のＡ７型と想像され、時期は出雲５～６期と思われる。

15は小形で３方の方形透かしの脚で、脚端部外面が明瞭な面を持たないやや異例のものである。




**第209図　出土須恵器実測図⑭(高坏）（Ｓ＝１：３）**

**甕(210図1～14)** 甕は、出雲1期～6期頃までのものが出土しているが、全体の形が分かるものはなく、ある程度様子が判るものも少なかった。

1、2は口縁である。これらは、端部の形状等から大谷A4型～A8型に相当するもと思われる。時期は出雲3期以降と思われる。

3～14は口縁部が欠損している甕である。これらは大形のもの（3～5）と小形のもの（6～14）に分けられる。

大形のものは大谷の型式にないものであるが、他の器種との共伴事例等を見ると、おおよそ出雲1期～2期の時期が考えられる

小形のものは、頸部が短く大きいことや波状文が丁寧であることから、7が最も古い器形であり、大谷A1型又はA2型に相当すると考えられる。時期は出雲1～2期と推測される。

小形の8～14は、頸部が細い器形であり大谷A5型以降のものである。8と9は頸部に波状文があるもので、大谷A5型と考えられ、時期は出雲3期～4期と思われる。10は胴部に刺突文があることから大谷A5～6型と考えられ、出雲3期～5期といった時期と思われる。11は胴部片であるので詳細は判らないが、刺突文があるので大谷A5～6型に相当するものと思われる。12は胴部、頸部伴に文様がないので大谷A7型に相当し、時期は出雲5期前後と推測される。なお、13と14は底部である。

**直口壺(210図15～17)** 直口壺として判別できるものは3点存在する。大谷の型式分類では検討されていないので、位置付けは困難な器種である。15と16は胴部の形態は異なるが、調整はカキメではなく、回転ナデである。このような調整のものは横穴墓の共伴事例を見る限りでは、出雲4期～5期頃に多いので、時期もそのあたりと思われる。17は口径が大きい口縁部である。この個体の時期的な位置付けについては不明である。

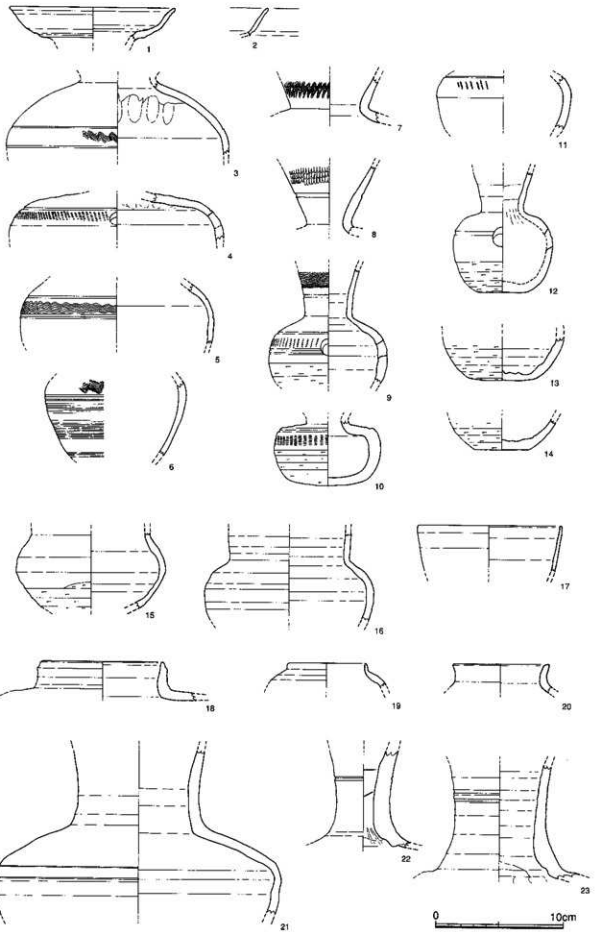
**短頸壺（210図18～20）** 短頸壺は、大形のもの（18）と小形のもの（19、20）が出土している。いずれの個体も蓋とセットで焼かれていることが、頸部の状態で判るものである。これらは、時期的な位置付けが明確にできないものであるが、だいたい古墳時代後期以降のものと考えられる。

**長頸瓶（頸部）（210図21～23）** 長頸瓶は、出雲5期頃から見られる器種である。21～23は、長頸化した頸部が外反するタイプのものであり、大谷4型以降のものと推測される。よって、時期は出雲7期以降（高広ⅢB期）のものと推測される。

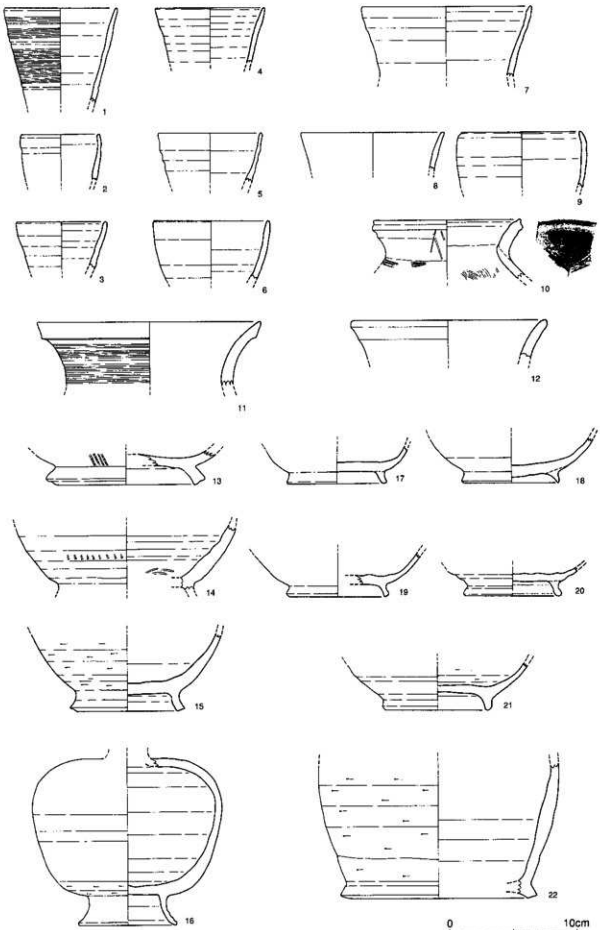
**壺・瓶類口縁（211図1～12）** ここで取り上げるものは、長頸瓶、平瓶、提瓶、長頸壺、直口壺広口壺等の口縁部である。口縁部は、口縁端部が単純な筒状のもの（1～9）と面を持つもの（10～12）に大きく2つに分けられる。なお、これらの時期は詳細は判らないが、概ね出雲4期以降のものがほとんどと考えられる。

1～9の単純な口縁部は、口径によって細分され、小さいもの（1～6）と大きいもの（7～9）が存在する。口径が小さいものは長頸瓶、提瓶、平瓶等の器種である可能性が考えられるものである。1は長頸瓶の口縁であり、大谷1～3型と推測されるが、他のものは特定できない。口径が大きいものは、直口壺や他の壺の口縁と思われる。この中で、9はやや内湾気味の口縁で端部が内側に折れるものであり、壺類以外の可能性も考えられる。

10～12の口縁部は、いまひとつ全体の器形がイメージできないが、壺と考えて良いのではなかろうか。




第210図　出土須恵器実測図⑮(鉢・直口壺・短頸壺・長頸瓶)　(S＝1：3)



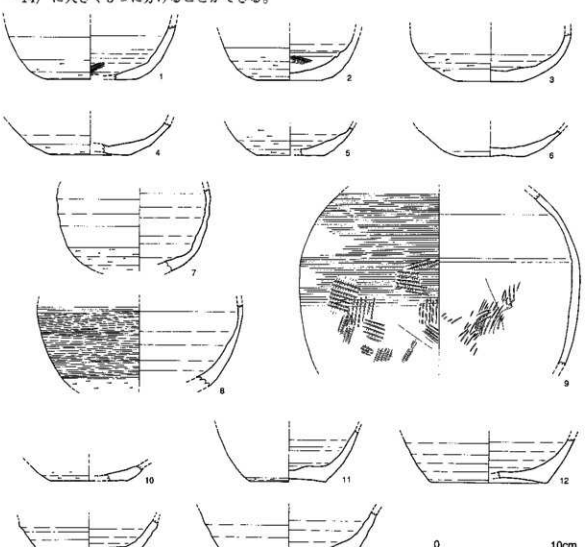

第211図　出土須恵器実測図⑯（壺・瓶類口縁・高台付底部）（S＝1：3）

**壺・瓶類高台付底部（211図13～22）** 高台の付いた壺・瓶類底部は、基本的に胴部が膨らむタイプと考えられるが、22のみは胴部が膨らまない長胴のものであり、他のものとは器形が異なるものであり、時期的にも最も新しいと推測される。

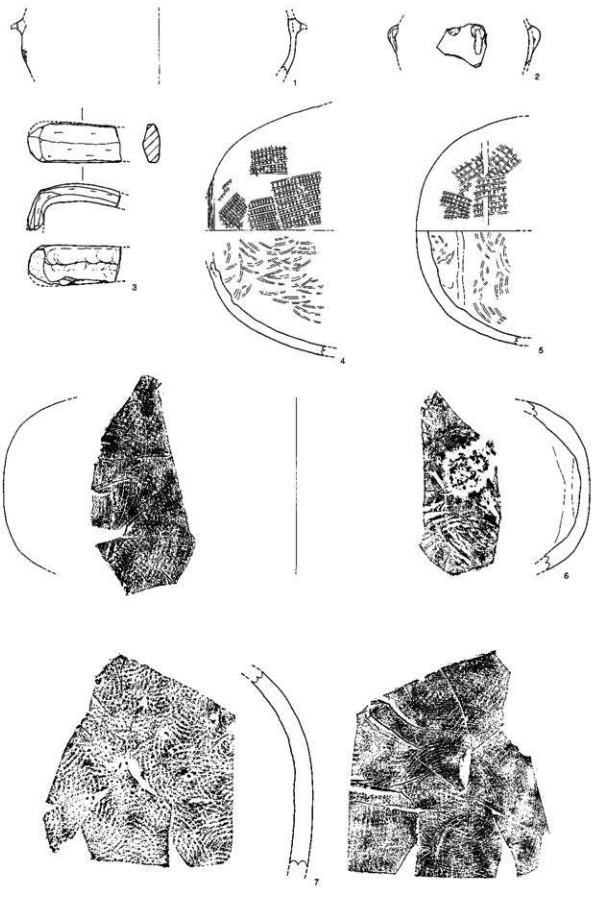
13～21は、長頸瓶または、長頸壺の底部と推測されるもので、13～16は長頸瓶の底部と断定できるものである。13～15は、おそらく胴部の肩が張るもので大谷３型～５型に相当するものと考えられ、時期は出雲６期以降のものと推測される。16は胴部が球形に近いものであり、大谷の２型と思われ、時期は出雲５期～６期と考えられる。また、17～21の底部では21の底部に糸切り痕が認められることから、これらの中では相対的に新しいものと思われる。

22は内傾する高台に長い胴部がつくものである。このような器形の壺は、あまり類例がないが、東出雲町淺山池遺跡(SE28)の土坑出土の壺が類似している。この淺山池遺跡の壺は、平安時代前半頃、実年代では９世紀末～10世紀前半頃と考えられており、22の壺もその前後の時期と思われる。

**壺・瓶類底部（図212）** 壺・瓶類の高台の付かない底部は、長頸瓶、長頸壺、直口壺等の器形が想定されるものである。また、平底のもの（１～６）、丸底のもの（７～９）、糸切り底のもの（10～14）に大きく３つに分けることができる。




第212図　出土須恵器実測図⑰（壺・瓶類底部）（S＝1：3）




第213図　出土須恵器実測図⑱（提瓶・平瓶・横瓶類）（S＝1：3）

212図1～4は、平底でヘラ切りによる切り離しが行われた底部であり、基本的に胴部下半はヘラ削りであるが、6のみナデ調整である。これらは、時期的な位置付けは難しいが、おおよそ出雲4期以降のものと推測される。

212図7～9は、丸底の底部である。9は胴部上半にカキメを施した大形の壺である。これらの時期は、だいたい出雲4期～6期頃と思われる。

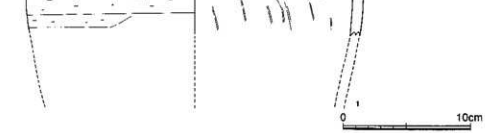
212図7～9は糸切り痕が認められ底部である。11以外は静止糸切りである。これらの時期は糸切りであることから、出雲8基以降または、高広ⅢB期以降と推測される。

**提瓶・平瓶・横瓶（図213）** 1～2は、提瓶の把手付近の破片である。両者とも把手の退化した形態のものである。1はカギ状の把手であり、大谷の「ウ型」の把手に相当するものである。時期は出雲3～4期と推測される。2は退化した環状の把手であり、大谷の「2型」の把手であり、時期は出雲3期～5期と思われる。

3は平瓶の把手である。これは肩部の張った扁平な器形の平瓶に伴う把手と考えられる。このような器形の平瓶は、宍道町山守免遺跡3区SB03や古曽志平廻山1・2号窯跡灰原等から出土[2P29]しており、その事例から見て高広ⅣB期～Ⅴ期前後の時期が想定される。

4～7は横瓶である。いずれも全体の器形が判らないものである。横瓶は、横穴墓の出土事例から出雲5期頃から出現する器種であるから、4～7もその時期頃と推測される。

**把手付き壺（図214）** ここで言う把手付き壺としたものは、「双耳壺（瓶）」「三耳壺（瓶）」等と呼ばれている壺で、膨らまない長胴の胴部に扁平な把手が付くものである。1は、把手付近の破片であり把手の上下に各1条の沈線が巡るものである。把手の形状は破片であり不明であるが、円形の孔が1つ空く形状と推測される。この壺の時期は、出雲地方で完形の出土例が見られないことから明確に位置付けることは不可能であるが、畿内の出土例[3C30]等を参照にすると平安京Ⅱ期古～Ⅱ期新（9世紀中葉～後葉）頃に見られることから、おおよそこれぐらいの時期が想定される。




**第214図　出土須恵器実測図⑲（把手付壺）（S＝1：3）**

**その他(図215)**　これまで述べてきた器種で、あまり一般的でない器形のものについて、ここで述べておきたい。

1～5は蓋であるが、有蓋高坏や壺の蓋と推測されるものである。1はつまみの付いた蓋であり、おそらく有蓋壺坏とセットになるものと考えられる。時期はおそらく出雲1期と推測される。

2～4は、坏蓋と明確な違いがないものだが、天井部に見られるカキメから有蓋高坏、壺の蓋として判断した。時期は、類似した蓋坏の時期から推測して出雲3期～4期頃と考えられる。5は口縁端部の内面が肥厚する蓋である。坏蓋と異なり肩部の稜がないものであり、壺類の蓋と判断した。時期については良く判らない。

6～10は壺甕類、または甕の口縁と推測されるものである。いずれも単純な口縁であり、外に広がるものである。時期については不明である。

11は鉢と推測される器形のものである。口縁端部はシャープで、底部は手持ちヘラ削りである。類例がないもので詳細については判らない。

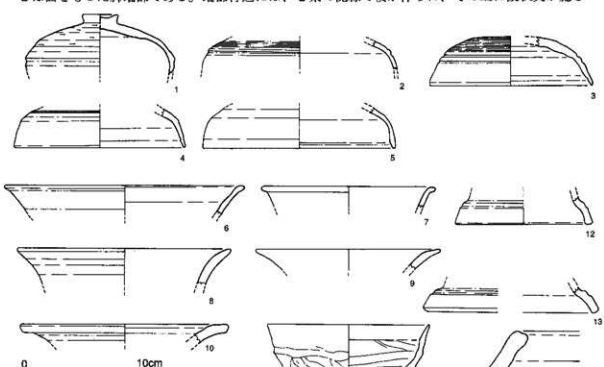
12と13は脚部と思われるものである。どちらも外面に段が付くタイプのものである。全体の器形は良く判らないが、脚付壺等の脚に類似しており、その可能性が考えられる。時期については、良く判らない。

14は、やや器壁の厚い口縁部である。その端部には、面があり沈線が入り窪むものである。後述する大形の鉢である可能性も考えられるが、やや異なるものである。時期については不明である。

**高坏形器台（図216）**　1、2は、高坏形の器台の大きく広がる脚部である。[7931] 1、2は同一個体である可能性が高いが、良く分からない。

1は、3条の沈線で区画された上段と下段の部分である。上段、下段とも5方向千鳥に三角形透かしがあり、波状文で装飾されている。

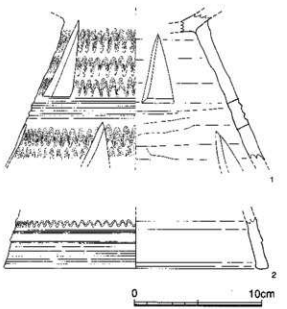
2は面をもった脚端部である。端部付近には、2条の沈線で稜が作られ、その上に波状文が施さ




**第215図　出土須恵器実測図⑳(壺・その他器種)（S＝1：3）**

れている。

このような高坏形の器台は、出雲地方では、7例出土している。その遺跡は、松江市乃木二子塚古墳、石屋古墳、安来市大坪3号墳等の遺跡[注32]である。須恵器の時期は、出雲1期～3期の時期として考えられている。また、216図の器台とよく似た接続部から脚が広がる器形のものは、出雲1期～2期であるから、この時期と考えて問題はないものと思われる。さらに、脚部が大きく広がる形態の器台は、畿内の陶邑の編年では、陶邑Ⅰ形式[注33]で見られる器種であることから、併行関係の点からも矛盾は生じないものと考えられる。



第216図　出土須恵器実測図㉑(器台)
(S＝1：3)

また、類例のほとんどは古墳からの出土例であることから、竹ノ崎遺跡のものは本来は上方の上野古墳群中の古墳（未発掘）に伴っていたものが転落した可能性が十分考えられる。

**大形鉢(図217)**　大形の鉢が4個体出土している。これらは、口縁に向かって大きく開き内湾して立ち上がる形態のものであり、底部は丸底と推測されるものである。また、3のように把手が付くものも認められ、本来は把手が1対付けられているものかもしれない。これらは、口縁部の形態等から2つに分けられるものである。

1と2は口縁端部に面を持ち、そこに沈線を入れ巡んでいるものである。また、端部付近外面には、2条以上の沈線を巡らしている。調整は外面が平行叩きであり、内面に同心円文の当て具痕が認められる。

一方、3、4は口縁端部はまるくて面を持たないものである。また、外面の沈線は1、2に比してより下方に巡り条数も少ないものであり、内面の当て具痕も放射状のものが認められる。さらに器壁もやや薄いものである。

これらの大形鉢の類例は、松江市福富Ⅰ遺跡、玉湯町岩屋遺跡、松江市連行遺跡等[注34]があり、そのうちの玉湯町岩屋遺跡では、高広ⅣA期の坏類と共伴している。このことから竹ノ崎遺跡出土のものも高広ⅣA期前後の時期が想定される。

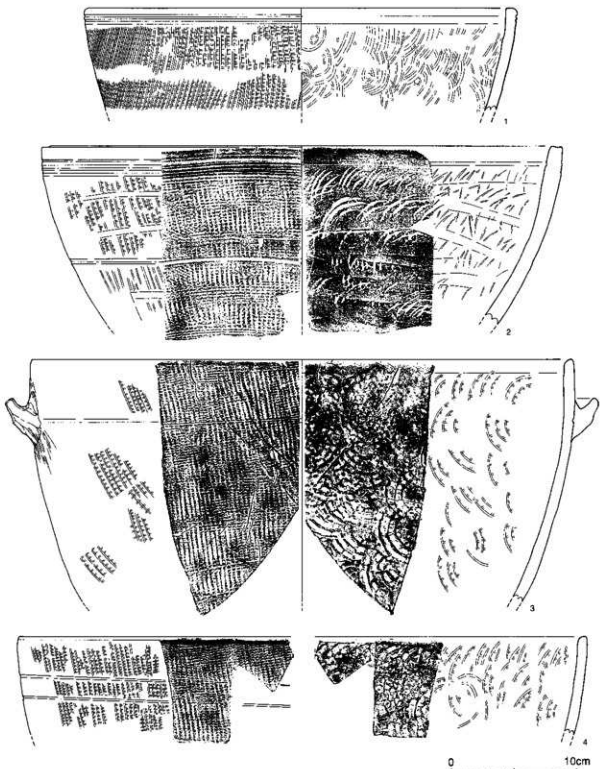
**中形甕(図218)**　ここで扱う甕は、頸部が短いタイプの甕であり、口径が20cm前後のものを指している[注35]。これらの時期は、概ね出雲4期以降のものと推測されるものである。また、口縁端部の形状で大雑把であるが2つ程に分類される。

218図1～3は、口縁端部がシャープで尖り気味のものである。1は口縁部が外に大きく屈曲するもので、2と3はあまり屈曲しないものである。

218図4～8は口縁端部がシャープでないものであり、面があったりまるくおさめているものである。4は口縁部が外に屈曲するものであり、6と8はあまり屈曲しないで、頸部は直立しない形態のものである。また、7は複合口縁があまり明瞭でなく、頸部から滑らかに口縁になるものであり、他のものより相対的に新しい時期のものと推測される。

**大形甕（図219、220図1）** ここでの大形甕は、頸部が長く大きく開く形態のもので、頸部に波状文を施しているものである。また、今回図化したものは、概ね出雲4期以降の時期が想定されるものである。

これらの甕は、口縁の形状で一応2つに分けられる。



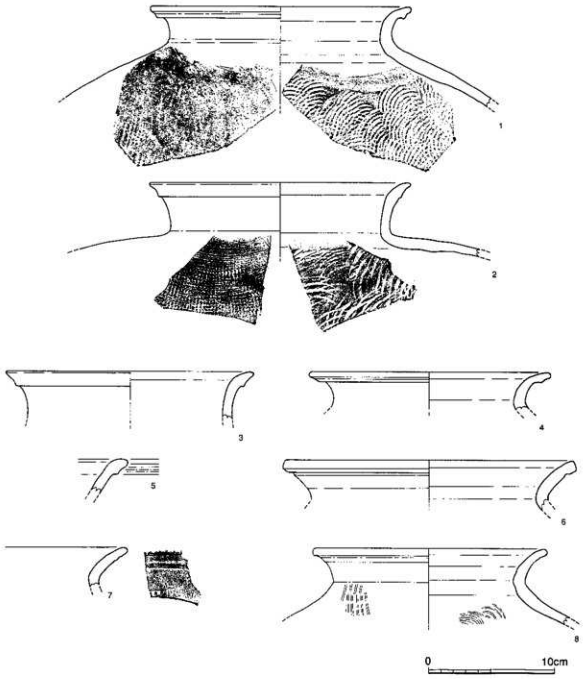

第217図　出土須恵器実測図㉒（大鉢）（S＝1：3）

219図1～3は、口縁部の稜がシャープなものであり、頸部との境にしっかりした段が付くものである。1は、沈線で三段に区画された頸部に波状文を施すものである。

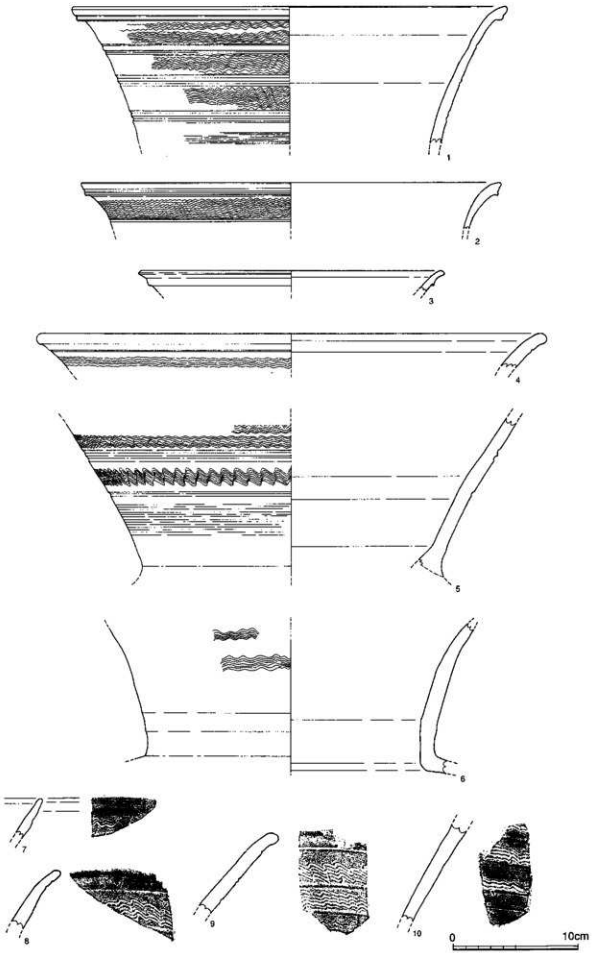
219図4、7～9，220図1の口縁部は、口縁の稜部があまり突出しないで頸部との段が付かないものである。この中で7～9は、段が最も明瞭でないものであり、他のものより時期的に新しく位置付けられるものと考えられる。

なお、219図6，10は頸部の破片である。

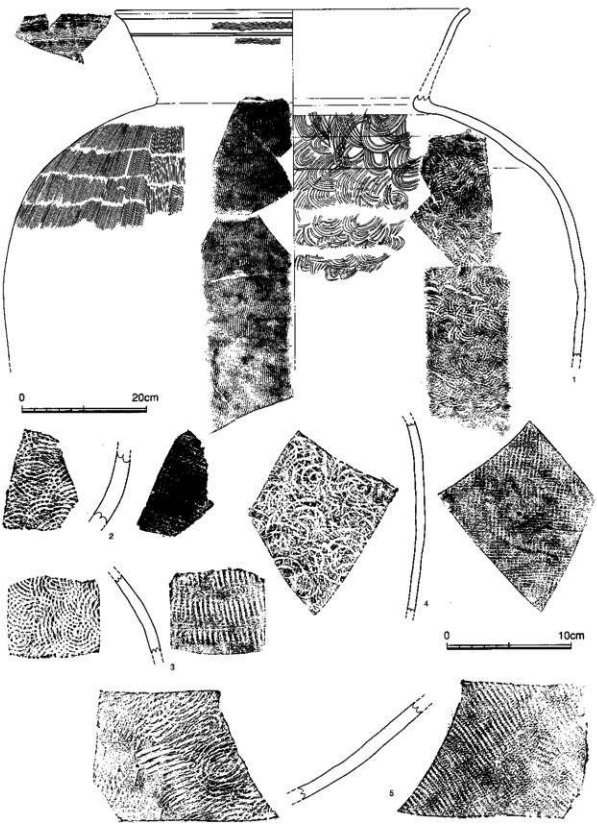
**甕胴部片（220図2～5、221図）** これらは甕の胴部片であるが、外面は平行叩きであり、内面は同心円の当具痕が認められるものである。2～4は内面の同心円当具が細いものであり、221図のものは太いものである。




第218図　出土須恵器実測図㉓（中形甕）（S＝1：3）




第219図　出土須恵器実測図㉔(大形甕)　(S＝1：3)

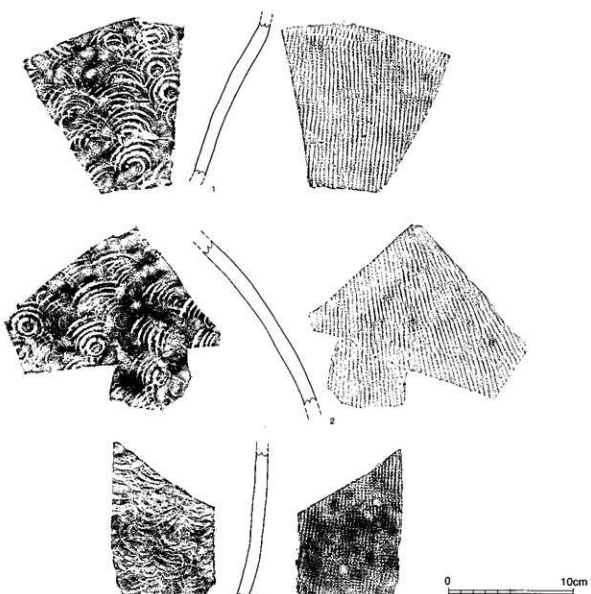



第220図　出土須恵器実測図㉕(大甕・甕胴部)　(S＝1:6、1:3)

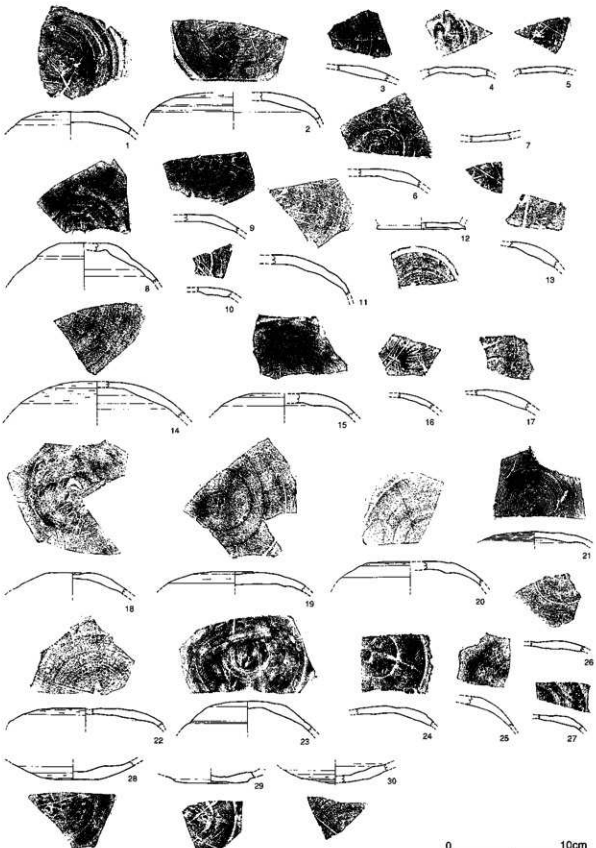
**ヘラ記号等（図222、223図1～12）** 底部や天井部などにヘラ記号が認められる出土品全てを一括して掲載している。ヘラ記号は、ほとんどのものが、出雲1期～6期頃までの蓋坏で確認されている。

なお、223図7～12は、実測図は、すでにこれ以前の図で掲載したものである。一応図化の段階で坏蓋、杯身の判断をして掲載しているが、どちらの器種になるものか判断に迷うものも存在しており、実際は間違っているものもあると思われる。

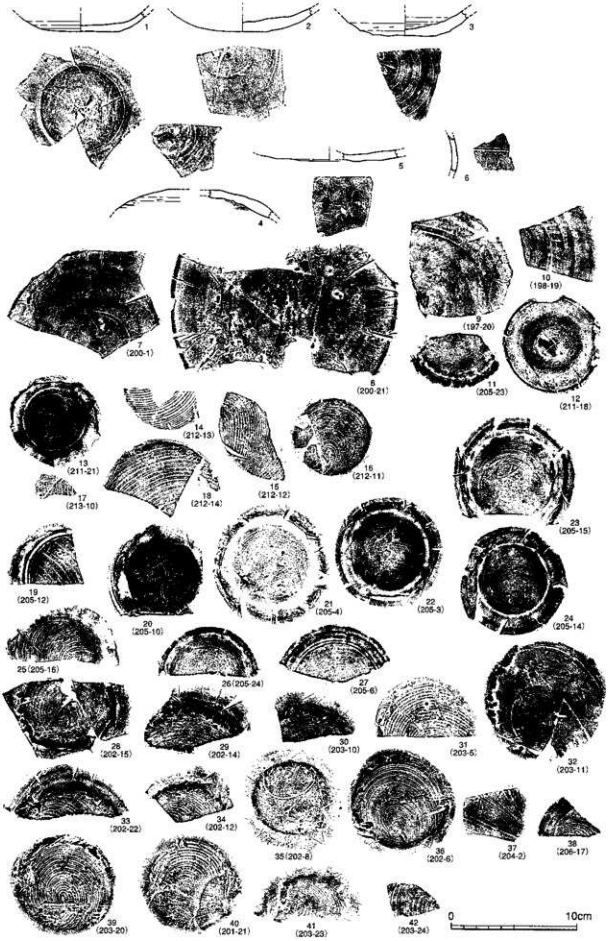
222図1～7は、2本の線で「×」印を書いた蓋坏片である。222図8～13は、3本の線で書かれたヘラ記号であり、12の坏底部以外は蓋坏と思われる。222図14～17は3本線で書かれたヘラ記号である。すべて蓋坏と考えられるものである。222図18～27は1本線で書かれた単純なヘラ記号である。器種は坏蓋と推測されるが、21はカキメが見られるものであり有蓋高坏等の蓋であるのかもしれない。222図28～30、223図1～2は、1本線のヘラ記号が見られる杯身である。223図3も1本線のヘラ記号が認められる壺底部である。




第221図　出土須恵器実測図㉟（裏胴部）（S＝1：3）




第222図　出土須恵器実測図㉗(ヘラ記号拓影)　(S＝1：3)




第223図　出土須恵器実測図㉘（ヘラ記号・糸切拓影）（S＝1：3）

223図４～６は、ヘラ記号ではなく、須恵器の調整痕と文様のある破片である。４と５は、蓋坏の天井部または、底部のヘラ切り後の調整痕と思われるものであり、擦痕が認められる。これらは、板状かヘラ条のものでナデたものと推測される。６は、甕の胴部片である。沈線と波状文が認められる。

223図７～12は、すでに図が掲載されている個体の拓影である。７と８は杯身の底部である。７は２本線で「×」印のヘラ記号が見られ、８は単純な１本線のものである。９は坏蓋であり、ヘラ記号かまたは調整痕と思われるものが天井に見られる。10は、輪状つまみが付くかえりのない蓋である。天井部で見られるものがヘラ記号の可能性がある。11は高台付坏の底部である。底部の中心部付近にヘラ描きの文字と思われるものがあるが、破片であり明確にできない。12は、高台の付く壺底部である。ヘラ記号は、中心に「×」印が書かれている。

**糸切り拓影(223図７～42、224図)**　切り離しを糸切りで行っている坏、蓋、皿、壺等の個体については、ここで一括して掲載している。なお、拓影を掲載しているものは、ある程度全体が分かるものであって、摩耗が著しいものや小片は省略した。

223図13～18は、壺の糸切底である。13と15の底部は静止糸切であり、14・16・18は、回転糸切りによるものである。なお、17は静止糸切りによる底部と思われるが、小片のため不明確なものである。

223図19～24は、高台の付く坏の底部であり、高台は底部の内よりに付くものである。19と20は静止糸切りによるものと考えられ、20は切り離し後にヘラによる擦痕が認められる。21～24は、回転糸切りによる底部と考えられる。ただし、22、24については、不明瞭な部分があり、静止糸切りの可能性も残る。

223図25～27も高台の付く坏底部であるが、高台が底部外縁部に付くタイプである。３つとも回転糸切りによる底部と考えられる。

223図28～42は、無高台の坏である。37のみ静止糸切りと考えられ、他は回転糸切りによる底部と考えられる。なお、28～33は内湾して立ち上がる坏であり、34～42は、直線的に立ち上がる坏である。

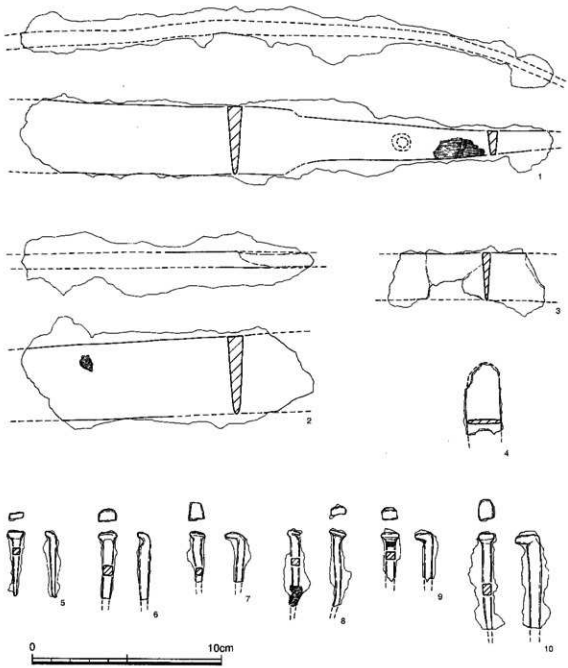
224図１～７は皿底部の糸切り痕である。１～３が高台の付く皿、４～７が高台の付かない皿である。切り離しは、４が静止糸切りである可能性があり、他のものは回転糸切りによるものである。

第224図　出土須恵器実測図㉙(皿拓影)　(S＝1：3)

## 8．鉄器（図225）

鉄器は、正確な時期については、包含層からの出土であることから不明であるが、おおよそ古墳時代後期以降のものと思われる。出土した器種は、鉄刀、鉄鎌、鉄鏃、鉄釘である。

**鉄刀**（1，2） 鉄刀は2振出土している。どちらも欠損しているものであり、刀身部分のみが出土している。1は峯が反っている直刀であり、刃部が中程から欠損しているものである。関はX線写真から両関と考えられ、背側の方が刃側より浅く切れ込む不均等な形状である。茎は、先細りの形状であり、茎尻は失われている。また、目釘孔が一つあけられており、木質の付着から柄木が装着されていたものと思われる。2は刃部片であり、1よりややしっかりしたものである。木質が付着していることから鞘に入っていたものと思われる。




第225図　出土鉄器実測図（S＝1：2）

**鉄鎌(225図３)** 片刃の鉄器の刃部片であり、とりあえず鎌と判断したが、刀子などの可能性も十分に考えられるものである。

**鉄鏃(225図４)** 鉄鏃の鏃身部と思われる破片が出土している。これは、鏃身部の先端部が尖らない丸いものと考えられ、断面はレンズ状になるものと思われるものである。

**鉄釘**(注37) **(225図１～10)** 鉄釘は６本出土している。いずれの個体も断面が方形のもので、頭部が一端に折り曲げられているタイプである。これらは、完形のものが５の釘のみであり、全長が分からないが、おおよそ10cm以下の小形のものと思われる。

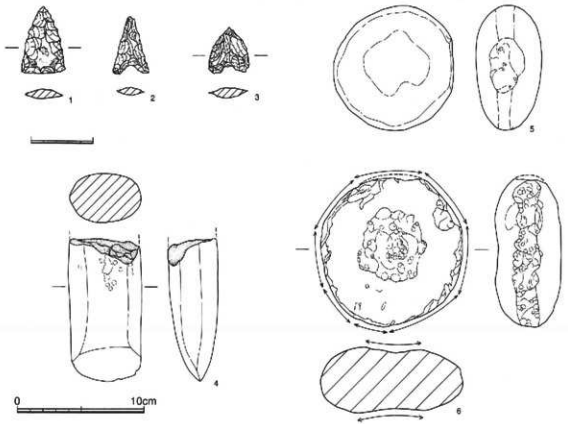
また、これらの頭部の折れ曲がる部分を見ると、単純に折れ曲がるもの（５、７）と胴部との境にくびれ込みを有するもの（６、８、９、10）の２つのタイプが存在している。

## ９．石器（図226、227）

石器は、石鏃、石斧、敲石、砥石が出土している。いずれも包含層中の出土であり、正確な時期が判らないものである。

**石鏃(226図１～３)** 石鏃は３点出土しており、いずれの鏃も両面調整を行っている。１は平基式三角形鏃であり、一部に自然面を残しているものである。２と３は凹基式三角形鏃であり、３は幅と長さの差がないもので、やや丸みをおびた正三角形である。

**磨製石斧(226図４)** 石斧は、磨製のものが１点出土している。石斧は基部が欠損しているもので、丁寧に研磨されているものである。また、欠損部付近には敲打によるものと考えられる痕跡が認められる。

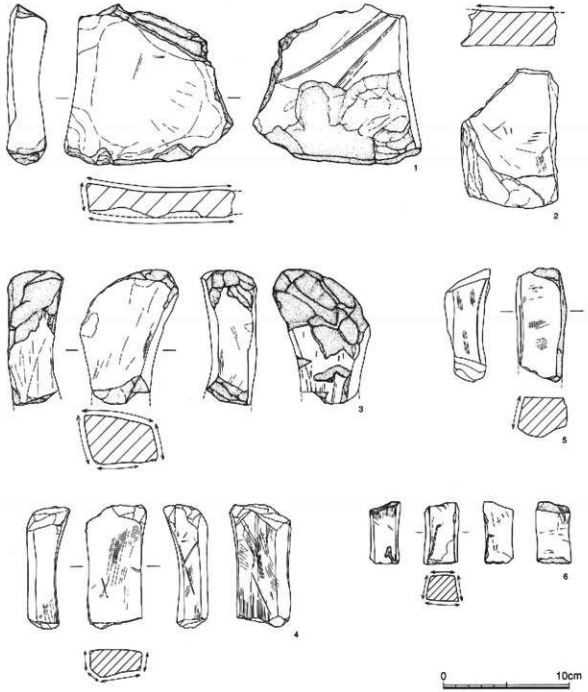



第226図　出土石器実測図(石鏃＝２：３、他１：２)

**敲石（226図5、6）** 敲石は2点出土している。5は片面と側面の一部に敲打痕が認められるのみで、あまり使用されていない状態のものである。一方、6は両面と側面に敲打痕が明瞭に認められるものである。断面は、両面とも敲打されており窪んでいるものであり、側面は、周縁部全体で敲打痕が認められる。

**砥石（227図）** 砥石は、6点出土している。これらは大形で扁平なもの（1、2）と小形で角柱状を呈するもの（3、4、5、6）がある。

1は両面と側面が使用面であり、使用面は平滑なものであり、筋状に擦痕が認められる面もある。また、2は片面のみ使用面が認められるものである。




第227図　出土砥石実測図（S＝1：3）

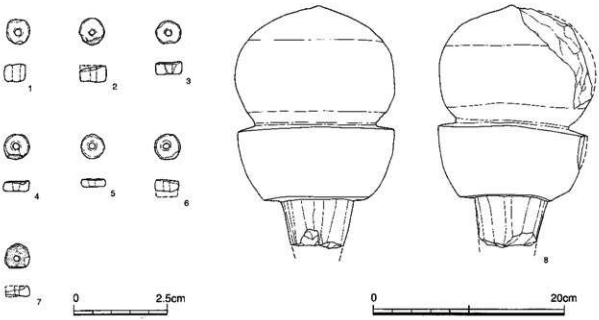
227図３～６は、基本的に各面とも使用されている砥石である。ただし、５は残存状況も関係するが、２面での使用が認められた。また、これらは大形の砥石より肌理の質が細かい石材のものである。

### 10. 小玉（228図１～７）

これらの小玉は全て須恵器杯身（200図10）内から発見したものである。また、石材は滑石と思われ、径6.5㎜前後のものである。また、穿孔は片面から行われているものと推測される。時期は、杯身の時期から出雲２期～３期のものと考えられる。

### 11. 五輪塔（228図８）

五輪塔は、頂部付近とほぞ部が欠けている空風輪であり、一石で作られている。これは、完全な円形のものではなくやや楕円形を呈するものである。石材は、地元で算出されるいわゆる来待石（凝灰質砂岩）である。調整は比較的丁寧なものであり、研磨され全体的に平滑である。形態は、空輪と風輪の径16.5㎝前後とほぼ同じもので、空輪は丸みのある曲線を描く宝珠形のものである。ほぞ部は多角柱のものであり、最大径7.6㎝、残存長5.2㎝である。この五輪塔の時期は、まだ当地域の十分な検討がなされていないので明確にはできないが、あえて全国的な編年観等から推測すれば、おおよそ室町時代～安土・桃山時代頃であろうか。




第228図　出土玉類・五輪塔実測図（玉・S＝１：１、五輪塔１：４）

## 第11表　竹ノ崎遺跡　土器　観察表

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 142-01 | 須恵器 壺坏(坏蓋) | 1A | SK02 | 覆土 | 14.1 | 4.3 | 14.1 | — | | (外)回転ヘラケズリ　ナデ<br>(内)回転ナデ　ナデ | 密　3 mm以下の砂粒多い | (外)暗青灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 142-02 | 焼(胴部片) | 1D北 | PIT9 | | — | — | — | — | | (外)平行タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 密　2 mm以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)青灰色 |
| 148-01 | 弥生 単純口縁(外反C) | 1A | PIT6 | 包含層 | 16.7 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヘラナズリ　ヨコナデ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 148-02 | 壺(底) | 1A | SK02 | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 148-03 | 弥生 単純口縁(外反C) | 1A | SK02 | 覆土内 | 15.2 | — | — | — | 口縁直立気味 | (外)ヨコナデ　タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2～4 mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 148-04 | 弥生 単純口縁(外反D) | 1A | SK02 | 覆土 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 148-05 | 小型甕単純口縁(外反C) | 1A | SK02 | 包含層 | 10.1 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ？ | 1～3 mmの砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)淡褐色 |
| 148-06 | ミニチュア 上器 | 1C | SK02 | 覆土 | — | — | — | (2.6) | | (外)ナデ　ハケ<br>(内)ナデ | 1 mm以下の砂粒含む | 淡灰褐色 |
| 148-07 | 弥生 単純口縁(外反C) | 1 | SB01 | 包含層 | 16.8 | — | — | — | 口縁端部内面屈曲 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗褐色 |
| 148-08 | 弥生 単純口縁(内湾C) | 1 | SB01 | 包含層 | — | — | — | — | 頸部強くナデる | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 148-09 | 甕　把手 | 1 | SB01 | 包含層 | — | — | — | — | 差し込みタイプ | (外)ナデ　ヘラケズリ？<br>(内)ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)暗褐色 |
| 148-10 | 壺(底部) | 1 | SB01 | 包含層 | — | — | — | — | 底部内面由取り<br>黒斑 | (外)ハケ　指頭圧痕<br>(内)ヘラケズリ　工具痕 | 1 mm以下の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 153-01 | 弥生 単純口縁(頸部) | 2B | PIT1 | 覆土 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タテハケ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 153-02 | 弥生 単純口縁(外反C) | 2B | PIT4 | 覆土 | 21 | — | — | — | 口縁端部内面ナデる | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～3 mmの砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 161-01 | 須恵器 坏 | 4 | 竪穴覆土玄室 | | — | — | — | 8.6 | | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転一部静止ナデ | 密 | (外)赤褐色<br>(内)暗灰色 |
| 161-02 | 坏 | 4 | 竪穴覆穴墓 | 流入土 | 12.9 | — | — | — | 口縁端部肥厚 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)赤褐灰色<br>(内)灰色 |
| 161-03 | 坏 | 4 | | | 11.8 | — | 12 | — | 口縁内面気味 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 161-04 | 高台付処理 | 4 | | | — | — | — | 11.8 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰褐色<br>(内)茶灰色 |
| 161-05 | 坏 | 4 | 竪穴斜面 | 表土 | — | — | — | 8.4 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 161-06 | 焼片 | 4 | | 表土 | — | — | — | — | | (外)平行タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 密 | (外)淡灰褐色<br>(内)灰色 |
| 161-07 | 焼片 | 4 | 竪穴斜面 | 表土 | — | — | — | — | | (外)平行タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 162-01 | 縄文土器 体 | 3 | 西斜面 | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ？ | 1～5 mmの砂粒多く含む | (外)暗褐色<br>(内)褐色 |
| 162-02 | 弥生時代中期 焼 | 3 | | 包含層 | — | — | — | — | 複線鋸歯文 | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1 mm大の砂粒含む | (外)内)淡橙褐色(断)灰褐色 |
| 163-01 | 焼 複合口縁A | 1C | | 包含層 | 9.1 | — | — | — | 同線文3条　変形の孔が空けれている。 | (外)ヘラミガキ後ヨコナデ<br>(内)ヘラミガキ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)黒褐色<br>(内)黒褐色 |
| 163-02 | 焼 複合口縁A | 2B | | 包含層 | 12.6 | — | — | — | 同線文2条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヘラケズリ | 2 mm程の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 163-03 | 焼 複合口縁A | 2B | 横断ベルト | 包含層 | 13.6 | — | — | — | 同線文2条<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 163-04 | 焼 複合口縁A | 1D | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | 同線文3条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)茶褐色<br>(内)茶褐色 |
| 163-05 | 焼 複合口縁A | 2D | | 包含層 | 16.2 | — | 17 | — | 同線文2条　板状工具による刺突文 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒多く含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 163-06 | 焼 複合口縁A | 1C | | 包含層 | 16 | — | — | — | 同線文2条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1 mm大の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-07 | 焼 複合口縁A | 1D | | 包含層 | (19.8) | — | — | — | 内面からの穿孔 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1 mm僅の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 163-08 | 焼 複合口縁A | 1C | | 包含層 | 15.6 | — | — | — | 同線文2条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 163-09 | 焼 複合口縁A | 2B | | 包含層 | 15.7 | — | — | — | 同線文3条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ？ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-10 | 焼 複合口縁A | 1D北 | | 包含層 | 15.9 | — | — | — | 同線文4条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ？ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 163-11 | 甕<br>複合口縁A | 2D | | 包含層 | 11.8 | — | — | — | 凹線文4条 | (外)ナデ　ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-12 | 甕<br>複合口縁A | 1C | | 包含層 | 14.2 | — | — | — | 凹線文3～4条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-13 | 甕<br>複合口縁B | 2A | | 包含層 | 13 | — | — | — | 凹線文4条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ? | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 163-14 | 甕<br>複合口縁B | 1C | | 包含層 | 14.4 | — | — | — | 擬凹線文7～8条 | (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ<br>ヘラミガキ　ヘラケズリ | 1㎜弱の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 163-15 | 甕<br>複合口縁B | 3<br>(谷部) | | 包含層 | — | — | — | — | 擬凹線文6条以上 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜程の砂粒含む | (外)明橙褐色<br>(内)明橙褐色 |
| 163-16 | 甕<br>複合口縁B | 1D | | 包含層 | 18 | — | — | — | 擬凹線文6条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜程の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 163-17 | 甕<br>複合口縁B | 1C北 | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | 擬凹線文6条以上 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 163-18 | 甕<br>複合口縁B | 2B | | 包含層 | — | — | — | — | 擬凹線文15条以上 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ? | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-19 | 甕<br>複合口縁B | 1C北 | | 包含層 | 17.7 | — | — | — | 擬凹線文12条以上 | (外)ヨコナデ(内)ナデ後<br>ヘラミガキ　ヘラケズリ | 密 | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 163-20 | 壺<br>複合口縁B | 3<br>(谷部) | | 包含層 | 18.8 | — | — | — | 擬凹線文13条以上<br>凹線文9条　刺突文 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 163-21 | 甕<br>複合口縁B | 1C | | 包含層 | 9.6 | — | 10.2 | — | 擬凹線文4条　小形<br>貝殻刺突文　沈線文 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 163-22 | 注口土器 | 2B | 縦断ベルト | 包含層 | — | — | — | — | 丹塗り<br>黒斑?スス? | (外)ヘラミガキ?<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 164-01 | 壺<br>複合口縁B | 1C | | 包含層 | 19.2 | 37.9 | 26.5 | 7.4 | 擬凹線文11条<br>櫛描波状文 | (外)ヘラミガキ　ハケ後ヘラミガキ<br>(内)ヨコナデ後ヘラミガキ　ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 164-02 | 甕<br>複合口縁C | 1A | | 包含層 | 19.1 | — | — | — | 擬凹線文をナデ消す | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 密　1～3㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 164-03 | 甕<br>複合口縁C | 2A | | 包含層 | 17.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 164-04 | 甕<br>複合口縁C | 1C北 | | 包含層 | 18.3 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 164-05 | 甕<br>複合口縁C | 1A | | 包含層 | 19.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 164-06 | 甕<br>複合口縁C | 1C北 | | 包含層 | 20 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 164-07 | 甕<br>複合口縁C | 1A | | 包含層 | 21.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 164-08 | 甕<br>複合口縁C | 1C | | 包含層 | 20.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 164-09 | 甕<br>複合口縁C | 2D | | 包含層 | 13.3 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)褐色 |
| 164-10 | 甕<br>複合口縁C | 一北 | | 包含層 | 18.2 | — | — | — | 黒斑?<br>スス? | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 164-11 | 甕<br>複合口縁C | 1D北 | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 164-12 | 甕<br>複合口縁C | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 19.6 | — | — | — | 肩部に波状文5条? | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 164-13 | 壺<br>複合口縁C | 3 | | 包含層 | 18.9 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ? | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 165-01 | 甕<br>複合口縁C | 1C | | 包含層 | 19.2 | — | — | — | スス付着? | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 165-02 | 甕<br>複合口縁C | 1C | | 包含層 | 16 | — | — | — | 貝殻刺突文<br>ヘラ描沈線文 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 密　1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 165-03 | 甕<br>複合口縁C | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 165-04 | 甕<br>複合口縁C | 1C北 | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | 櫛描波状文6条 | (外)ナデ　ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 165-05 | 甕<br>複合口縁C | 1C | | 包含層 | 16.3 | — | — | — | 櫛描波状文6～7条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡褐色 |
| 165-06 | 甕<br>複合口縁C | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描波状文9条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 165-07 | 甕<br>複合口縁C | 1B | | 包含層 | 18 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 165-08 | 甕<br>複合口縁C | 1C | | 包含層 | 21.2 | — | — | — | 平行沈線文<br>波状文19条 | (外)ヨコナデ　ヨコ、タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 165-09 | 甕<br>複合口縁C | 1A | | 包含層 | 17 | — | — | — | スス付着? | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜程の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 165-10 | 直口壺 | 3 | 竪穴西側 | 小明 | 17.8 | — | — | — | 櫛描波線文6条 | (外)ヨコナデ(内)ヨコナデ ヘラミガキ ヘラナズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 165-11 | 壺 後台口縁A | 2D | | 包含層 | (13.6) | — | (14.2) | — | 丹塗り | (外)ヨコナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒若干含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 165-12 | 甕形土器 | 2C | | 包含層 | — | — | (17) | — | 突帯と把手が結合したもの | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 2～3 mmの砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 165-13 | 弥生土器 肥干状の痕跡 | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ (内)ナデ | 1 mm以下の砂粒少し含む | (表)淡橙褐色 (断)淡橙褐色 |
| 166-01 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラによる文様 | (外) (内)ヘラケズリ | 1～3 mmの砂粒含む | (外)淡赤褐色 (内)淡橙褐色 |
| 166-02 | 胴部 文様あり | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラによる文様 | (外)ナデ (内)ナデ ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒多く含む | (表)橙褐色 (断)橙褐色 |
| 166-03 | 胴部 文様あり | 1C | | | — | — | — | — | ヘラ圧痕文 | (外)ハケ ヨコハケ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 166-04 | 胴部 文様あり | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラによる文様 | (外)ナデ (内)ナデ ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 166-05 | 胴部 文様あり | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描沈線文1条 | (外)ナデ (内)ナデ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 166-06 | 胴部 文様あり | 3 | 西斜面 | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描刺突文 | (外)ヨコハケ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 166-07 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描刺突文 | (外)ハケ タテハケ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-08 | 胴部 文様あり | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描刺突文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-09 | 胴部 文様あり | 1B | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描刺突文 | (外)ナデ タテハケ (内)ヘラナズリ後ナデ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡灰褐色 (内)淡灰褐色 |
| 166-10 | 胴部 文様あり | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻刺突文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 166-11 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻刺突文 | (外)ナデ ヘラミガキ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒多く含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 166-12 | 胴部 文様あり | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 棒状工具による刺突文 | (外)ナデ (内)ヘラミガキ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)暗褐色 |
| 166-13 | 胴部 文様あり | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 木口による羽状文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-14 | 胴部 文様あり | 1B北 | | 包含層 | — | — | — | — | 木口による羽状文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡橙褐色 |
| 166-15 | 胴部 文様あり | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描?羽状文 | (外)ナデ(内)ナデ ヘラナズリ後ナデ | 1 mm以下の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-16 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻刺突文 | (外) (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡褐色 |
| 166-17 | 胴部 文様あり | 3B | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻羽状文 | (外)ナデ(内)ナデ 指頭圧痕 ヘラナズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)暗褐色 (内)暗褐色 |
| 166-18 | 胴部 文様あり | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻羽状文 | (外)ナデ ヨコハケ (内)ヘラケズリ | 密 | (外)暗褐色 (内)暗褐色 |
| 166-19 | 胴部 文様あり | 3 | 西斜面 | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻羽状文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 166-20 | 胴部 文様あり | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻羽状文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1～3 mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)暗褐色 |
| 166-21 | 胴部 文様あり | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描刺突文・沈線文・曲弧文・羽状文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ後ナデ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡褐色 |
| 166-22 | 胴部 文様あり | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描刺突文 ヘラ描平行沈線文 丹塗り | (外) (内)ヘラケズリ | 2 mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-23 | 胴部 文様あり | 1A | ベルト | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻刺突文 ヘラ描平行沈線文 | (外) (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)暗褐色 (内)淡褐色 |
| 166-24 | 胴部 文様あり | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描平行沈線文 貝殻腹面文 貝殻刺突文 | (外)ハケ ナデ (内)ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-25 | 胴部 文様あり | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 貝殻刺突文 平行沈線文 | (外) (内)ヘラミガキ ヘラナズリ? | 1 mm以下の砂粒多く含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 166-26 | 胴部 文様あり | 3 | 西斜面 | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描平行沈線文 | (外)ナデ (内)ヘラケズリ | 1～2 mmの砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-27 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描波状文 櫛描平行沈線文 櫛描波状文 | (外)ナデ タテハケ (内)ナデ ヘラケズリ | 1 mm以下の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 166-28 | 胴部 文様あり | 1D 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ描沈線文 櫛描波状文 | (外) (内)ヘラケズリ | 1～3 mmの砂粒多く含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 166-29 | 胴部 文様あり | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描波状文 平行沈線文 | (外) (内)ヘラケズリ | 2 mm以下の砂粒少し含む | (外)褐褐色 (内)暗褐色 |
| 166-30 | 胴部 文様あり | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 櫛描平行沈線文 櫛描波状文 黒斑 | (外) (内)ヘラケズリ | 3 mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 167-01 | 壺・甕(底部) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 9.6 | | (外)ハケ ナデ<br>(内)指頭圧痕 ナデ | 2～4㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)褐色 |
| 167-02 | 壺・甕(底部) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | 8 | 黒斑 | 摩滅により不明 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗黄褐色<br>(内)暗黄褐色 |
| 167-03 | 壺・甕(底部) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 6.6 | | (外)ヘラミガキ ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 167-04 | 壺・甕(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 6.2 | スス付着 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ヘラミガキ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 167-05 | 壺・甕(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 5 | 黒斑 | (外)ヘラミガキ ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 167-06 | 壺・甕(底部) | 3B | サブトレンチ | 包含層 | — | — | — | 4.6 | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ？ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 167-07 | 壺・甕(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 3.9 | | (外)ヘラミガキ ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 167-08 | 壺・甕(底部) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | 3.9 | スス付着 | (外)ヘラミガキ ナデ(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>ｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ 指頭圧痕 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 167-09 | 壺・甕(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 3.8 | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 167-10 | 壺・甕(底部) | 1A | | 包含層 | — | — | — | 3 | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)黄褐色 |
| 167-11 | 壺・甕(底部) | 1D | サブトレンチ | 包含層 | — | — | — | 2.4 | | (外)ヘラミガキ ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰褐色<br>(内)淡褐色 |
| 168-01 | 鼓形器台A | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 擬凹線文 | (外)ナデ<br>(内)ヘラミガキ | 1㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡褐色 |
| 168-02 | 鼓形器台A | 1C北 | | 包含層 | 25.2 | — | — | — | 擬凹線文 | (外)ナデ<br>(内)ﾍﾗﾐｶﾞｷ ナデ？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 168-03 | 鼓形器台B | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 擬凹線文 | (外)ナデ？ ヨコナデ<br>(内)ヘラミガキ ﾖｺﾅﾃﾞ | 2㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡褐色 |
| 168-04 | 鼓形器台B | 1B | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 168-05 | 鼓形器台B | | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜大の砂粒含む | (外)茶褐色<br>(内)茶褐色 |
| 168-06 | 鼓形器台B | 1A | | 包含層 | 12.6 | — | — | — | 端部平坦 | (外)ナデ (内)ﾅﾃﾞ<br>ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 168-07 | 鼓形器台B | 1C北<br>1D北 | 1トレンチ | 包含層 | 12.7 | — | — | — | 端部平坦 | (外)ナデ<br>(内)ﾍﾗﾐｶﾞｷ後ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)暗褐色 |
| 168-08 | 鼓形器台B | 2A | | 包含層 | — | — | — | 10.8 | 端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 169-01 | 甕<br>複合口縁C | 2A | | 包含層 | 21.4 | — | — | — | 口縁端部外折<br>スス付着 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 密 | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 169-02 | 甕<br>複合口縁D | 3 | 谷奥斜面 | 表土 | 22.5 | — | — | — | 黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 169-03 | 甕<br>複合口縁D | 2A | | 包含層 | 17.7 | — | — | — | 口縁端部面あり<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-04 | 甕<br>複合口縁D | 2A | | 包含層 | 19 | — | — | — | 口縁端部面あり<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-05 | 甕<br>複合口縁D | 1D | | 包含層 | 18.3 | — | — | — | 口縁端部面あり<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-06 | 壺<br>複合口縁D | 2A | ベルト | 包含層 | 19.2 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-07 | 壺<br>複合口縁D | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 19.6 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ<br>ﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-08 | 甕<br>複合口縁E | | | 包含層 | — | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ？ | 1㎜大の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 169-09 | 壺<br>複合口縁E | 2D | | 包含層 | 15.2 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 169-10 | 壺<br>複合口縁E | 1D北 | | 包含層 | 18.9 | — | — | — | 口縁端部面あり<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡褐色 |
| 169-11 | 壺<br>複合口縁E | 1D北 | | 包含層 | 17.8 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 169-12 | 甕<br>複合口縁E | 1D | | 包含層 | 17.6 | — | — | — | 口縁端部内面窪む<br>黒斑 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ハケ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 169-13 | 甕<br>複合口縁E | 1C | | 包含層 | 16.9 | — | — | — | 口縁端部に面あり<br>黒斑 | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 169-14 | 甕<br>複合口縁E | 1D北 | | 包含層 | 16.8 | — | — | — | 口縁端部外に拡張<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)淡黒褐色 |
| 169-15 | 壺<br>複合口縁E | 1D | | 包含層 | 17.1 | — | — | — | 口縁端部に面あり | (外)ナデ ハケ(内)ﾅﾃﾞ<br>指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 169-16 | 甕 疑似複合口縁B | | サブトレンチ | 包含層 | 22.4 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 169-17 | 甕 疑似複合口縁B | 2A | | 包含層 | 19.4 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 170-01 | 甕 疑似複合口縁A | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 17.4 | — | — | — | 口縁端部外折<br>黒斑？ | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 170-02 | 甕 疑似複合口縁A | 1C北 | | 包含層 | 15.2 | — | — | — | 口縁端部外折して面あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 170-03 | 甕 疑似複合口縁A | 2D | | 包含層 | 20.4 | — | — | — | 口縁端部外折 | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 170-04 | 甕 疑似複合口縁A | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 口縁端部外折 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 170-05 | 甕 疑似複合口縁A | 3A | | 排土 | 21.8 | — | — | — | 口縁端部外折 | (外)ヨコナデ タテ・ヨコハケ<br>(内)ヨコナデ ナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 170-06 | 甕 疑似複合口縁A | 1D | | 包含層 | 26.2 | — | — | — | 口縁内湾して立ち上がり若干外折 | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 170-07 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 17.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 170-08 | 甕 疑似複合口縁C | 1C北 | | 包含層 | 17.6 | — | — | — | 口縁端部内面ナデる | (外)ナデ ハケ？<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 170-09 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 18.2 | — | — | — | 口縁端部若干外折 | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 170-10 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 15.1 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 170-11 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 14.5 | — | — | — | 口縁端部肥厚気味 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～5㎜の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 170-12 | 甕 疑似複合口縁C | 1C | | 包含層 | 18 | — | — | — | 口縁端部内面強くナデる | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜大の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 170-13 | 甕 疑似複合口縁C | | | 排土 | 20 | — | — | — | 口縁端部内湾 | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 170-14 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 16.9 | — | — | — | 口縁端部若干外折 | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 170-15 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 18.2 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)暗褐色 |
| 170-16 | 甕 疑似複合口縁C | 1D | | 包含層 | 22.8 | — | — | — | 口縁端部シャープ | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ？ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 171-01 | 甕 単純口縁(内湾A) | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 19 | — | — | — | 口縁うすくて端部内折 | (外)ヨコナデ タテハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 171-02 | 甕 単純口縁(内湾A) | 1D | | 包含層 | 14 | — | — | — | 口縁端部内面肥厚<br>黒斑 | (外)ナデ ヨコナデ ネキ目<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜大の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)黄褐色 |
| 171-03 | 甕 単純口縁(内湾?) | 不明 | | 包含層 | 16.8 | — | — | — | 口縁端部内面肥厚 | (外)ヨコナデ ヨコハケ<br>(内)ヨコハケ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 171-04 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 口縁端部内面突出する | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 2～3㎜の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 171-05 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1D | | 包含層 | 15 | — | — | — | 口縁端部内面肥厚 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 171-06 | 甕 単純口縁(内湾B) | 2D | | 包含層 | 17.6 | — | — | — | 口縁端部内面肥厚 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 171-07 | 甕 単純口縁(内湾A) | 1D | | 包含層 | 15.1 | — | — | — | 口縁端部内面内折 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 171-08 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1D | | 包含層 | 18.8 | — | — | — | 口縁端部拡張して沈線入る | (外)タテハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 171-09 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1D北 | | 包含層 | 15 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)ヨコナデ ヨコハケ (内)ヨコナデ ヘラケズリ 指頭圧痕 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 171-10 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1C | | 包含層 | 17 | — | — | — | 口縁端部面あり | (外)タテハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコハケ後ナデ・ヨコナデ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 171-11 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1D | | 包含層 | 15.3 | — | — | — | 口縁端部に沈線文 | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコハケ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 171-12 | 甕 単純口縁(内湾B) | 1C | | 包含層 | 20.8 | — | — | — | 口縁端部に沈線状 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)橙褐色 |
| 171-13 | 甕 単純口縁(内湾B) | 3A | | 包含層 | 18 | — | — | — | 口縁端部肥厚して面あり | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 172-01 | 甕 単純口縁(内湾C) | 3B | | 包含層 | 17.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)暗黄褐色 |
| 172-02 | 甕 単純口縁(内湾C) | 1D北 | | 包含層 | 15.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 172-03 | 甕 単純口縁(内湾C) | 1D北 | | 包含層 | 17 | — | — | — | | (外)不明<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 172-04 | 甕 単純口縁(内湾C) | 2D | | 包含層 | 15.6 | — | — | — | 口縁端部うすくなる | (外)ﾀﾃﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2㎜程の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-05 | 甕 単純口縁(内湾D) | 2C | | 包含層 | 17.8 | — | — | — | 口縁端部うすくなる | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ 指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-06 | 甕 単純口縁(内湾C) | 1D | | 包含層 | 20.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 172-07 | 甕 単純口縁(内湾C) | 1D | | 包含層 | 17.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾊｹ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 172-08 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1C | | 包含層 | 16.8 | — | — | — | 口縁端部内面若干肥厚 | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ 指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2㎜程の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-09 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1D北 | | 包含層 | 15.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ後ﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙茶褐色 (内)橙茶褐色 |
| 172-10 | 甕 単純口縁(内湾B?C?) | 1D北 | | 包含層 | 18.2 | — | — | — | 口縁端部内面若干肥厚 黒斑 | (外)ﾀﾃﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ(内)ﾖｺﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～4㎜程度の砂粒含む | (外)赤褐色 (内)赤褐色 |
| 172-11 | 甕 単純口縁(内湾D) | 2B | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | 複合口縁状 | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ 指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-12 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1D北 | | 包含層 | 17.7 | — | — | — | 頸部強くナデる | (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-13 | 甕 単純口縁(内湾C) | 1D | サブトレンチ | 包含層 | 17 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-14 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1D | | 包含層 | 20.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ 指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2㎜程の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 172-15 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1C | | 包含層 | 15 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 172-16 | 甕 単純口縁(内湾D) | 1D北 | | 包含層 | 19.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ 指頭圧痕 ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 173-01 | 甕 単純口縁(外反C) | 3A | | 包含層 | 19 | — | — | — | スス付着 | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)茶褐色 (内)黄褐色 |
| 173-02 | 甕 単純口縁(外反C) | 2C | | 包含層 | 16.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜弱の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 173-03 | 甕 単純口縁(外反C) | 1C | | 包含層 | 20.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 173-04 | 甕 単純口縁(外反C) | 1C | | 包含層 | 19 | — | — | — | | (外)ヨコナデ? (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)黄褐色 |
| 173-05 | 甕 単純口縁(外反) | 2C | | 包含層 | 16 | — | — | — | | (外)ヨコナデ? (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜大の砂粒含む | (外)暗茶褐色 (内)暗茶褐色 |
| 173-06 | 甕 単純口縁(外反C) | 2A | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | 口縁端部うすくなる | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ タテハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 173-07 | 甕 単純口縁(外反C) | 3A | | 包含層 | 18.2 | — | — | — | 口縁端部うすくなる | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗橙褐色 (内)暗橙褐色 |
| 173-08 | 甕(胴部) | 1C | | 包含層 | — | — | 23.6 | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾊｹ後ﾅﾃﾞ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 173-09 | 甕 単純口縁(外反) | 1D | | 包含層 | 17.5 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗褐色 (内)暗褐色 |
| 173-10 | 甕 単純口縁(外反C) | 1D | | 包含層 | 21.8 | — | — | — | 口縁端部外にひらく | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ 指頭圧痕 | 2～3㎜の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 173-11 | 甕 単純口縁(外反C) | 1C | | 包含層 | 17.8 | — | — | — | 口縁端部外にひらく | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾍﾗｹｽﾞﾘ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 173-12 | 甕 単純口縁(外反C) | 1A | SK02 | 覆土内 | 18.6 | — | — | — | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～4㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 173-13 | 甕 単純口縁(外反C) | 2C | | 包含層 | 18.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜程の砂粒若干含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 173-14 | 甕 単純口縁(外反C) | 2A | | 包含層 | 21.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜弱の砂粒若干含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 174-01 | 甕 単純口縁(外反C) | 3B | サブトレンチ | 包含層 | 18.8 | — | — | — | 口縁端部外折 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃ･ﾖｺﾊｹ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 174-02 | 甕 単純口縁(外反C) | 1C | | 包含層 | 18.7 | — | — | — | | (外)摩滅により不明 (内)ヘラケズリ? | 1～3㎜の砂粒含む | (外)褐色 (内)褐色 |
| 174-03 | 甕 単純口縁(外反C) | 1C北 | | 包含層 | 18.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 174-04 | 甕 単純口縁(外反) | 2D | | 包含層 | 17.8 | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 174-05 | 甕 単純口縁(外反C) | 2A | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | 口縁端部外折 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾊｹ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)褐色 |
| 174-06 | 甕 単純口縁(外反C) | 2B | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ? ﾊｹ? (内)ﾖｺﾅﾃﾞ? ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 174-07 | 甕 単純口縁(外反C) | 2A | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)桃褐色 (内)褐色 |

| 報告No | 器種 | 区 | 造構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 174-08 | 深 単純口縁(外反) | 1Dま | | 包含層 | 16.8 | – | – | – | | (外)タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡褐褐色 |
| 174-09 | 深 単純口縁(外反) | 1C | | 包含層 | 18.7 | – | – | – | | (外)強いナデ<br>(内)強いナデ　ヘラナズリ | 1㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 174-10 | 深 単純口縁(外反) | 3 | | 包含層 | 23.7 | – | – | – | | (外)ナデ　ハケ<br>(内)ナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 174-11 | 深 単純口縁(外反) | 2B | 縄断ベルト | 包含層 | 23.6 | – | – | – | スス付着 | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヨコナデ | 2㎜大の砂粒多く含む | (外)暗茶褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 174-12 | 深 単純口縁(外反B) | 1D | | 包含層 | 22.6 | – | – | – | 口縁端部大きく外折する | (外)ヨコナデ<br>(内)摩滅により不明 | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 174-13 | 深 単純口縁(外反A) | | | – | 17.8 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 2～3㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 174-14 | 深 単純口縁(外反A) | 1Dま | | 包含層 | 15.9 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 174-15 | 深 単純口縁(外反A) | 3A | | 包含層 | 16.8 | 27.3 | 23.8 | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 175-01 | 深 単純口縁(外反) | 1Cま | | 包含層 | 15.4 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 175-02 | 深 単純口縁(外反) | 1C | | 包含層 | 18.4 | – | – | – | 頸部厚い | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 175-03 | 深 単純口縁(外反C) | 1D | | 包含層 | 19 | – | – | – | | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヨコナデ　ナデ　ヘラナズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)褐色 |
| 175-04 | 深 単純口縁(外反C) | 2D | | 包含層 | 17.8 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)暗橙褐色 |
| 175-05 | 深 単純口縁(外反) | 3 | | 包含層 | 16.2 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ(内)ヨコナデ　ヘラナズリ　工具痕？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)茶褐色 |
| 175-06 | 深 単純口縁(外反C) | 1C | | 包含層 | 16.8 | – | – | – | 口縁端部内湾気味<br>黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 175-07 | 深 単純口縁(外反C) | 3A | | 包含層 | 17.4 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ　ハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ナデ？　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 175-08 | 深 単純口縁(外反C) | 1Dま | | 包含層 | 17.8 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ハケ　ヘラナズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 175-09 | 深 単純口縁(外反C) | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 18.6 | – | – | – | 口縁端部に強く屈曲 | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 2～3㎜の大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 175-10 | 深 単純口縁(外反) | 3A | | 包含層 | 15.2 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)淡褐色 |
| 175-11 | 深 単純口縁(外反C) | 1D | | 包含層 | 14.5 | 23 | – | – | | (外)ハケ　ヨコナデ<br>(内)ヘラケズリ？ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 176-01 | 深 単純口縁(外反) | 2C | | 包含層 | 19.3 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 176-02 | 深 単純口縁(外反D) | 1D | | 包含層 | 24.2 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 176-03 | 深 単純口縁(外反D) | 3B | | 包含層 | 21.6 | – | – | – | | (外)ヨコナデ？<br>(内)ヨコナデ？　ヘラナズリ | 1㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 176-04 | 深 単純口縁(外反D) | 2B？ | | 包含層 | 18 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 176-05 | 深 単純口縁(外反D) | 1Dま | | 包含層 | 24.7 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 176-06 | 深 単純口縁(外反D) | 1C | | 包含層 | 21.8 | – | – | – | 口縁端部シャープ | (外)ヨコナデ　タタキ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)黄褐色 |
| 176-07 | 深 単純口縁(外反D) | 2A | | 包含層 | 20.3 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 176-08 | 深 単純口縁(外反D) | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 18.8 | – | – | – | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 176-09 | 深 単純口縁(外反D) | 2C | | 包含層 | 20.4 | – | – | – | | (外)ヨコナデ　タタキ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 176-10 | 深 単純口縁(外反D) | 3A | | 包含層 | – | – | – | – | | (外)ヨコナデ　タタキ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡褐色 |
| 176-11 | 深 単純口縁(外反D) | 1D | | 包含層 | 18.8 | – | – | – | L1縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ　(内)ヨコナデ<br>ヘラナズリ　ヘラナズリ後ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 176-12 | 深 単純口縁(外反D) | 1C | | 包含層 | 23 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ　ハケ？<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 176-13 | 深 単純口縁(外反D) | 1Dま | | 包含層 | 17.8 | – | – | – | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 176-14 | 深 単純口縁(外反D) | 2C | | 包含層 | – | – | – | – | | (外)ヨコナデ　タタキ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 176-15 | 深 単純口縁(外反D) | 2B | | 包含層 | 25 | – | – | – | 口縁端部外面肥厚 | (外)ヨコナデ　タタキ<br>(内)ヨコナデ　ヘラナズリ | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)淡褐褐色<br>(内)淡褐褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 176-16 | 深 単純口縁(外反D) | 1C | | 包含層 | 30 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 177-01 | 深 単純口縁(外反E) | 3A | | 包含層 | 31.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 177-02 | 深 単純口縁(外反E) | 2A | | 包含層 | 31.6 | — | — | — | 口縁端部外折<br>スス付着 | (外)ヨコナデ　タタハケ　ハケ後ナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 177-03 | 深 単純口縁(外反E) | 2A | | 包含層 | 30.1 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タタハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 177-04 | 深 単純口縁(外反E) | 2A | | 包含層 | 26.8 | — | — | — | 口縁端部若干外折 | (外)ヨコナデ　タタハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ　ナデ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 177-05 | 深 単純口縁(外反E) | 2B | 屈折ベルト | 包含層 | 26.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タタハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜前後の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 177-06 | 深 単純口縁(外反E) | | | 包含層 | 25.2 | — | — | — | | (外)摩滅により<br>(内)　調整不明 | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 177-07 | 深 単純口縁(外反E) | 2A | | 包含層 | 21.8 | — | — | — | 口縁端部うすくなる | (外)摩滅により不明<br>(内)ナデ　ヨコナデ　ヘラケズリ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 177-08 | 深 単純口縁(外反E) | 2D | | 包含層 | 27.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 177-09 | 深 単純口縁(外反E) | 1A | | 包含層 | 30 | — | — | — | 口縁端部内面肥厚 | (外)ヨコナデ　タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 178-01 | 中形壺 | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 板合口縁状 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-02 | 中形壺 | 1C北 | | 包含層 | 10.8 | — | — | — | 口縁部内肉 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ？　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-03 | 中形壺 | 1D | | 包含層 | 10.4 | — | — | — | | (外)タテハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 178-04 | 中形壺 | 1D北 | | 包含層 | 12 | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1～3㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗橙褐色 |
| 178-05 | 中形壺 | 1C | | 包含層 | 11.2 | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)橙灰褐色<br>(内)橙灰褐色 |
| 178-06 | 中形壺 | 2D | | 包含層 | 12 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)茶褐色 |
| 178-07 | 中形壺 | 1A | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-08 | 中形壺 | 2D | | 包含層 | 13 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タテ→ヨコハケ<br>(内)ヨコナデ　指頭圧痕　ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡褐色 |
| 178-09 | 中形壺 | | 1トンチ | 包含層 | 14.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-10 | 中形壺 | 1D | | 包含層 | 14.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)暗褐色 |
| 178-11 | 中形壺 | 1C | サブトレンチ | 包含層 | 13.6 | — | — | — | 口縁端部内面内湾気味 | (外)ナデ　ヨコナデ<br>(内)ナデ　ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)茶褐色<br>(内)茶褐色 |
| 178-12 | 中形壺 | 1D | | 包含層 | 13 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-13 | 中形壺 | 1D | | 包含層 | 10.2 | — | — | — | 丹弦り<br>口縁直立する | (外)ヨコナデ(内)ヨコナデ　ヘラケズリ　ヘラケズリ後ナデ | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 178-14 | 中形壺 | 1C北 | | 包含層 | 10 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-15 | 中形壺 | 3A | | 包含層 | 9.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タタハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)黄褐色 |
| 178-16 | 中形壺 | 2D | | 包含層 | 11 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 178-17 | 中形壺 | 2B | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　細調整　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗橙褐色<br>(内)暗黄褐色 |
| 178-18 | 中形壺 | 1C | | 包含層 | 11 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　(内)ヨコナデ<br>指頭圧痕　ヘラケズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-19 | 中形壺 | 2D | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 178-20 | 中形壺 | 2A | | 包含層 | 12.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 178-21 | 中形壺 | 1A | SK02 | 掘土内 | 13.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヨコハケ　指頭圧痕　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-22 | 中形壺 | 1C | | 包含層 | 13.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 2～3㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 178-23 | 中形壺 | | 4トレンチ | 黒褐色土2層 | 13.8 | — | — | — | スス付着 | (外)ヨコナデ　(内)ヨコナデ<br>ヘラケズリ　指頭圧痕？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐橙色<br>(内)褐色 |
| 178-24 | 中形壺 | 2D | | 包含層 | 12.7 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 178-25 | 小形壺 | 1D | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | 口縁端部外折<br>(外・内)指頭圧痕 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾊｹ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 178-26 | 小形壺 | 1C | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | 口縁端部内湾気味 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 179-01 | 広口壺 | 1D | | 包含層 | 27.1 | — | 27.6 | — | 内面に麻色の顔料を塗布？ | (外)ヨコナデ ﾀﾃﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾊｹ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黒褐色 |
| 179-02 | 広口壺 | 1D北 | | 包含層 | 20.8 | — | 21.6 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 179-03 | 突帯付壺 | 3 | 谷底 | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)指頭圧痕？ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗褐色 |
| 179-04 | 突帯付壺 | 1D | サブトレンチ | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 179-05 | 壺 | 2C | | 包含層 | 21.4 | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 2～5㎝の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 180-01 | 小形壺B1 | 1D | | 包含層 | 10.5 | — | — | — | 口縁部長い<br>黒斑 | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 180-02 | 小形壺B1 | 1D北 | | 包含層 | 11.4 | — | — | — | | (外)不明<br>(内)ヘラケズリ | 精製 | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 180-03 | 小形壺B1 | 1D | | 包含層 | 10.5 | — | — | — | | (外)摩滅により不明<br>(内)ヘラケズリ | 精製 | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 180-04 | 小形壺B1 | 1D | | 包含層 | — | — | 8 | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃ→ﾖｺﾊｹ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 精製 | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 180-05 | 小形壺<br>(器部) | 1C | | 包含層 | — | — | 9.2 | — | | (外)ハケ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 180-06 | 小形壺B1 | 1D | サブトレンチ | 包含層 | 11 | — | — | — | | (外)ヨコナデ？<br>(内)調整不明 | 精製 | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 180-07 | 小形壺B2 | 1C | | 包含層 | 9.8 | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 180-08 | 小形壺B3 | 1B | | 包含層 | 8 | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ？ヘラケズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗黄褐色 |
| 180-09 | 小形壺B3 | 1D | | 包含層 | 8.4 | 9 | 8.8 | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ヘラケズリ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 180-10 | 小形壺C1 | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 密 | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 180-11 | 小形壺C3 | 1B北 | | 包含層 | 7.8 | — | 9.4 | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 密 | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 180-12 | 小形壺C2 | 1D | | 包含層 | 7.6 | 7.5 | 9.4 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 180-13 | 小形壺D1 | 3A | | 包含層 | 9.1 | — | — | — | 丹塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 180-14 | 小形壺D1 | 1C | | 包含層 | 10 | — | 13 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)橙褐色 |
| 180-15 | 小形壺<br>E(D?) | 2C | | 包含層 | 11.4 | — | 11.8 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)橙褐色 |
| 180-16 | 小形壺D2 | 2D | | 包含層 | 11.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗褐色 |
| 180-17 | 小形壺B4 | 1D | | 包含層 | 9.0 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ？ | 精製 | (外)橙褐色<br>(内)暗褐色 |
| 180-18 | 小形壺D2 | 1D | | 包含層 | 11.4 | — | — | — | 口縁端部内面に折り返す | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)褐色<br>(内)暗褐色 |
| 180-19 | 小形壺C3 | 1C | | 包含層 | 10 | — | (12.6) | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～4㎜程度の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 180-20 | 小形壺C3 | 1C北 | | 包含層 | 7.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)暗橙褐色<br>(内)暗茶褐色 |
| 180-21 | ミニチュア<br>土器 | 2C | | 包含層 | 6 | — | — | — | | (外)ナデ ハケ<br>(内)ﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 180-22 | ミニチュア<br>土器 | 2A | | 包含層 | 6.2 | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 180-23 | ミニチュア<br>土器 | 1C | | 包含層 | 7.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 180-24 | 直口壺 | 1D北 | | 包含層 | 11.2 | — | 14 | — | 口縁部若干複合口縁状 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃ→ﾖｺﾊｹ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 密1㎜程の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)暗橙褐色 |
| 180-25 | 直口壺 | 1C | | 包含層 | 10 | 11.2 | 11.4 | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾖｺ→ﾀﾃﾊｹ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 180-26 | 直口壺 | 2B | | 包含層 | 9 | — | — | — | | (外)ﾀﾃﾊｹ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ヨコハケ ナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 180-27 | 直口壺 | 1C | | 包含層 | 9.8 | 11.4 | 12.2 | — | | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 底径 | 残存 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 180-39 | 小形壺（頸部） | 1D北 | | 包含層 | — | — | 13.8 | — | 黒斑 | (外)調整不明<br>(内)ヘラケズリ？ | 密 | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 181-01 | 甕　単純口縁(外反D) | 1D | | 包含層 | 14.7 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　タタキ?<br>(内)ヨコナデ　ヘラケズリ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 181-02 | 特異な壺・鉢 | 1D | | 包含層 | 12.8 | — | — | — | 沈線文？ | (外)ナデ　(内)ナデ<br>ヘラナズリ　指頭圧痕？ | 1㎜以下の砂粒含む | (赤)暗灰褐色<br>(黒)淡灰褐色 |
| 181-03 | 特異な壺・鉢 | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ？ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 181-04 | 特異な壺・鉢 | 2D？ | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)赤褐色 |
| 181-05 | 特異な壺・鉢 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラナズリ後ナデ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐灰色<br>(内)淡橙褐色 |
| 181-06 | 特異な壺・鉢 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (赤)暗灰褐色<br>(黒)褐灰色 |
| 181-07 | 特異な壺・鉢 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ　ナデ？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黒褐色<br>(内)暗褐色 |
| 181-08 | 特異な坏・鉢 | | 4トレンチ | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡褐灰色 |
| 181-09 | 特異な坏・鉢 | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　指頭圧痕？ヘラナズリ？<br>(内)ナデ　ヘラナリ | 1㎜以下の砂粒含む | (赤)淡橙褐色<br>(黒)暗灰褐色 |
| 181-10 | 手捏ね土器 | 2A | | 包含層 | 4.8 | 2.6 | — | — | | (外)ナデ？　指頭<br>(内)ナデ？　圧痕 | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)黄灰褐色<br>(内)黄灰褐色 |
| 181-11 | 手捏ね土器 | 1C | | 包含層 | 4.2 | 2 | — | — | | (外)ナデ　指頭<br>(内)ナデ　圧痕 | 1～2㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 181-12 | 手捏ね土器 | 1D | | 包含層 | 4.6 | 2.2 | — | — | | (外)ナデ　指頭<br>(内)ナデ　圧痕？ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 181-13 | 手捏ね土器 | 1D北 | | 包含層 | 4.4 | 2 | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 181-14 | 磨輪片 | | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)　摩滅により<br>(内)　調整不明 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 181-15 | 製勝形磨輪片 | | 11トレンチ | 表土 | — | — | — | — | 突帯付 | (外)　摩滅により<br>(内)　調整不明 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 182-01 | 高坏（坏部B） | 1C | | 包含層 | 25.4 | — | — | — | | (外)　摩滅により<br>(内)　調整不明 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)褐灰色<br>(内)暗褐色 |
| 182-02 | 高坏（坏部B?C?） | 1C | | 包含層 | 22.2 | — | — | — | | (外)　摩滅により<br>(内)　調整不明 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 182-03 | 高坏（坏部B） | 2D | | 包含層 | 24 | — | — | — | | (外)ヨコナデ？<br>(内)ヨコナデ後ハケメ？ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 182-04 | 高坏（坏部B） | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ？ナデ？<br>(内)ヨコナデ　ナデ？ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 182-05 | 高坏（坏部C） | 1C | | 包含層 | — | — | 13 | … | 坏部の段はやや不明瞭 | (外)ナデ　ハケ<br>(内)ナデ　ハケ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 182-06 | 高坏（脚部?） | 1D | | 包含層 | 16 | 10.6 | — | 9.6 | 円形2方透し | (外)ヨコナデ　ハケ<br>(内)ヘラミガキ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 182-07 | 高坏（坏部B～?） | 3G | | 包含層 | 16 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 182-08 | 高坏（坏部C） | 1D | | 包含層 | 17.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 182-09 | 高坏（坏部B） | 1D？ | | 包含層 | 19.6 | — | — | — | 黒斑　スス？ | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黒褐色<br>(内)淡黒褐色 |
| 182-10 | 高坏（坏部C） | 2D | | 包含層 | 20.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ　ヘラミガキ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗黄褐色<br>(内)明黄褐色 |
| 182-11 | 高坏（坏部C～?） | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 月塗り | (外)ヨコ・タテハケ　ハケ後ヨコナデ<br>(内)ヨコハケ　ハケ後ヨコナデ？ | 精製 | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 182-12 | 高坏（坏部C～?） | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 月塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 182-13 | 高坏（坏部C） | 1D | | 包含層 | 17.2 | — | — | — | 丹塗り | (外)ヨコナデ　ナデ<br>(内)ヨコナデ　ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 182-14 | 高坏（坏部C～?） | 1D | | 包含層 | 14.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ　ナデ？<br>(内)ヨコナデ　ナデ？ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 182-15 | 高坏（坏部C） | 1D | | 包含層 | 13.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ？　ナデ？<br>(内)ヨコナデ？　ナデ？ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-01 | 高坏（脚台部?） | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　ヨコナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-02 | 高坏（脚台部?） | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)摩滅により不明<br>(内)ヘラミガキ？ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗黄褐色<br>(内)橙黄褐色 |
| 183-03 | 高坏（脚台部?） | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ハケ<br>(内)摩滅により不明 | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 183-04 | 高坏<br>(接合部α) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ハケ<br>(内)ナデ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-05 | 高坏(脚部γ—1) | 2B | | 包含層 | 16 | 10.6 | — | 9.6 | 沈線文1条 | (外)ﾀﾃﾊｹ ﾍﾗﾐｶﾞｷ?<br>ﾅﾃﾞ? (内)ナデ | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-06 | 高坏(脚部γ—1) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.2 | | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ナデ 絞り痕 | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-07 | 高坏<br>(接合部β) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-08 | 高坏<br>(接合部β) | 2B | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-09 | 高坏<br>(脚部β) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾅﾃﾞ ﾖｺ・ﾀﾃﾅﾃﾞ ﾊｹ<br>(内)ナデ ﾍﾗｹｽﾞﾘ? | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-10 | 高坏<br>(脚部β) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 13 | | (外)ﾍﾗﾐｶﾞｷ ﾀﾃ･ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ナデ? ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-11 | 高坏<br>(脚部β) | 1B北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ハケ ﾀﾃﾅﾃﾞ<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-12 | 高坏<br>(脚部β) | 不明 | | 包含層 | — | — | — | 11.2 | | (外)摩滅により不明<br>(内)ナデ ヘラケズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-13 | 高坏<br>(脚部β) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 8.4 | 黒斑 スス? | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ヘラミガキ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ? | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-14 | 高坏<br>(接合部β) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | スス | (外)ハケ ﾊｹ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ヘラミガキ ナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)暗橙褐色<br>(内)暗橙褐色 |
| 183-15 | 高坏<br>(接合部β) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ハケ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-16 | 高坏<br>(脚部β) | 3 | | 包含層 | — | — | — | — | 充填粘土厚い<br>丹塗り | (外)ナデ<br>(内)ナデ? | 1㎜前後の砂粒若干含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-17 | 高坏(接合部γ—1) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 9 | 丹塗り | (外)ﾊｹ ﾍﾗﾐｶﾞｷ? ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾖｺﾅﾃﾞ | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 183-18 | 高坏(接合部γ—1) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾍﾗﾐｶﾞｷ<br>(内)ﾍﾗﾐｶﾞｷ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-19 | 高坏<br>(脚部γ?) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ハケ<br>(内)絞り痕? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-20 | 高坏(接合部γ—4) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾍﾗﾐｶﾞｷ 静止ﾅﾃﾞ? | ほぼ精製 | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-21 | 高坏(接合部γ—4) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾀﾃﾊｹ<br>(内)ﾍﾗﾐｶﾞｷ? ﾅﾃﾞ | 1～2㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-22 | 高坏(脚部γ—2) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 低脚 | (外)ヨコナデ ハケ<br>(内)ナデ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 183-23 | 高坏(接合部γ—2) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 低脚 | (外)ヨコナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)暗黄褐色<br>(内)暗黄褐色 |
| 183-24 | 高坏(接合部γ—2) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 低脚 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 183-25 | 高坏(脚部γ—2) | 1D | | 包含層 | — | — | — | (9.6) | 丹塗り | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾊｹ<br>(内)ﾅﾃﾞ? ﾍﾗｹｽﾞﾘ? | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-26 | 高坏(脚部γ—2) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.8 | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ 絞り痕? ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-27 | 高坏(接合部γ—2) | | | 排土 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-28 | 高坏(脚部γ—3) | 3A | | 包含層 | — | — | — | (16.8) | 丹塗り | (外)ナデ (内)絞り痕?<br>ﾍﾗｹｽﾞﾘ? ﾖｺﾅﾃﾞ | 1㎜以下の砂粒若干含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 183-29 | 高坏(脚部γ—3) | 3A | | 包含層 | — | — | — | — | 丹塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)絞り痕 ヨコナデ | 精製? 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 183-30 | 高坏(脚部γ—3) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.7 | | (外)ﾍﾗﾐｶﾞｷ ナデ<br>(内)ナデ ﾍﾗﾐｶﾞｷ? | 精製 | (外)赤褐色<br>(内)橙褐色 |
| 184-01 | 高坏<br>(脚端部A) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 10.8 | 脚端部面あり | (外)ナデ ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 184-02 | 高坏<br>(脚部β) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 11.2 | 脚端部面あり | (外)ﾅﾃﾞ ﾊｹ ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 184-03 | 高坏<br>(脚部β) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.7 | | (外)ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰褐色<br>(内)淡灰褐色 |
| 184-04 | 高坏<br>(脚端部A) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.2 | | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 184-05 | 高坏<br>(脚端部A) | 1D | | 包含層 | — | — | — | (9.6) | | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ヨコナデ ナデ | 1㎜程の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡褐色 |
| 184-06 | 高坏<br>(脚端部B) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.6 | 丹塗り | (外)ナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 184-07 | 高坏<br>(脚端部B) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10 | | (外)ヨコナデ<br>(内)調整不明 | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 184-08 | 高杯（脚端部B） | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 8.4 | | (外) 摩滅により (内) 調整不明 | 精製 1mm以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 184-09 | 高杯（脚端部B） | 1D | | 包含層 | — | — | — | 12.8 | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞﾘ？ ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ (内)ﾍｶﾗｽﾞﾘ ﾖｺﾅﾃﾞ | 1mm以下の砂粒若干含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 184-10 | 高杯（脚端部B） | 2D | | 包含層 | 8.5 | — | — | — | 透かし | (外)ナデ (内)ヨコハケ | 1mm以下の砂粒含む | (外)赤褐色 (内)赤褐色 |
| 184-11 | 高杯（脚端部B） | 1C | | 包含層 | — | — | — | 11.8 | | (外)ナデ ヨコナデ (内)ハケ | 1mm以下の砂粒若干含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 184-12 | 高杯（脚端部B） | 2D | | 包含層 | — | — | — | 9.1 | | (外)タテハケ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ | 1～2mmの砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 185-01 | 低脚の高杯 | 2A | | 包含層 | — | — | — | 8.2 | 丹塗り | (外)ヨコナデ (内) | 1～2mm前後の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 185-02 | 低脚の高杯 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 9.2 | 丹塗り | (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ | 精製 1mm以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 185-03 | 低脚の高杯 | 1? | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | 充填粘土厚い | (外) 摩滅により (内) 調整不明 | 3mm前後の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-04 | 低脚坏 | 3B | | 包含層 | 12.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ？ (内)ナデ ﾍｶﾗﾐｶﾞｷ | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-05 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | 14.6 | 6.7 | 14.8 | 6.2 | | (外)ナデ ヨコナデ (内)ナデ ハケ | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-06 | 低脚坏 | 3A? | | 包含層 | — | — | — | 6.6 | | (外) 摩滅により (内) 調整不明 | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-07 | 低脚坏 | 1C | | 包含層 | 12.7 | — | — | — | 混来 | (外)指頭圧痕 (内)摩滅により不明 | 1～4mmの砂粒多く含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 185-08 | 低脚坏 | | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾊｹ (内)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾐｶﾞｷ | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-09 | 低脚坏 | 1A | | 包含層 | 13.1 | — | — | 6.7 | | (外)ナデ 指頭圧痕 (内)ナデ ハケ | 精製？ | (表)淡橙褐色 (断)暗灰褐色 |
| 185-10 | 低脚坏 | 2D | | 包含層 | 5 | — | — | — | | (外)ナデ？ (内)ナデ？ | 1～2mmの砂粒含む | (外)内)淡橙褐色 (他)暗灰褐色 |
| 185-11 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 4.4 | | (外)指頭圧痕 (内)摩滅により不明 | 1～3mmの砂粒含む | (外)褐色 (内)褐色 |
| 185-12 | 低脚坏 | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | 5.6 | | (外)ヨコナデ (内)ﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ後ﾖｺﾅﾃﾞ？ | 1mm以下の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-13 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.7 | | (外)ﾍｶﾗｽﾞﾘ後ﾖｺﾅﾃﾞ？ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ | 1mm以下の砂少し含む | (外)内)黒褐色 (他)暗灰褐色 |
| 185-14 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8 | 丹塗り | (外)ナデ？ ハケ？ (内)ヨコナデ？ | 精製？ | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 185-15 | 低脚坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 8.6 | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ (内)ﾍｶﾐｶﾞｷ ﾖｺﾅﾃﾞ 指頭圧痕 | 1～3mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-16 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.8 | | (外)ヨコナデ (内)摩滅により不明 | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-17 | 低脚坏 | 2B | | 包含層 | — | — | — | 7 | 丹塗り | (外)ヨコナデ (内)ナデ？ | 1～2mmの砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 185-18 | 低脚坏 | 2B | | 包含層 | — | — | — | 7.6 | | (外)ナデ ヨコナデ (内)ナデ ヨコナデ | 1～2mmの砂粒多く含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 185-19 | 低脚坏 | 2C | | 包含層 | — | — | — | 7.4 | 丹塗り | (外)ヨコナデ (内)ナデ ヨコナデ | 1mm以下の砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 185-20 | 低脚坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | 丹塗り | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ (内)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ | 1～2mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 185-21 | 低脚坏 | 1C | | 包含層 | — | — | — | 8.2 | 丹塗り | (外)ナデ (内)ﾍｶﾐｶﾞｷ 指押さえ | 2～4mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 185-22 | 低脚坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.8 | | (外)ナデ 指頭圧痕 (内)指頭圧痕 | 1～2mmの砂粒含む | (外)暗橙褐色 (内)暗橙褐色 |
| 185-23 | 低脚坏 | 1C | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | 脚部裾形 丹塗り | (外)指頭圧痕 (内)指頭圧痕 | 1～3mmの砂粒含む | (外)淡橙褐色 (内)淡橙褐色 |
| 186-01 | 坏 | 1D | | 包含層 | 14 | 4.8 | — | — | 丹塗り 須恵器模倣 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ (内)ヨコナデ | 精製 | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 186-02 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | 坏端部は肥由 丹塗り | (外)ヨコナデ (内)ヨコナデ | 密 | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 186-03 | 坏 | 1D北 | | 包含層 | 11.6 | — | 12 | — | 端部付近肥厚 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ (内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ | 1～2mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 186-04 | 坏 | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | 端部付近肥厚 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾊｹ後ﾅﾃﾞ？ (内)ヨコナデ | 1～3mmの砂粒含む | (外)橙褐色 (内)暗褐色 |
| 186-05 | 坏 | 3A | | 包含層 | 12 | — | — | — | 丹塗り | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ (内)ヨコナデ | 1mm程の砂粒含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |
| 186-06 | 坏 | 1C北 | | 包含層 | 11 | — | — | — | | (外)ﾅﾃﾞ ヨコナデ (内)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍｶﾗｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ | 1～2mm大の砂粒多く含む | (外)橙褐色 (内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 底大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 186-07 | 坏 | 2D | | 包含層 | 11.7 | 3.2 | — | — | 内塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 密 | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 186-08 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12 | — | — | — | 内塗り | (外)ヨコナデ?<br>(内)調整不明 | 密1㎜前の砂粒少し含む | (外)黒褐褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 186-09 | 坏 | 1C | | 包含層 | 12.2 | 4.2 | — | — | | (外)ﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ | 密1㎜前の砂粒若干含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 186-10 | 坏 | 2B | | 包含層 | 10.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-11 | 坏 | 1D | | 包含層 | 15 | — | — | — | LI縁部外折 | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ヨコナデ | 2㎜前後の砂粒多く含む | (外)褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-12 | 坏 | 1C | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | LI縁部外折 | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)淡茶褐色<br>(内)淡茶褐色 |
| 186-13 | 坏 | 1C北 | | 包含層 | 16.3 | — | — | — | LI縁部外折 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 186-14 | 坏 | 1D | | 包含層 | 12.9 | — | — | — | 口縁内面に折れる<br>内塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)褐色 |
| 186-15 | 坏 | 3谷 | | 包含層 | 13 | — | (13.6) | — | | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾅｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 186-16 | 坏 | 3A | | 包含層 | 13 | 5.4 | 13.4 | — | | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 密 | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-17 | 坏 | 1C北 | | 包含層 | 13.6 | 5 | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ? ﾍﾗﾅｽﾞﾘ?<br>(内)ヨコナデ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 186-18 | 坏 | 3谷 | | 包含層 | 15 | 5.3 | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 1㎜前の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-19 | 坏 | 2D | | 包含層 | 15.4 | 6 | — | — | | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ?<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-20 | 坏 | 2A | | 包含層 | 14.2 | — | 14.8 | — | | (外)摩滅により不明<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ? | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-21 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12.6 | — | — | — | | (外)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>後ﾅﾃﾞ?(内)ﾅﾃﾞ ﾖｺﾅﾃﾞ | 密 金雲母の小粒含む | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 186-22 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12.4 | 5.3 | — | — | | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ? | 1～2㎜前の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-23 | 坏 | 1C北 | | 包含層 | 13.1 | 3.6 | — | — | 口縁端部内折<br>丹塗り | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ヨコナデ 静止ナデ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 186-24 | 坏 | 2B | | 包含層 | 13.2 | — | — | — | 黒斑 | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)暗褐色 |
| 186-25 | 坏 | 1D | | 包含層 | 15 | — | — | — | 口縁端部若干外折 | (外)ヨコナデ?<br>(内)調整不明 | 1㎜前の砂粒若干含む | (外)明橙褐色<br>(内)明橙褐色 |
| 186-26 | 坏 | 1C | | 包含層 | 15.4 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 186-27 | 坏 | 2A | | 包含層 | 14.3 | — | — | — | 丹塗り<br>口縁端部に段あり | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 186-28 | 坏 | 1C | | 包含層 | 13.6～12.4 | 4 | — | — | LI縁端部内折 | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ?<br>(内)ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ | 2㎜程度の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-01 | 坏 | 3A | | 包含層 | 11.2 | — | — | — | | (外)ヨコナデ?<br>(内)ナデ ヨコナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-02 | 坏 | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 口縁端部屈曲<br>丹塗り | (外)ヨコナデ<br>(内)ナデ? | 密 | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 187-03 | 坏 | 2A | | 包含層 | — | — | — | 12.8 | 高台付<br>丹塗り | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 精製 | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-04 | 坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 底部に「ヨ」<br>丹塗り | (外)ﾍﾗﾅｽﾞﾘ 回転ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ | 精製 | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-05 | 坏 | 2D | | 包含層 | 14.2 | 3.1 | — | 6.6 | 回転糸切り痕 | (外)ヨコナデ 糸切り痕<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-06 | 坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 6.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転糸切り 回転ナデ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 精製 | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-07 | 坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 5.2 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ 回転糸切り痕(内)回転ナデ | 密 | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-08 | 坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 5.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ 回転糸切り<br>(内)回転ナデ 静止ナデ | 密 | (外)褐色<br>(内)褐色 |
| 187-09 | 坏 | 2C | | 包含層 | — | — | — | 6 | 回転糸切り痕 | (外)回転糸切り 回転ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密 | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 187-10 | 鉢 | 2C | | 包含層 | 18.6 | — | — | — | LI縁部外折 | (外)ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)ヨコナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)褐色 |
| 187-11 | 鉢 | 2D | | 包含層 | 13.6 | — | — | — | LI縁部外折 | (外)ヨコナデ ナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ?<br>(内)ヨコナデ ナデ | 2㎜程度の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-12 | 鉢 | 2D | | 包含層 | 13.8 | — | — | — | 口縁部外折 | (外)ヨコナデ ナデ(内)<br>ヨコナデ ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ヨコナデ? | 2㎜程度の砂粒若干含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 187-13 | 鉢 | 1D | | 包含層 | 14.2 | — | — | — | 口縁部外折<br>沈線状の線1条 | (外)ヨコナデ<br>(内)ナデ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-14 | 鉢 | 1D | | 包含層 | 10.8 | — | 11.2 | — | | (外)ヨコナデ ハケ後ナデ?<br>(内)ヨコナデ 指頭圧痕 | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-15 | 鉢 | 1C | | 包含層 | 10 | 7.5 | 10.4 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-16 | 鉢 | 2D | | 包含層 | 12.1 | 6.6 | — | — | 丹塗り | (外)ヨコナデ ハケ?<br>(内)ヨコナデ ハケ | 密 5㎜大の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-17 | 鉢 | 2B | | 包含層 | 12.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ?<br>(内)調整不明 | 1㎜粒の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 187-18 | 鉢 | 1D北 | | 包含層 | 13.9 | — | — | — | | (外)ヨコナデ?<br>(内)ヨコナデ ヨコハケ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-19 | 鉢 | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ハケ ナデ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)橙褐色 |
| 187-20 | 鉢 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | やや異形の形態 | (外)ヨコナデ ナデ<br>(内)ヨコナデ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 187-21 | 鉢 | 3B | | 包含層 | 9.7 | 5.4 | 10.3 | — | 口縁部直立する | (外)ナデ(内)ナデ<br>ヘラナズリ後ナデ | 密 | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 187-22 | 鉢 | 2D | | 包含層 | 12.9 | 7.8 | 13.3 | — | 口縁部直立する<br>丹塗り | (外)ヨコハケ ナデ<br>(内)ヨコナデ ヨコハケ? | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-23 | 鉢 | 1C北 | | 包含層 | 13.2 | — | — | — | | (外)ナデ ヨコナデ<br>(内)ナデ ヘラナズリ後ナデ? | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 187-24 | 鉢 | 1D | | 包含層 | 16.6 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ ナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ | 1㎜個の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 187-25 | 鉢 | 1C北 | | 包含層 | 17.6 | — | 18.8 | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ | 2～3㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)暗褐褐色 |
| 188-01 | 甕(口縁) | 2C | | 包含層 | 31.3 | — | — | — | | (外)ヨコナデ ハケ ナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ後ハケメ ヘラナズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 188-02 | 甕(口縁) | 2D | | 包含層 | 25.6 | — | — | — | 黒褐 | (外)ナデ ハケ 指頭圧痕<br>(内)ナデ ヘラナズリ | 1～2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 188-03 | 甕(口縁) | 1C北 | | 包含層 | 25.8 | — | — | — | | (外)ヨコナデ タテ・ヨコハケ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 188-04 | 甕(口縁) | 1C北 | | 包含層 | 21 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 188-05 | 甕(口縁) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | 黒褐 | (外)ナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 188-06 | 甕(口縁) | 1D | | 包含層 | 18.3 | — | — | — | | (外)ヨコナデ<br>(内)ヨコナデ ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 188-07 | 甕(L縁) | 1D | | 包含層 | 25.2 | — | — | — | L1縁部外反<br>黒褐 | (外)ヨコナデ タテハケ<br>(内)ヨコナデ ナデ ヘラナズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 188-08 | 甕(L縁) | 2B | | 包含層 | 24.6 | — | — | — | 口縁部外反 | (外)ナデ ハケ<br>(内)ナデ ヘラナズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 188-09 | 甕(T縁) | 1C北 | | 包含層 | 24.9 | — | — | — | 風痕 | (外)ヨコナデ タテ・ナナメハケ<br>(内)ヨコハケ後ヨコナデ ヘラナズリ | 1㎜大の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 188-10 | 甕(T縁) | 3A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヨコナデ タテハケ<br>(内)ヘラナズリ ヨコナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 188-01 | 甕<br>(貯蔵の残) | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | | ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 188-05 | 甕<br>(貯蔵の残) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | 橙褐色 |
| 188-05 | 甕<br>(貯蔵の残) | 1C北 | | | — | — | — | — | | ナデ | 精製? | 淡橙褐色 |
| 189-04 | 甕<br>(底部の残) | 2C | | 包含層 | — | — | — | — | | ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | 橙褐色 |
| 189-05 | 甕(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 16 | | (外)調整不明 ハケ?<br>(内)調整不明 | 密 1㎜個の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 189-06 | 甕(底部) | | 1トンチ | 黒色帯含層 | — | — | — | — | | (外) 摩滅により<br>(内) 調整不明 | 密 | (外)黄褐色<br>(内)黄褐色 |
| 189-07 | 甕の把手(大) | 2B | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は貼りつけ | (外)ナデ<br>(内)ヘラナズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 189-08 | 甕の把手(大) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ?<br>(内)ヘラナズリ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 189-09 | 甕の把手(大) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は貼りつけ | (外)ナデ<br>(内)ヘラナズリ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 189-10 | 甕の把手(大) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は差し込み式 | (外)ハケ<br>(内)ヘラナズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 189-11 | 甕の把手(大) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は差し込み式<br>風痕 | (外)ナデ<br>(内)ヘラナズリ | 密 1㎜前後の砂粒含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 189-12 | 甑の把手(大) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ハケ　ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 189-13 | 甑の把手(大) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は貼りつけ式 | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ? | 密 | (外)橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 190-01 | 甑の把手(大) | 2C | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は差し込み式 | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～2㎜大の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 190-02 | 甑の把手(小) | 3A | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は貼りつけ式 | (外)ナデ　タテハケ<br>(内)ヘラケズリ | 1㎜大の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 190-03 | 甑の把手(小) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ナデ<br>(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ　指頭圧痕? | 3㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 190-04 | 甑の把手(小) | 2C | | 包含層 | — | — | — | — | 接続は差し込み式 | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1～3㎜大の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 190-05 | 甑の把手(小) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 2㎜大の砂粒含む | (外)茶褐色<br>(内)茶褐色 |
| 190-06 | 甑の把手(小) | 3B | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　ハケ<br>(内)調整不明 | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 190-07 | 甑の把手(小) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 190-08 | 甑の把手(小) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 190-09 | 把手状の破片(A)甑? | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 190-10 | 把手状の破片(A)甑? | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 褐色 |
| 190-11 | 把手状の破片(A)甑? | | 11トレンチ | アカ土 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡黄褐色 |
| 190-12 | 把手状製品 | ? | ? | 表土 | — | — | — | — | | ヘラケズリ?ナデ | 1㎜以下の砂粒多く含む | 淡橙褐色 |
| 190-13 | 把手 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 環状 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 190-14 | 把手状の破片(A) | 3B | | 包含層 | — | — | — | — | | ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 190-15 | 把手状の破片(A) | 1D | サブトレンチ | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　ハケ?<br>(内)ナデ | 精製 | (表)淡黄褐色<br>(断)灰褐色 |
| 191-01 | 竈(口縁) | 2A | | 包含層 | 19.7 | — | — | — | スス付着 | (外)ﾖｺﾊｹ　ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ<br>(内)ﾊｹ　ﾖｺﾅﾃﾞ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡黄褐色 |
| 191-02 | 竈(口縁) | 2A | ベルト | 包含層 | 20.6 | — | — | — | | (外)ﾖｺﾅﾃﾞ　ﾊｹ　ﾊｹ後ﾖｺﾅﾃﾞ(内)ﾖｺﾅﾃﾞ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ | 1～2㎜の砂粒少し含む | 淡黄褐色 |
| 191-03 | 竈(口縁) | 2D | | 包含層 | 23.2 | — | — | — | | (外)　摩滅により<br>(内)　調整不明 | 精製?1～2㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 191-04 | 竈(底部) | 3B | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　指頭圧痕<br>(内)ヘラケズリ　ナデ | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 191-05 | 竈(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 29.6 | | (外)ﾀﾃﾊｹ　ナデ<br>(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ナデ | 1～5㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 191-06 | 竈(底部) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 底部内面に面あり | (外)ナデ(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ　指頭圧痕 | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 191-07 | 竈(底部) | 1A | ベルト | 包含層 | — | — | — | 36.3 | 黒斑 | (外)タテハケ　ナデ<br>(内)ヘラケズリ　ナデ | 1～3㎜の砂粒多く含む | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 192-01 | 竈(庇上部) | 2B | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 192-02 | 竈(庇上部) | ? | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ　指頭圧痕 | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡黄褐色 |
| 192-03 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ナデ | 砂粒少ない | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 192-04 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ?ﾍﾗｹｽﾞﾘ? | 1㎜以下の砂粒含む | 淡黄褐色 |
| 192-05 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 黒斑 | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 砂粒少ない | (外)橙褐色<br>(内)橙褐色 |
| 192-06 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | ? | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ?　ナデ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 192-07 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ　ナデ | 1～4㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 192-08 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 192-09 | 竈(庇ｺｰﾅｰ) | 3 | 南斜面 | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ(内)ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ | 1～5㎜の砂粒含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 192-10 | 竈(庇ｻｲﾄﾞ) | 2 | | 重機掘削土 | — | — | — | — | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 砂粒少ない | 淡褐色一部橙褐色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 192-11 | 竈(此サイド) | 2D | | 包含層 | − | − | − | − | | (外)ナデ ハケ<br>(内)摩滅により不明 | 1〜2㎜の砂粒含む | 淡黄褐色 |
| 193-01 | 土製支脚(A) | 2B | | 包含層 | − | − | − | − | 背面に円孔あり | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1〜3㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 193-02 | 土製支脚(A) | 2 | | 重機掘削土 | − | − | − | − | 背面に円孔あり | ナデ<br>ヘラケズリ | 1〜2㎜の砂粒含む | 淡黄褐色〜淡橙褐色 |
| 193-03 | 土製支脚(B) | 2A | | 包含層 | − | − | − | − | | ナデ<br>ヘラケズリ? | 1から3㎜の砂粒含む | 淡黄褐色〜淡橙褐色 |
| 193-04 | 土製支脚(B) | ? | | 重機掘削土 | − | 15.5 | − | 10.7 | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ後ナデ | 1〜6㎜の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 193-05 | 土製支脚(B) | ? | ? | 包含層 | − | 18.1 | − | 11.8 | 黒斑? | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒多く含む | 淡橙褐色 |
| 193-06 | 土製支脚(B) | 3B | | 包含層 | − | − | − | − | | (外)ナデ<br>(内)ヘラケズリ | 1㎜以下の砂粒含む | 淡橙褐色 |
| 194-01 | 土製支脚(B) | 2A | | 包含層 | − | − | − | − | | (外)ヘラケズリ?<br>(内)不明 | 1から3㎜の砂粒含む | 橙褐色 |
| 194-02 | 土製支脚(C) | | | 表土 | − | 14.8 | − | 9.4 | 背面にひれ付き | (外)ナデ<br>(内)ナデ 指頭圧痕? | 4㎜以下の砂粒多く含む | 淡橙褐色 |
| 194-03 | 土製支脚(脚) | 2C | | 包含層 | − | 9.9 | − | 13.4 | 大形 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1〜3㎜の砂粒多く含む | 淡橙褐色 |
| 194-04 | 土製支脚(D) | | | 排土 | − | 7.4 | − | 6.4 | 小形<br>黒斑? | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1〜5㎜の砂粒多く含む | 淡橙褐色 |
| 195-01 | 土錘状製品 | 2C | | 包含層 | − | − | − | − | 端部にヘラ描あり | ナデ | 精製 | 淡黄褐色 |
| 195-02 | 不明土製品 | 1C | | 包含層 | − | − | − | − | | (外) 摩滅により<br>(内) 調整不明 | 密? | (外)淡黄褐色<br>(内)橙褐色 |
| 195-03 | 孔の開けられた破片 | ?A | | 不明 | − | − | − | − | 孔4カ所 | (外) 摩滅により<br>(内) 調整不明 | 1〜2㎜の砂粒含む | 淡黄褐色 |
| 195-04 | 孔の開けられた破片 | 3 | | 包含層 | − | − | − | − | 孔1つ | (外)ナデ<br>(内)ナデ? | 1㎜以下の砂粒多く含む | (外)淡橙褐色<br>(内)淡橙褐色 |
| 196-01 | 須恵器 蓋坏(坏蓋) | | | 包含層 | 13.4 | − | − | − | 口縁端部肥厚<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰肌色<br>(内)青灰色 |
| 196-02 | 蓋坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | 12.4 | − | − | − | 口縁端部肥厚 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-03 | 蓋坏(坏蓋) | 1C | | − | 12.6 | − | − | − | 口縁端部肥厚 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 196-04 | 蓋坏(坏蓋) | 1A | ベルト | 包含層 | 11.8 | − | − | − | 口縁端部肥厚 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)白灰色<br>(内)白灰色 |
| 196-05 | 蓋坏(坏蓋) | 3B | | 包含層 | 13.2 | − | − | − | 口縁端部面あり | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-06 | 蓋坏(坏蓋) | 2C | | 包含層 | 14.7 | − | 14.7 | − | 口縁端部面あり | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 〜1㎜程の砂粒含む | (外)灰白色<br>(内)灰色 |
| 196-07 | 蓋坏(坏蓋) | 2A | | 包含層 | − | − | 12.4 | − | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 196-08 | 蓋坏(坏蓋) | 3A | | 包含層 | − | − | 13.7 | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-09 | 蓋坏(坏蓋) | 2B | | 包含層 | − | − | (15.8) | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 〜1㎜程の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)灰色 |
| 196-10 | 蓋坏(坏蓋) | 2C | | 包含層 | (16) | − | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密 3㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-11 | 蓋坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 13 | − | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)灰白色 |
| 196-12 | 高坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | 14.5 | − | 14.5 | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)ヘラケズリ<br>(内)ナデ | 密 1㎜程度の砂粒多い | (外)灰黄色<br>(内)灰黄色 |
| 196-13 | 蓋坏(坏蓋) | 2C | | 包含層 | (15) | − | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 〜1㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)黄灰色 |
| 196-14 | 蓋坏(坏蓋) | 2C | | 包含層 | 15 | − | 15 | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 196-15 | 蓋坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 14.6 | − | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡青紫色 |
| 196-16 | 蓋坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 14.6 | 4.5 | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 196-17 | 蓋坏(坏蓋) | 3A | | 包含層 | 14 | 4.5 | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-18 | 蓋坏(坏蓋) | 3A | | 包含層 | 13.3 | − | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-19 | 蓋坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 13.6 | 4.4 | − | − | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)ヘラケズリ<br>(内)ナデ | 2㎜以下の砂粒少し含む | 淡青灰色 |

| 第図 | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 196-20 | 器坏(坏蓋) | 2B | | 包含層 | 13.6 | 4.5 | — | — | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 5㎜前後の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 196-21 | 器坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | (13.6) | — | — | — | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)ヘラ切り後ﾍﾗｹｽﾞﾘ 回転ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 196-22 | 器坏(坏蓋) | | 1トンチ | 包含層 | 12.6 | (3.6)<br>以上 | — | — | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)ヘラ切り後ﾍﾗｹｽﾞﾘ 回転ﾅﾃﾞ(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 196-23 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-24 | 器坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 14.2 | — | — | — | 端部に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 196-25 | 器坏(坏蓋) | 1D北 | | 包含層 | 14.3 | — | — | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 暗青色 |
| 196-26 | 器坏(坏蓋) | 2B | | 包含層 | 12 | 4.9 | — | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 砂粒少し含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-27 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 196-28 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 14.8 | — | 14.8 | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 196-29 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 12.8 | — | — | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 196-30 | 器坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | (14.4) | — | (14.7) | — | 端部に浅い沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)静止・回転ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰黄色<br>(内)灰黄色 |
| 197-01 | 器坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | (15) | (4.3)<br>以上 | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)ﾍﾗｹｽﾞﾘ･回転ﾅﾃﾞ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 2㎜程の砂粒含む | (外)白灰色<br>(内)白灰色 |
| 197-02 | 器坏(坏蓋) | 1 | | 排土 | 15.1 | — | 15.1 | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ ﾅﾃﾞ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 197-03 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 13.4 | 4.8 | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以上の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 197-04 | 器坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 13.4 | 4.9 | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)ナデ | 2㎜以下の砂粒少し含む | (外)青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 197-05 | 器坏(坏蓋) | 2A | | 包含層 | (12.6) | 4.1 | (12.8) | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 197-06 | 器坏(坏蓋) | 2A | | 包含層 | 12.4 | 4.8 | 12.8 | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 197-07 | 器坏(坏蓋) | 2C | 4トンチ | 包含層 | (12.3) | — | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ﾅﾃﾞ ナデ | 密 ～2㎜程の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 197-08 | 器坏(坏蓋) | | 2トンチ | 包含層 | (12.4) | — | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ(内)回転ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 197-09 | 器坏(坏蓋) | 2B | | 包含層 | 12.3 | 4.4 | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)ﾅﾃﾞ 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ | 密 1㎜前後の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 197-10 | 器坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | 13 | 3.7 | — | — | 端部丸くおさめる | (外)回転ﾅﾃﾞ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 197-11 | 器坏(坏蓋) | 3 | 谷底 | 包含層 | 12.4 | 4.5 | — | — | 端部丸くおさめる | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ･ﾅﾃﾞ<br>(内)回転・静止ナデ | 3㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 197-12 | 器坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 197-13 | 器坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | 14.2 | — | — | — | 端部やや上に沈線をいれ段作成 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 197-14 | 器坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | 14.1 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰・暗褐色(内)灰色 |
| 197-15 | 器坏(坏蓋) | | 1トンチ | 包含層 | 13.4 | — | 13.4 | — | | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒多い | (外)青灰色<br>(内)白灰色 |
| 197-16 | 器坏(坏蓋) | | 4トンチ | 崩壊2層 | 13.1 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)灰褐色<br>(内)灰色 |
| 197-17 | 器坏(坏蓋) | 2D | | 包含層 | (13) | 3.4 | 13.4 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 197-18 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | (13) | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 ～2㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)淡黄灰色 |
| 197-19 | 器坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | 12.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 197-20 | 器坏(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 12.8 | — | 12.8 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ナデ | 1～3㎜以下の砂粒含む | 灰黄色 |
| 197-21 | 器坏(坏蓋) | 1C | | 包含層 | 12.4 | — | 12.6 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)灰色 |
| 197-22 | 器坏(坏蓋) | 1D北 | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 197-23 | 器坏(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰～青色<br>(内)青灰色 |

| 神図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 197-24 | 壺形(坏蓋) | | 1トレンチ | 包含層 | 12.2 | — | — | — | | (外)回転ﾍﾗﾅﾃﾞ･ﾘﾀﾁﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 197-25 | 壺形(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | 12.2 | (3.7)以上 | — | | 肩部に沈線文 | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)白灰色 (内)淡白灰色 |
| 197-26 | 壺形(坏蓋) | 1D | | 包含層 | 11.6 | 4 | 11.8 | — | | (外)ﾍﾗ切り 回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 197-27 | 壺形(坏蓋) | 1D北 | | 包含層 | 11.4 | — | — | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)灰青色 |
| 198-01 | つまみ付蓋 | 2 | 4トレンチ | 黒褐色土 | 8.6 | (2.2)以上 | 11 | — | 返りあり | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)静止･回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 198-02 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (13.2) | — | — | (10.6) | 返りあり | (外)ﾍﾗﾅｽﾞ後回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰色 |
| 198-03 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (13.2) | (3.6)以上 | (15.2) | — | 返りあり | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 198-04 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | 15.2 | 2.7 | 17 | — | 返りあり | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 198-05 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (14.6) | 3.8 | (16.8) | — | 返りあり | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)暗赤灰色 (内)灰ﾊﾟｰﾌﾟﾙ色 |
| 198-06 | つまみ付蓋 | | 3トレンチ | 包含層 | — | — | (15.4) | — | 返りあり | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転ナデ | 密 ～1㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色 (内)灰色 |
| 198-07 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 13.6 | — | 16 | — | 返りあり 返り部分貼りつけ？ | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-08 | つまみ付蓋 | 3A | | 包含層 | 13.6 | — | 16 | — | 返りあり | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ? (内)回転ナデ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-09 | つまみ付蓋 | 2 | | 包含層 | 14.4 | — | 16.4 | — | 返りあり | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転ナデ | 密 | (外)暗褐色 (内)暗褐色 |
| 198-10 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | 14.9 | 2.6 | 15.2 | — | 返りなし 自然釉付着 | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)ｵﾘｰﾌﾞ色 (内)灰色 |
| 198-11 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (15) | (3.1) | (15.6) | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)静止・回転ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-12 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (14) | (3.1) | (14.4) | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-13 | つまみ付蓋 | 2C | | 包含層 | 14.2 | 4.3 | 14.4 | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ 静止糸切り後ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-14 | つまみ付蓋 | 2C | | 包含層 | 16 | — | 16.4 | — | 返りなし | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 198-15 | つまみ付蓋 | 3B | | 包含層 | 16.2 | — | — | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-16 | つまみ付蓋 | 3 | 谷底西 | 包含層 | 16.6 | — | — | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転ﾅﾃﾞ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-17 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 16.2 | — | 16.8 | — | 返りなし | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ 後静止ﾅﾃﾞ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 198-18 | つまみ付蓋 | 1D | サブトレンチ | 包含層 | 14? | — | — | — | 返りなし | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | 灰色・暗青灰色 |
| 198-19 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (17.4) | — | (18) | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰黄色 (内)灰黄色 |
| 198-20 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | (14) | (2) | (14.4) | — | 返りなし | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-21 | つまみ付蓋 | 3A | | 包含層 | つまみ 4.8 | — | — | — | 返りなし | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-22 | つまみ付蓋 | | 3トレンチ | 包含層 | — | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後 ﾅﾃﾞ (内)回転ナデ | 密 ～1.5㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色 (内)黄灰色 |
| 198-23 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | — | — | — | (5.6) | 輪状つまみ | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ･ﾘﾀﾁﾞ (内)静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)灰黄色 (内)灰黄色 |
| 198-24 | つまみ付蓋 | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ナデ (内)静止ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 198-25 | つまみ付蓋 | 2 | | 重機掘削土 | 5.4 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)つまみ貼りつけ後回転ﾅﾃﾞ (内)静止ナデ | 密 5㎜大の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 198-26 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | つまみ 3.8 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ静止ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ 後静止ﾅﾃﾞ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)淡褐色 (内)灰褐色 |
| 198-27 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | つまみ 4.4 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ 静止ﾅﾃﾞ (内)静止ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)青灰色 (内)黄灰色 |
| 198-28 | つまみ付蓋 | 1D | | 包含層 | つまみ 5.2 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ (内)回転ナデ | 密 1～3㎜の砂粒含む | (外)灰色 (内)赤灰色 |
| 198-29 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | つまみ 3.6 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)淡褐色 |
| 198-30 | つまみ付蓋 | | | 重機掘削上 | つまみ 5.4 | — | — | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾅﾃﾞ･ﾍﾗﾅｽﾞﾘ (内)回転・静止ナデ | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)灰色 (内)灰色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 198-31 | つまみ付蓋 | 2A | ベルト | 包含層 | − | − | − | − | 輪状つまみ | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)静止ナデ | 密 1㎜くらいの砂粒含む | (外)青灰色 (内)暗青灰色 |
| 198-32 | つまみ付蓋 | 1D | | 包含層 | つまみ 5.6 | − | − | − | 輪状つまみ | (外)回転ナデ (内)ナデ | 1〜5㎜の砂粒含む | (外)茶灰色 (内)茶灰色 |
| 198-33 | つまみ付蓋 | 3 | 南側斜面 | 包含層 | つまみ 5.1 | − | − | − | 輪状つまみ | (外)糸切り? つまみ貼りつけ後回転ナデ (内)静止ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 199-01 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 13.8 | 3.7 | 14.2 | − | 宝珠状つまみ | (外)回転ナデ・ヘラケズリ 回転糸切り後ナデ (内)静止・回転ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 199-02 | つまみ付蓋 | 2B | | 包含層 | 2 | 2.3以上 | − | − | | (外)静止・回転ナデ (内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 199-03 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 17.3 | 2.7 | − | − | 宝珠状つまみ | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)灰色 |
| 199-04 | つまみ付蓋 | 1 | | 重機掘削土 | 177 | 2.6 | − | − | | (外)ヘラ切り後ナデ・ヘラケズリ 回転ナデ (内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色 (内)淡灰色 |
| 199-05 | つまみ付蓋 | 2B | 縦断ベルト | 包含層 | (16) | − | − | − | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ・ヘラケズリ | 密〜2㎜程の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 199-06 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 16.2 | − | − | − | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ ナデ? | 1〜2㎜の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 199-07 | つまみ付蓋 | 2B | 縦断ベルト | 包含層 | − | − | − | (15.9) | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 〜1㎜程の砂粒含む | (外)灰色 (内)暗黄灰色 |
| 199-08 | つまみ付蓋 | 1C | | 包含層 | 13.8 | − | − | − | | (外)回転糸切り後静止ナデ 回転ヘラケズリ・ナデ (内)静止・回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 199-09 | つまみ付蓋 | 2B | 縦断ベルト | 包含層 | (20) | − | − | − | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密〜1㎜以下の砂粒含む | (外)灰褐色 (内)灰褐色 |
| 199-10 | つまみ付蓋 | 2D | | 包含層 | 12.4 | − | − | − | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 199-11 | つまみ付蓋 | 2B | 2トレンチ | 包含層 | (14.5) | − | − | − | | (外)回転ヘラケズリ後回転ナデ (内)回転ナデ ナデ | 密〜1.5㎜程の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)暗灰色 |
| 199-12 | 蓋 | 1D 1D北 | サブトレンチ | 包含層 | 24.4 | − | − | − | 口縁部外面に面をもつ | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 200-01 | 蓋坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 12 | 4.9 | 13.8 | − | 口縁端部に面あり 底部にヘラ記号 | (外)回転ナデ 回転ナデ後ナデ (内)回転ナデ・ヘラケズリ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰青色 (内)青灰色 |
| 200-02 | 蓋坏(坏身) | 2B | | 包含層 | 10.6 | − | 12.3 | − | 口縁端部に面あり | (外)回転ヘラケズリ・ナデ (内)回転ナデ | 密 2㎜程の砂粒含む | (外)青灰色 (内)白灰色 |
| 200-03 | 蓋坏(坏身) | 1D北 | | 包含層 | 10.2? | − | − | 11 | 口縁端部に面あり | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密 4㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 200-04 | 蓋坏(坏身) | 1C | | 包含層 | − | − | − | − | 口縁端部拡張して沈線 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)濃灰色 (内)濃灰色 |
| 200-05 | 蓋坏(坏身) | 1C北 | 1トレンチ | 包含層 | 10.6 | 4.9 | 13.4 | − | 口縁端部拡張して沈線 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 200-06 | 蓋坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 12.2 | 5 | 14.6 | − | 口縁端部に段あり | (外)回転ヘラケズリ・ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色 (内)淡灰色 |
| 200-07 | 蓋坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 14.4 | 5 | 17.2 | − | 口縁端部に段あり | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)淡青灰色 |
| 200-08 | 蓋坏(坏身) | 2A | 縦断ベルト | 包含層 | (11.6) | − | (14.2) | − | 口縁端部に段あり | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 200-09 | 蓋坏(坏身) | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | 口縁部直立 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 200-10 | 蓋坏(坏身) | 3 | | 重機掘削土 | 12.3 | − | − | − | 自然釉付着 坏身内に小石あり | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 3㎜大の砂粒含む | (外)白灰色 (内)白灰色 |
| 200-11 | 蓋坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 11.8 | − | 12 | − | 口縁部直立 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)灰色 |
| 200-12 | 蓋坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 12.2 | − | 13.8 | − | 口縁部直立 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密 | 淡白褐色 |
| 200-13 | 蓋坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 11.6 | 6.6 | 14.2 | − | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 200-14 | 蓋坏(坏身) | 2B | | 包含層 | (11.4) | (4.2) | (14) | − | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 200-15 | 蓋坏(坏身) | 2A | | 包含層 | (11.4) | − | (14.1) | − | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 200-16 | 蓋坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 11.4 | − | 12.8 | − | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 200-17 | 蓋坏(坏身) | 1C北 | | 包含層 | 12.6 | 4.7 | 14.8 | − | | (外)回転ナデ ヘラ切り後ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)白灰色 (内)白灰色 |
| 200-18 | 蓋坏(坏身) | 2D | | 包含層 | 11.9 | 4.4 | 14.3 | 6.1 | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 200-19 | 蓋坏(坏身) | 1A | | | − | − | − | − | 口縁部内湾 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ (内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)灰黄色 (内)灰黄色 |

| 掘削No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 200-20 | 器坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 17.6 | — | 15.8 | — | 口縁部外反 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 200-21 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | (13.6) | 5.4 | 15.5 | — | 自然釉付着<br>ヘラ記号「×」 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 200-22 | 器坏(坏身) | 1C北 | | 包含層 | — | (3.3)<br>以上 | 15.4 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後ﾍﾗｹｽﾞﾘ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)白灰色<br>(内)白灰色 |
| 200-23 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | — | — | 15 | 4.8 | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 200-24 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | — | — | (14) | — | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 201-01 | 器坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 12.4 | — | 15 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 4㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 201-02 | 器坏(坏身) | | 1トレンチ | 黄褐色土 | 11.2 | 4.1 | 13.8 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 201-03 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 11.2 | — | 14 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ ヘラ切り後ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 2㎜の砂粒少し含む | (外)淡青灰色<br>(内)灰色 |
| 201-04 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | — | — | 13.8 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-05 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | (10.5) | (3.6) | (13.5) | — | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-06 | 器坏(坏身) | 2B | | 包含層 | 12 | 4.7 | 14.4 | — | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ(内)回転ﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ | 密～2.5㎜程の砂粒含む | (外)灰～黄灰色(内)灰色 |
| 201-07 | 器坏(坏身) | 3A | | 包含層 | 11.2 | 4.3 | 14.6 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り<br>(内)回転・静止ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)明灰色<br>(内)灰色 |
| 201-08 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 9.6 | — | 12.8 | — | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜程度の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡白灰色 |
| 201-09 | 器坏(坏身) | | 1トレンチ | 包含層 | 9 | 3.3 | 11.4 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ(内)回転ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 201-10 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 10.2 | — | 10.8 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 201-11 | 器坏(坏身) | | | 包含層 | 13.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 201-12 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | 12.8 | — | 15.2 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-13 | 器坏(坏身) | 2A | | 包含層 | (12.6) | — | (15.8) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-14 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 12 | — | 14.6 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜程の砂粒多い | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 201-15 | 器坏(坏身) | 2 | 4トレンチ | 褐色土2層 | 11.6 | — | 13.6 | — | | (外)回転ナデ 回転ナデ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 密 2㎜程度の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 201-16 | 器坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 11.6 | 3.8 | 14 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ? ヘラ切り後ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 201-17 | 器坏(坏身) | 1D北 | | 包含層 | 11.5 | 3.7 | 13.7 | 4 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1～3㎜の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)明青灰色 |
| 201-18 | 器坏(坏身) | 2A | | 包含層 | (11.2) | — | (13.6) | — | | (外)ヘラ切り後ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 201-19 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | 11 | — | 13.8 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 201-20 | 器坏(坏身) | 2B | 2トレンチ | 表土 | 11 | 4.7 | 13.8 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後静止ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 201-21 | 器坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 11 | — | 14 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密2.5㎜以下の砂粒含む | (外)淡青白色<br>(内)白青色 |
| 201-22 | 器坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 10.8 | — | 11.4 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)灰色 |
| 201-23 | 器坏(坏身) | 2A | | 包含層 | (10.8) | — | (13.8) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 3㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-24 | 器坏(坏身) | 2D | | 包含層 | (10.7) | — | (13.2) | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後ﾅﾃﾞ(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 201-25 | 器坏(坏身) | 1D<br>1D北 | | 包含層 | 10.6 | — | 13.2 | — | | (外)不明<br>(内)回転ナデ | 1．5㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 201-26 | 器坏(坏身) | 2B | | 包含層 | 10.5 | — | 13 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 201-27 | 器坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 10.4 | — | 13 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ ヘラ切り後ﾅﾃﾞ(内)回転ナデ | 密 5㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 201-28 | 器坏(坏身) | 1 | | 盛積土層 | 10.4 | 2.6 | 12.6 | — | | (外)回転・静止ﾅﾃﾞ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 201-29 | 器坏(坏身) | 1D北 | | 包含層 | 10.2 | — | 12.8 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ナデ | 1～3㎜以内の砂粒含む | 青灰色 |

| 神図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 201-30 | 器坏(坏身) | 2C | | 包含層 | 10.2 | — | 13 | — | | (外)ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ (内)静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 201-31 | 器坏(坏身) | 1C | | 包含層 | 9.8 | — | 12.2 | — | | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 201-32 | 器坏(坏身) | 1D | | 包含層 | 9.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)灰青灰色 |
| 202-01 | 坏 | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-02 | 坏 | 2A | | 包含層 | 10 | 4.1 | 10.2 | — | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ→ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ (内)静止・回転ナデ | 密 1㎜程の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 202-03 | 坏 | 2C | | 包含層 | 12.4 | — | 12.7 | — | ヘラによる痕 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 202-04 | 坏 | 2B | | 包含層 | (15) | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ ナデ | 密 ～1㎜程の砂粒含む | (外)灰褐色 (内)灰褐色 |
| 202-05 | 坏 | 2A | | 包含層 | 10.8 | — | 10.9 | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 202-06 | 坏 | 2D | | 包含層 | (11.4) | (4.4) | (11.7) | — | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-07 | 坏 | 3 | 南斜面 | 包含層 | 13.3 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 3㎜の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)灰色 |
| 202-08 | 坏 | 2B | | 包含層 | 11.8 | 4.5 | — | — | LJ線部シャープ 糸切り底 | (外)回転ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ ﾅﾃﾞ (内)回転ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ ﾅﾃﾞ | 2㎜程度の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 202-09 | 坏 | 2D | | 包含層 | (12) | — | (12.1) | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 202-10 | 坏 | 2B | | 包含層 | (10.8) | — | (11.2) | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-11 | 坏 | 2D | | 包含層 | 10.2 | — | (11.5) | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-12 | 坏 | 2D | | 包含層 | 10.2 | 3.9 | (10.4) | 6.7 | 回転糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ (内)静止・回転ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-13 | 坏 | | 3トレンチ | 包含層 | 13.4 | — | 14 | 9 | | (外)回転糸切り後ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ後静止ﾅﾃﾞ | 密 2㎜くらいの砂粒含む | (外)淡黄褐色 (内)淡黄褐色 |
| 202-14 | 坏 | 1D | | 包含層 | — | 3.9 | — | 9.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 3㎜以下の砂粒含む | 普通褐色～暗褐色 |
| 202-15 | 坏 | 1B | | 包含層 | 10 | 4.6 | 13.4 | 7.1 | 糸切り底 | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)赤灰色 (内)赤灰色 |
| 202-16 | 坏 | 1D | | 包含層 | 12.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 黄黒褐色 |
| 202-17 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12.1 | — | 12.4 | — | 糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)暗灰色 |
| 202-18 | 坏 | 2D | | 包含層 | 11.5 | 3.2 | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 202-19 | 坏 | 2D | | 包含層 | 10.1 | 5.5 | 10.5 | — | | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-20 | 坏 | 2A | 3トレンチ | 包含層 | (13.4) | — | (13.6) | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-21 | 坏 | | 3トレンチ | 包含層 | (14.4) | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密～2.5㎜の砂粒含む | (外)灰～灰褐色 (内)灰色 |
| 202-22 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12 | 4.3 | — | 7.6 | 糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 202-23 | 坏 | 2D | | 包含層 | 11.7 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)暗灰色 |
| 202-24 | 坏 | 1D 1D北 | | 包含層 | 11? | — | 11? | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色 (内)黒色 |
| 202-25 | 坏 | 2D | | 包含層 | 10.4 | 4.2 | 10.6 | 6.4 | | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)青灰色 |
| 202-26 | 坏 | 2B | | 包含層 | (10.6) | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰褐色 (内)灰黒褐色 |
| 203-01 | 坏 | 2A | | 包含層 | 11 | — | 11.4 | — | LJ線部大きく屈曲 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 203-02 | 坏 | 1D北 | | 包含層 | 10.2 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | 暗褐色 |
| 203-03 | 坏 | 1A | | ? | 10.8 | 3.8 | 10.8 | 7 | | (外)回転ナデ ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗緑灰色 (内)暗緑灰色 |
| 203-04 | 坏 | 1D | | 包含層 | 12.8 | 4.1 | — | 8 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)淡褐色 (内)淡褐色 |
| 203-05 | 坏 | 2D | | 包含層 | 12.6 | 4.2 | 12.7 | 8.1 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ 糸切痕静止ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ後静止ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |

| 検図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 203-06 | 坏 | 2D | | 包含層 | (12.3) | (3.1) | (12.6) | (8) | 糸切り痕 | (外)静止・回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-07 | 坏 | 2B | | 包含層 | (12.9) | — | (13.1) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-08 | 坏 | 1C北 | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 203-09 | 坏 | 1D | | 包含層 | 12.8 | 4.2 | 13.2 | 8.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡黄褐色<br>(内)淡赤褐色 |
| 203-10 | 坏 | 2A | | 包含層 | (11.6) | (3.6) | (12) | (8.4) | | (外)回転ナデ・ヘラナズリ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰褐色<br>(内)暗赤褐色 |
| 203-11 | 坏 | 1D | | 包含層 | 11.4 | 3.8 | 11.4 | 9 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 203-12 | 坏 | 2D | | 包含層 | (13.6) | — | (13.8) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-13 | 坏 | 2D | | 包含層 | 13.1 | — | 13.4 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-14 | 坏 | 2D | | 包含層 | 13.3 | 4.1 | 14.3 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-15 | 坏 | 2A | | 包含層 | 14 | — | 14.4 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜くらいの砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 203-16 | 坏 | 2C | | 包含層 | (11) | — | 11.4 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-17 | 坏 | 3B | | 包含層 | — | — | — | — | 墨部に沈線文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-18 | 坏 | 2B | 溝断ベルト | 包含層 | 9.8 | 3.5 | — | 6.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 203-19 | 坏 | 2D | | 包含層 | 9.4 | 3.5 | — | 5.8 | 糸切り痕？ | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-20 | 坏 | 1D | | 包含層 | 10.8 | 4.4 | — | 6.3 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 2㎜以下の砂粒少し含む | 青灰色 |
| 203-21 | 坏 | 2D | | 包含層 | 10.6 | 4.3 | 10.8 | 7.3 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-22 | 坏 | 2D | | 包含層 | 11 | — | — | — | 糸切り痕？ | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)黄灰色 |
| 203-23 | 坏 | 2D | | 包含層 | 11.9 | 3.6 | — | 8.1 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 203-24 | 坏 | 1D | | 包含層 | 11.2 | 3.7 | — | 6.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 203-25 | 坏 | 2D | | 包含層 | 14.5 | — | — | — | 口縁部沈線文2条 | (外)回転ナデ・ヘラナズリ<br>(内)回転ナデ | 2㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 203-26 | 坏 | 1D<br>1D北 | | 包含層 | 10.2 | — | — | — | 口縁部シャープ | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 暗青褐色 |
| 203-27 | 坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 10.2 | 深い | (外)回転ナデ・後ナデ　回転ケズリ後ナデ　ヘラナズリ(内)回転ナデ | 3㎜以下の砂粒含む | (外・面)暗青灰色(内)暗紫色 |
| 204-01 | 坏(底部) | | トトレンチ | 包含層 | — | — | — | (8.8) | 静止糸切り痕 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 密 ～1㎜程の砂粒含む | (外)暗赤褐色<br>(内)暗赤褐色 |
| 204-02 | 坏(底部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 204-03 | 坏(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 7.6 | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 204-04 | 坏(底部) | 1D | サブトレンチ | 包含層 | — | — | — | 7.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 4㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰褐色<br>(内)暗灰褐色 |
| 204-05 | 坏(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | 回転糸切り痕？ | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 暗黄褐色 |
| 204-06 | 坏(底部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | (7) | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 3㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 204-07 | 坏(底部) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 7.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | 暗青色 |
| 204-08 | 坏(底部) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 6.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 204-09 | 坏(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | 11.5 | 9.1 | 回転糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 204-10 | 坏(底部) | 3A | | 包含層 | — | — | — | 6.8 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 204-11 | 坏(底部) | 3 | 谷12 | 包含層<br>表土 | — | — | — | 8.8 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)黄灰色 |
| 205-01 | 蓋合付坏 | 2A | | 包含層 | 16 | (4.6) | — | (9.2) | 貼りつけ高台の接合痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | ～1㎜程度の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |

| 神図No | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 205-02 | 高台付坏 | 2B | | 包含層 | 14.8 | 4.1 | 15.8 | 9.8 | 糸切り痕？ | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ　回転ナデ | 密　6㎜くらいの礫含む | (外)青灰色<br>(内)淡黄灰色 |
| 205-03 | 高台付坏 | 2A | | 包含層 | 13.5 | 4.1 | 13.5 | 8.2 | | (外)回転ナデ　静止糸切り後ナデ (内)回転ナデ　ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-04 | 高台付坏 | 2A | | 包含層 | (12.6) | (5.1) | (13) | 8 | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-05 | 高台付坏 | 2B | | 包含層 | (13.2) | 4.5 | (8.8) | — | 貼りつけ高台 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)灰色 |
| 205-06 | 高台付坏 | 1C | | 包含層 | 12 | 4.6 | — | 9 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 205-07 | 高台付坏 | 2D | | 包含層 | 10.5 | 3.6 | — | 7.4 | 糸切り痕 | (外)回転ナデ　ヘラによるナデ (内)回転ナデ　ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 205-08 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | 16.6 | (4.5)以上 | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)灰白色<br>淡灰白色 |
| 205-09 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | 14.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 205-10 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 7 | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 205-11 | 高台付坏 | 2B | 横断ベルト | 包含層 | — | — | — | (8.8) | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-12 | 高台付坏 | 2A | | 包含層 | — | — | — | (9.4) | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密　3㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-13 | 高台付坏 | 2A | 縦断ベルト | 包含層 | — | — | — | (7) | 静止糸切り痕？ | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 | (外)緑灰色<br>(内)緑灰色 |
| 205-14 | 高台付坏 | 2C | | 包含層 | — | 2.3以上 | — | 7.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ　ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 205-15 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.8 | 糸切り後貼りつけ高台 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 1㎜以下の砂粒少し含む | 青灰色 |
| 205-16 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 9 | 回転糸切り痕 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 205-17 | 高台付坏 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 9.2 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | 淡黒色 |
| 205-18 | 高台付坏 | 2A | | 包含層 | — | — | — | 10.8 | 貼りつけ高台後ナデ | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　2㎜くらいの砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 205-19 | 高台付坏 | 2D | 南側斜面 | 包含層 | — | 2.8 | 13.1 | 8.8 | | (外)回転ナデ　ナデ?<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜前後の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-20 | 高台付坏 | 2A | ベルト | 包含層 | — | — | — | (8) | | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)緑灰色 |
| 205-21 | 高台付坏 | | 1トレンチ | 包含層 | — | — | — | 9.6 | | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡黄灰色 |
| 205-22 | 高台付坏 | | 南側斜面下 | 表土 | — | — | — | 9.9 | | (外)回転ナデ　ヘラ切り後静止ナデ (内)回転ナデ後静止ナデ | 3㎜大の砂粒含む | (外)茶灰色<br>(内)茶灰色 |
| 205-23 | 高台付坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 8.3 | 貼りつけ高台 | (外)回転ナデ後静止ナデ<br>(内)回転ナデ後静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)白褐色<br>(内)白褐色 |
| 205-24 | 高台付坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | (7.6) | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 205-25 | 高台付坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 8.7 | 貼りつけ高台<br>回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 205-26 | 高台付坏 | 3 | 谷部分 | 包含層 | — | — | — | 8.9 | 貼りつけ高台<br>糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)黄灰色<br>(内)黄灰色 |
| 206-01 | 高台付皿 | 2D | | 包含層 | (18) | (3.9) | (18.4) | (12.4) | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-02 | 高台付皿 | 2D | | 包含層 | 16.8 | 3.3 | — | 12.4 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-03 | 高台付皿 | 2B | 縦断ベルト | 包含層 | — | — | — | (16) | | (外)回転ヘラケズリ後回転ナデ (内)回転ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰褐色<br>(内)淡灰褐色 |
| 206-04 | 高台付皿 | 1D | | 包含層 | — | — | — | 13.4 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ　ナデ | 密　1～5㎜の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 206-05 | 高台付皿 | 2B | | 包含層 | (17.4) | — | — | (12.8) | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密～2㎜程の砂粒含む | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 206-06 | 高台付皿 | 2B | 横断ベルト | 包含層 | — | — | — | — | | (外)静止・回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密～2㎜程の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 206-07 | 高台付皿 | 3A | | 包含層 | — | — | — | 17.4 | 貼りつけ高台 | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-08 | 高台付皿 | 1B | | 包含層 | 18.6 | 3.8 | — | 12.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡緑灰色<br>(内)淡緑灰色 |
| 206-09 | 皿 | 2D | | 包含層 | 16.9 | — | 17.2 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |

| 掲図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 206-10 | 皿 | 2D | | 包含層 | 19 | — | 19.1 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-11 | 皿 | 2D | | 包含層 | 17.9 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-12 | 皿 | 1D | | 包含層 | 13.8 | — | — | — | 口縁肥厚 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1．5㎜以下の粒含む | 灰青色 |
| 206-13 | 高台付皿 | 1D | ラブトレンチ | — | — | — | — | 15 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ　ナデ | 密　1㎜以下の粒含む | 淡青灰色 |
| 206-14 | 高台付皿 | 1D | | 包含層 | — | 2.9 | — | 8.2 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ　ナデ | 密　1㎜以下の粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 206-15 | 高台付皿 | 2D | | 包含層 | 13.6 | 2.9 | 13.7 | 9.3 | 貼りつけ高台 | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 206-16 | 高台付皿 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 9.2 | 貼りつけ高台 | (外)回転ヘラナズリ後回転ナデ(内)静止ナデ | 2㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-17 | 高台付皿 | 2D | | 包含層 | — | — | — | 8.8 | 貼りつけ高台<br>回転糸切り痕 | (外)回転ナデ(内)回転・静止ナデ　回転ナデ後静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰灰色<br>(内)灰色 |
| 206-18 | 皿 | 2D | | 包含層 | (15.4) | — | (15.7) | — | 回転糸切り痕 | (外)回転ヘラナズリ・ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　5㎜以下の小石含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-19 | 皿 | 2B | 擬斑ベルト | 包含層 | 16.1 | 2.3 | 16.2 | — | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜程の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 206-20 | 皿 | 1D | | 包含層 | 13.4 | — | — | 8.6 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ　ナデ<br>(内)回転ナデ　ナデ | 6㎜以下の砂粒少し含む | 暗灰褐色 |
| 206-21 | 皿 | 2B | | 包含層 | (14.9) | — | — | (10.8) | 糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-22 | 皿 | 2D | | 包含層 | 14.9 | 2.9 | 15 | 9 | 回転糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-23 | 皿 | 2B | 擬斑ベルト | 包含層 | 14.8 | 2.2 | — | 10.2 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)灰黄褐色<br>(内)灰黄褐色 |
| 206-24 | 皿 | 2D | | 包含層 | (13.6) | (2.5) | (13.8) | — | 糸切り痕 | (外)回転ナデ→ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰黄色<br>(内)灰黄色 |
| 206-25 | 皿 | 1C | | 包含層 | — | 2.4 | 11.8 | — | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 206-26 | 皿 | 2D | | 包含層 | (13.2) | (2.6) | (13.4) | — | 回転糸切り痕 | (外)糸切り後ナデ　回転ナデ(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-27 | 皿 | 2D | | 包含層 | 14.5 | — | 1.8 | — | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 206-28 | 皿 | 1D北 | | 包含層 | 15.2 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | 暗青灰～暗紫色 |
| 207-01 | 無台高坏 | 2A | | 包含層 | (18.8) | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)灰～灰褐色(内)黄灰色 |
| 207-02 | 無台高坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 波状文　突帯2条<br>沈線文1条　櫛描波状文　自然釉付着 | (外)回転ナデ(内)自然釉付着により不明 | 5㎜大の砂粒含む | (外)褐灰色<br>(内)黒褐色 |
| 207-03 | 無台高坏 | 2B | | 包含層 | (14.2) | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)暗灰褐色<br>(内)褐灰色 |
| 207-04 | 高坏(脚部) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 9.2 | 四方向　方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 207-05 | 高坏(脚部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 8.6 | 三方向　方形透かし | (外)回転ナデ？　斜回<br>(内)回転ナデ？ | 1㎜の砂粒含む | (外)白褐色<br>(内)白褐色 |
| 207-06 | 高坏(脚部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | (10) | 二方向　透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰灰色<br>(内)灰灰色 |
| 207-07 | 高坏(脚部) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 13.6 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)灰青色<br>(内)青灰色 |
| 207-08 | 無盤高坏 | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | 10 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 207-09 | 無盤高坏 | 1C | | 包含層 | — | — | — | 9.4 | 三方向　透かし | (外)ハケ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒多い | (外)灰(内)灰色<br>(内)白灰色 |
| 207-10 | 無盤高坏 | 2D | | 包含層 | 15.4 | 10.5 | — | 9.9 | 二方向　三角形切目 | (外)回転ナデ→ヘラケズリ?<br>(内)回転ナデ　ナデ | 1～2㎜の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-11 | 無盤高坏 | 2D | | 包含層 | (14.6) | 9.7 | (15) | 8.9 | 二方向　三角形切目 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　2㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-12 | 高坏(脚部) | | ＊トレンチ | 包含層 | — | — | — | — | 四方向　方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-13 | 高坏(脚部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 11.2 | 二方向　三角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | 暗青灰色 |
| 207-14 | 高坏(脚部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | (10.8) | 三方向　透かし<br>沈線文1条 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-15 | 高坏(脚部) | 2B | | 包含層 | — | — | — | 8.6 | 三方向　方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 207-16 | 高坏(脚部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 9.4 | 二方向 二角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 密 1～3㎜<br>の砂粒含む | 黄灰色 |
| 207-17 | 高坏(脚部) | 2 | | 包含層 | 10.6 | — | — | — | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ 後静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-18 | 高坏(脚部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | (9.3) | 二方向 二角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)黄灰色 |
| 207-19 | 高坏(脚部) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 二方向 三角形？<br>透かし | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 207-20 | 高坏(脚部) | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 二方向 三角形？<br>透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 207-21 | 高坏(脚部) | 1C | | 包含層 | — | — | — | 11.8 | 二段三角形三方向<br>透かし 沈線文1条 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 207-22 | 高坏(脚部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | 11.4 | 二段三方向<br>方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 207-23 | 高坏(脚部) | 2D | 市観斜面 | 包含層 | — | — | — | 13.8 | 方形透かしの上下に沈<br>線文各1条 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 207-24 | 高坏(脚部) | 2C | | 包含層 | — | — | — | 14 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 207-25 | 高坏(脚部) | 2C | | 包含層 | — | — | — | 11.8 | 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)淡灰色 |
| 208-01 | 高坏(坏部) | 2D | | 包含層 | 15 | — | — | — | 坏部段あり | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 208-02 | 高坏(坏部) | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | 坏部段あり | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 | (外)内灰オリーブ色 |
| 208-03 | 高坏(坏部) | 1C | | 包含層 | 14.3 | — | 14.3 | — | 坏部段あり | (外)回転ナデ 凹目<br>(内)回転・静止ナデ | 密 4㎜程度<br>の石含む | (外)白灰色<br>(内)白灰色 |
| 208-04 | 高坏(坏部) | 1D | | 包含層 | 20.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 3㎜以下<br>の砂粒含む | 青灰色 |
| 208-05 | 高坏(坏部) | 1D北 | | 包含層 | 13.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)不明 | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)灰黄色 |
| 208-06 | 高坏(坏部) | 1C北 | | 包含層 | 16 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)青灰色 |
| 208-07 | 高坏(坏部) | 1D北 | | 包含層 | 16 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 208-08 | 高坏(坏部) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ後ナデ | 密1.5㎜以下の<br>砂粒含む | (表)褐灰～茶色<br>(裏)青灰～灰色 |
| 208-09 | 高坏(坏部) | 1C | | 包含層 | 11.2 | — | 11.6 | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 208-10 | 高坏(坏部) | 2B | | 包含層 | 16.2 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1～2㎜<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 208-11 | 高坏(坏部) | 1D | | 包含層 | 14.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)白灰色 |
| 208-12 | 高坏(坏部) | 2D | | 包含層 | 16 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ・ヘラナズリ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)淡褐色 |
| 208-13 | 高坏(坏部) | 1D北 | | 包含層 | 17.8 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ 凹目<br>(内)回転ナデ | 3㎜以下の砂<br>粒少し含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 208-14 | 高坏(坏部) | 1D北 | | 包含層 | 15 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂<br>粒含む | (外)暗黒青色<br>(内)暗青灰色 |
| 208-15 | 高坏(坏部) | 1A | | 包含層 | 13.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ後ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 208-16 | 高坏(坏部) | | 1トレンチ | 包含層 | 13.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)茶灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 208-17 | 高坏(坏部) | 2A | | 包含層 | (13.8) | — | (14) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰黄色<br>(内)灰黄色 |
| 208-18 | 高坏(坏部) | 2C | | 包含層 | (13.2) | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 208-19 | 高坏(坏部) | 1A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 208-20 | 高坏(坏部) | 2A | | 包含層 | (15.2) | — | (15.4) | — | 穿か？ | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)灰白<br>(内)灰色 |
| 208-21 | 高坏<br>(接続部) | | 4トレンチ | 黒褐色土2層 | — | — | — | — | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ・ヘラナズリ<br>(内)回転ナデ タタキ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 208-22 | 高坏<br>(接続部) | 3A | | 包含層 | 脚部径<br>5.8 | — | — | — | 二方向 二角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 208-23 | 高坏<br>(接続部) | 1D北 | | 包含層 | 脚部径<br>5.6 | — | — | — | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下<br>の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)灰色 |
| 208-24 | 高坏<br>(接続部) | | 1トレンチ | 包含層 | — | — | — | — | 二方向 二角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下<br>の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 208-25 | 高坏(接続部) | | 谷底 | 包含層 | – | – | – | – | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 2㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 208-26 | 高坏(接続部) | 1D | | 包含層 | – | – | – | – | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 208-27 | 高坏(接続部) | 2A | | 包含層 | – | – | – | – | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 208-28 | 高坏(接続部) | 1C | | 包含層 | – | – | – | – | 二方向 三角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡白灰色<br>(内)淡白灰色 |
| 208-29 | 高坏(接続部) | 1D北 | | 包含層 | – | – | – | – | 二方向 三角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 208-30 | 高坏(接続部) | 1D | | 包含層 | – | – | – | – | 透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 5㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 209-01 | 高坏(脚部) | 1D<br>1D北 | | 包含層 | – | – | – | 10.2 | 三方向 三角形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | 褐灰色 |
| 209-02 | 高坏(脚部) | 1C | | 包含層 | – | – | – | 10.8 | 二方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)青灰色 |
| 209-03 | 高坏(脚部) | 1 | | – | – | – | – | 8.7 | | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 209-04 | 高坏(脚部) | 1A | | 包含層 | – | – | – | 9.4 | 透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒多い | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 209-05 | 高坏(脚部) | | 1トレンチ | 表土 | – | – | – | 11.4 | 透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 209-06 | 高坏(脚部) | 1C | | 包含層 | – | – | – | 9.2 | 透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 209-07 | 高坏(脚部) | | | 包含層 | – | – | – | 10 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 3㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 209-08 | 高坏(脚部) | 1D | | 包含層 | – | – | – | 10.4 | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 209-09 | 高坏(坏部) | | | 包含層 | 9.4 | – | – | – | 櫛描斜突文 | (外)ナデ<br>(内)ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外・内)黄・黒色(斑)灰色 |
| 209-10 | 高坏(坏部) | 1C北 | | 包含層 | 12.2 | – | – | – | 口縁端部に浅線文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 209-11 | 高坏(椀状部) | 2C | | 包含層 | – | – | – | – | 櫛描斜突文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)淡灰色 |
| 209-12 | 高坏(椀状部) | 2D | | 包含層 | – | – | – | – | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密 | (外)青灰色<br>(内)褐灰色 |
| 209-13 | 高坏(脚部) | 1A | | 包含層 | – | – | – | – | 三方向 二段切目 | (外)回転ナデ<br>(内)ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 209-14 | 高坏(脚部) | 2 | | 包含層 | – | – | – | – | 沈線文2条 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 209-15 | 高坏(脚部) | 2A | | 包含層 | – | – | (8.2) | (7.8) | 三方向 方形透かし | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 210-01 | 鉢(口縁部) | 1A | | 包含層 | 13.2 | – | – | – | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 210-02 | 鉢(口縁部) | 2D | | 包含層 | – | – | – | – | 沈線文? 波状文<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)黒色<br>(内)灰色 |
| 210-03 | 鉢(胴部) | 2D | | 包含層 | – | – | – | – | 沈線文7条<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ 指頭圧痕 | 密 | (外)黄灰色<br>(内)黄灰色 |
| 210-04 | 鉢(胴部) | 1C | サブトレンチ | 包含層 | – | – | 17.2 | – | 櫛描斜突文<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 5㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)青灰色 |
| 210-05 | 鉢(胴部) | 1C | | 包含層 | – | – | 15.3 | – | 波状文7条<br>自然釉付着 | (外)<br>(内)ヘラケズリ ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)褐灰色<br>(内)白灰色 |
| 210-06 | 鉢(胴部) | 2B | | 包含層 | – | – | – | – | 沈線文2条 波状文 | (外)カキ目後ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 ～1㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)黄灰色 |
| 210-07 | 鉢(頸部) | 2D | | 包含層 | 頸部径 6.2 | – | – | – | 櫛描波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1～3㎜大の砂粒含む | (外)褐灰色<br>(内)褐灰色 |
| 210-08 | 鉢(頸部) | 2A | | 包含層 | – | – | – | – | 波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 210-09 | 鉢 | 1C | | 包含層 | – | (9)以上 | 9.6 | – | 櫛描波状文 櫛描刺突文 沈線文2条 | (外)回転ナデ→ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 210-10 | 鉢 | 1D<br>1D北 | | 包含層 | 肩部 3.4 | – | – | – | 沈線文1条<br>櫛描斜突文 | (外)回転ナデ→ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ 指押さえ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 210-11 | 鉢 | 2C | | 包含層 | – | – | (10.7) | – | 沈線文 櫛描斜突文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密～2㎜程の砂粒含む | (外)黄灰～灰色(内)灰色 |
| 210-12 | 鉢 | 1C | | 包含層 | – | (9.5)以上 | 7.8 | 4 | 沈線文 | (外)回転ナデ→ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 210-13 | 鉢(脚部) | 1D北 | | 包含層 | – | – | – | 5.4 | | (外)回転ナデ→ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 210-14 | 坏(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 4.4 | | (外)回転ﾅﾃﾞ 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ(内)回転ﾅﾃﾞ | 密1.5mm以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 210-15 | 直口壺 | 1C | | 包含層 | — | (6)以上 | 12 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)暗青灰色 (内)淡青灰色 |
| 210-16 | 直口壺 | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 2mm以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 210-17 | 直口壺 | 1A | ベルト | 包含層 | 11.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 210-18 | 短頸壺 | 2B | 横断ベルト | 包含層 | (9.5) | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰黄色 (内)灰黄色 |
| 210-19 | 短頸壺 | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ? ﾅﾃﾞ? (内)回転ﾅﾃﾞ | 密～1.5mm程の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)暗灰色 |
| 210-20 | 短頸壺 | 2D | | 包含層 | 7.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 | (外)褐灰色 (内)灰色 |
| 210-21 | 長頸瓶 | 3 | 南斜面 | 包含層 | — | — | 23 | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1～2mmの砂粒少し含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 210-22 | 長頸瓶 | 2C | | 包含層 | — | — | — | — | 沈線文 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ 絞り痕 | 密～2.5mm程の砂粒含む | (外)暗灰・黄土色 (内)淡灰・黄灰色 |
| 210-23 | 長頸瓶 | | 1トレンチ | 包含層 | — | — | — | — | 沈線文2条 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)淡灰色 |
| 211-01 | 長頸瓶(口縁) | 1D | | 包含層 | 9 | — | — | — | 沈線文 | (外)回転ナデ ｶｷ目 (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 211-02 | 壺・瓶類(口縁) | 1C | | 包含層 | 6.4 | — | — | — | 沈線文1条 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 2mm程度の砂粒含む | (外)白灰色 (内)白灰色 |
| 211-03 | 壺・瓶類(口縁) | | 3トレンチ | 包含層 | 7 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 2mm以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)淡灰色 |
| 211-04 | 壺・瓶類(口縁) | 2A | | 包含層 | 8.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 211-05 | 壺・瓶類(口縁) | 1 | | 排土 | 8.4 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡青灰色 |
| 211-06 | 壺・瓶類(口縁) | 2 | | 重機掘削土 | 9.2 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1mmの砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 211-07 | 壺・瓶類(口縁) | 1D | | 包含層 | 13.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1.5mm以下の砂粒含む | 淡灰紫色 |
| 211-08 | 壺・瓶類(口縁) | 1D北 | | 包含層 | 11.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)暗青灰色 (内)暗灰色 |
| 211-09 | 壺・瓶類(口縁) | 2D | | 包含層 | 9.5 | 4.5 | 10.4 | — | 口縁端部内折 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 1mm程度の砂粒含む | (外)青灰色 (内)灰色 |
| 211-10 | 壺・瓶類(口縁) | 1D | | 包含層 | 11.87 | — | — | — | 口縁部に面あり 沈線状に窪む | (外)回転ナデ タタキ (内)回転ナデ タタキ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)灰色 (内)暗灰色 |
| 211-11 | 壺・瓶類(口縁) | 1D北 | | 包含層 | — | — | — | 18 | 口縁端部に面あり | (外)回転ナデ (内)回転ﾅﾃﾞ後静止ﾅﾃﾞ | 密 2mm以下の砂粒含む | (外)青灰色 (内)淡灰色 |
| 211-12 | 壺・瓶類(口縁) | 2A | | 包含層 | (15.7) | — | — | — | 沈線文1条 | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 ～2mm程の砂粒含む | (外)淡灰色 (内)淡黄灰色 |
| 211-13 | 壺・瓶類(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 11 | 自然釉付着 | (外)回転ナデ タタキ (内)回転ナデ ナデ | 密1mm以下の砂粒多い | (外)暗灰色 (内)暗灰色 |
| 211-14 | 長頸瓶(底部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 列点文 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ(内)回転ﾅﾃﾞ タタキ | 密 ～2mm程の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)暗黄灰色 |
| 211-15 | 壺・瓶類(底部) | 3 | | 重機掘削土 | — | — | — | 8.1 | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ(内)回転・静止ﾅﾃﾞ | 1mm大の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 211-16 | 長頸瓶(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | (15.4) | (5.8) | | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹｽﾞﾘ (内)回転ナデ | 密 | (外)灰色 (内)灰色 |
| 211-17 | 壺・瓶類(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | (7.9) | 自然釉付着 | (外)自然釉により不明 (内)回転・静止ナデ | 密 | (外)灰白色 (内)灰白色 |
| 211-18 | 壺・瓶類(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | ヘラによる「十」印 貼りつけ高台 | (外)回転・静止ナデ (内)回転・静止ナデ | 1mmの砂粒含む | (外)暗灰色 (内)灰色 |
| 211-19 | 壺・瓶類(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 8.2 | | (外)回転ナデ (内)回転ナデ | 密 1mm以下の砂粒含む | (外)青灰色(内)淡青灰色(断)紫灰色 |
| 211-20 | 壺・瓶類(底部) | 2C | | 包含層 | — | — | — | 7.6 | | (外)ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ 回転ﾅﾃﾞ(内)静止ﾅﾃﾞ | 密 3mm程の砂粒含む | (外)淡青灰色 (内)淡青灰色 |
| 211-21 | 壺・瓶類(底部) | 1D | サブトレンチ | | — | — | — | 8.6 | 静止糸切り痕 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ(内)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ | 密 1mm以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 211-22 | 壺・瓶類(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | 19.2 | 14.4 | | (外)回転ヘラケズリ (内)回転ナデ | 1～2mmの砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |
| 212-01 | 長頸瓶(底部) | 2C | | 包含層 | — | — | — | (7.1) | | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾅﾃﾞ (内)回転ﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ タタキ | 密 ～2mm程の砂粒含む | (外)暗灰色 (内)灰色 |
| 212-02 | 壺(底部) | 2C | | 包含層 | — | — | — | (5.2) | 漆台痕 | (外)回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ(内)回転ﾅﾃﾞ ﾅﾃﾞ | 密 ～2mm程の砂粒含む | (外)灰色 (内)灰色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 212-03 | 壺(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 5.2 | | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 2㎜程度の砂粒含む | (外)淡褐色<br>(内)淡褐色 |
| 212-04 | 壺(底部) | 2D | | 包含層 | — | — | — | 6.3 | 自然釉付着 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)明灰色 |
| 212-05 | 壺(底部) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | 5.2 | | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)明青灰色 |
| 212-06 | 壺(底部) | 1A | | 包含層 | — | — | — | 4.7 | | (外)回転・静止ナデ(内)回転ナデ・ヘラケズリ　静止ナデ | 密　4㎜以下の砂粒含む | (外)灰色(内)淡黄灰色 |
| 212-07 | 壺(胴部) | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転・静止ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 212-08 | 壺(胴部) | 1D | | 包含層 | — | 7以上 | 16.4 | — | | (外)ﾅﾃﾞ　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | 灰茶褐色 |
| 212-09 | 壺(胴部) | 2D | | 包含層 | — | — | 22.6 | — | | (外)回転ﾅﾃﾞ　ﾍﾗﾅﾃﾞ　ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾅﾃﾞ<br>(内)回転ﾅﾃﾞ　ﾍﾗﾅﾃﾞ後回転ﾅﾃﾞ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 212-10 | 壺(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 3.8 | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 212-11 | 壺(底部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | 6.1 | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ・ヘラナズリ<br>(内)静止・回転ナデ | 密5㎜以下の砂粒1粒含む | (外)褐灰色<br>(内)褐灰色 |
| 212-12 | 壺(底部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | (9.2) | 静止糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)赤灰色<br>(内)灰色 |
| 212-13 | 壺(底部) | 1D | | 包含層 | — | — | — | 7.8 | 回転糸切り痕 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | 淡青灰色 |
| 212-14 | 壺(底部) | 3B | 5トレンチ | 包含層 | — | — | — | 9.5 | 糸切り痕 | (外)回転・静止ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 2～5㎜の砂粒含む | (外)淡赤褐色<br>(内)灰色 |
| 213-01 | 提瓶(胴部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ナデ　ハケ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)青灰色 |
| 213-02 | 提瓶(把手) | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 自然釉付着 | (外)自然釉により不明<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜程度の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)白灰色 |
| 213-03 | 平瓶(把手) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ヘラケズリ<br>(内)指頭圧痕 | 密 | (外)黄灰色<br>(内)灰色 |
| 213-04 | 横瓶 | 1C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾀﾀｷ　ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾀﾀｷ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 213-05 | 横瓶 | 1D | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾀﾀｷ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 213-06 | 横瓶 | 2A | 3トレンチ | 包含層 | — | — | (47) | — | 自然釉付着 | (外)ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ | 密　～2㎜程の砂粒含む | (外)暗黄灰色<br>(内)淡灰褐色 |
| 213-07 | 提瓶(胴部)? | 2C | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ　ﾅﾃﾞ<br>(内)ﾀﾀｷ | 密　～3㎜の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)濃灰色 |
| 214-01 | 把手付壺 | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密　～3.5㎜程の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)灰色 |
| 215-01 | 壺(有蓋高坏) | 2D | | 包含層 | つまみ2.8 | 4.8以上 | 12 | — | 輪状つまみ | (外)回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗﾅｽﾞﾘ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 215-02 | 壺 | 1C北 | | 包含層 | — | — | — | — | 沈線文2条 | (外)ﾅﾃﾞ　回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)淡灰色 |
| 215-03 | 壺 | 2C | | 包含層 | — | — | 12 | — | | (外)回転ﾍﾗﾅｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜程の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 215-04 | 壺 | 2D | | 包含層 | 13.7 | — | — | — | | (外)回転ナデ　ﾅﾃﾞ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 215-05 | 壺 | 1C北 | | 包含層 | 15.8 | — | — | — | 口縁端部に沈線 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　3㎜以下の砂粒含む | (外)暗青色<br>(内)暗青色 |
| 215-06 | 口縁 | 3B | | 包含層 | 18.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 215-07 | 口縁 | 3B | | 包含層 | 14 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰褐色<br>(内)灰褐色 |
| 215-08 | 口縁 | 2B | | 包含層 | (17.2) | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ? | 密3.5㎜以下の砂粒含む | (外)灰赤色<br>(内)黄褐色 |
| 215-09 | 口縁 | 1D | | 包含層 | 14.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内) | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)灰黒褐色 |
| 215-10 | 口縁 | | | 表土 | 16.8 | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 215-11 | 鉢 | 1A | | 包含層 | 13 | — | 13 | — | | (外)ヘラケズリ　ナデ<br>(内)ナデ | 密 | (外)白灰色<br>(内)青灰色 |
| 215-12 | 脚部 | 2D | | 包含層 | (10.9) | 2.2 | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 215-13 | 脚部 | 1D北 | | 包含層 | (13) | — | (14) | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　2㎜以下の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)青灰色 |
| 215-14 | 鉢(口縁) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰黄色<br>(内)灰黄色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口径 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 216-01 | 高坏形器台 | 1C2D1<br>D北2A | | 包含層 | — | — | — | — | 波状文　沈線文<br>三角形透かし | (外)<br>(内)ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 216-02 | 器台(脚部) | 1D北 | | 包含層 | — | — | 21.2 | 21.2 | 波状文2条以上 | (外)カキ目<br>(内)ヘラケズリ　ナデ | 密　1㎜程度の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 217-01 | 鉢 | 1D | | 包含層 | 35 | — | 35 | — | 口縁部外面に沈線文 | (外)タタキ　ナデ<br>(内)当具痕　ナデ | 密　2㎜以下の砂粒多い | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 217-02 | 鉢 | 2A2C<br>2D | | 包含層 | 41.8 | 14.2<br>以上 | — | — | 口縁部外面に沈線文 | (外)ヨコナデ　タタキ<br>(内)ナデ　当具痕 | 密 | (外)灰色<br>(内)褐灰色 |
| 217-03 | 鉢 | 1B1D<br>2C2B | 4トレンチ | 包含層 | 43.4 | 19.3<br>以上 | — | — | 把手付<br>沈線文 | (外)タタキ　ナデ<br>(内)車輪状当具痕 | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 217-04 | 鉢 | 2C<br>2D | | 包含層 | (43) | 8<br>以上 | — | — | 沈線文 | (外)タタキ<br>(内)車輪状当具痕 | 密 | (外)黒灰色<br>(内)暗灰色 |
| 218-01 | 中形甕 | 2B | | 包含層 | (20.9) | — | — | — | | (外)回転ナデ　タタキ(内)回転ナデ　同心円状当具痕 | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)灰緑色<br>(内)淡灰色 |
| 218-02 | 中形甕 | 3 | | 包含層 | 20.6 | — | — | — | | (外)回転ナデ　タタキ<br>(内)回転ナデ　タタキ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 218-03 | 中形甕 | 3B<br>3A | | 重機掘削土 | 19.8 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)褐灰色<br>(内)褐灰色 |
| 218-04 | 中形甕<br>(口縁) | 2B | | 包含層 | 18.4 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)黄灰色 |
| 218-05 | 中形甕 | 2D | | 包含層 | -- | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜大の砂粒少し含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 218-06 | 中形甕<br>(口縁) | 2B | | 包含層 | (23) | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～1㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)黄灰色 |
| 218-07 | 中形甕 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 沈線文2条<br>ヘラ記号 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 2～5㎜の砂粒含む | (外)黒灰色<br>(内)黒褐色 |
| 218-08 | 中形甕 | 2 | | 重機掘削土 | 18.4 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ　タタキ<br>(内)回転ナデ　タタキ | 1㎜大の砂粒含む | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 219-01 | 大形甕 | 2D | | 包含層 | 34.7 | — | — | — | 自然釉付着　沈線文<br>櫛描波状文 | (外)回転ナデ後ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)褐灰色<br>(内)灰色 |
| 219-02 | 大形甕 | 1A | | 包含層 | 33.8 | — | 33.8 | — | 沈線文　櫛描波状文<br>自然釉付着 | (外)<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)白灰色 |
| 219-03 | 大形甕<br>(口縁) | 1 | | — | 24.6 | — | — | — | 自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　1㎜以下の砂粒含む | (外)暗赤褐色<br>(内)暗赤褐色 |
| 219-04 | 大形甕<br>(口縁) | 2A | | 包含層 | (41) | — | — | — | 沈線文　櫛描波状文<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密～2.5㎜程の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 219-05 | 大形甕 | 4 | 横穴墓1玄室 | — | 頸部径<br>24 | — | — | — | 波状文　沈線文<br>自然釉付着 | (外)回転ナデ　カキ目?<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)茶褐色<br>(内)黒褐色 |
| 219-06 | 大形甕 | 2D | | 斜面表土 | — | — | — | — | 櫛描波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)青灰色<br>(内)褐灰色 |
| 219-07 | 大形甕 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)灰色 |
| 219-08 | 大形甕<br>(口縁) | | 4トレンチ | 包含層 | (30.7) | — | — | — | 沈線文　波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～3㎜程の砂粒含む | (外)淡黄灰色<br>(内)暗灰色 |
| 219-09 | 大形甕<br>(口縁) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 沈線文4条<br>波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～2㎜程の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)黄灰色 |
| 219-10 | 大形甕<br>(頸部) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 波状文 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 密　～2㎜程の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)暗青灰色 |
| 220-01 | 大形甕 | 2、3<br>3A3D | | 重機掘削土 | 56.4 | — | — | — | 沈線文<br>櫛描波状文 | (外)タタキ(内)同心円状当具痕　静止・回転ナデ | 密 | (外)暗灰色<br>(内)暗灰色 |
| 220-02 | 甕(胴部片) | 2 | | 包含層 | — | — | — | — | 自然釉付着 | (外)タタキ　カキ目<br>(内)同心円状当具痕 | 密 | (外)暗灰褐色<br>(内)灰褐色 |
| 220-03 | 甕(胴部片) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 自然釉付着 | (外)タタキ後カキ目<br>(内)タタキ　当具痕 | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 220-04 | 甕(胴部片) | 2A | | 包含層 | — | — | — | — | 自然釉付着 | (外)タタキ後カキ目<br>(内)タタキ　当具痕 | 密　3㎜以下の砂粒含む | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 220-05 | 甕(胴部片) | 2 | | 包含層 | — | — | — | — | | (外)タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 1～2㎜の砂粒含む | (外)黒灰色<br>(内)灰色 |
| 221-01 | 甕(胴部片) | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | 自然釉付着 | (外)タタキ後カキ目<br>(内)同心円状当具痕 | 1～2㎜の砂粒少し含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 221-02 | 甕(胴部片) | 2B | | 包含層 | -- | — | — | — | | (外)タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 密～1.5㎜程の砂粒含む | (外)黄灰色<br>(内)灰色 |
| 221-03 | 甕(胴部片) | 2D | 斜面 | 包含層<br>表土 | — | -- | — | — | 自然釉付着 | (外)タタキ<br>(内)同心円状当具痕 | 1㎜の砂粒含む | (外)暗褐色<br>(内)灰色 |
| 222-01 | 蓋坏 | 2D | | 包含層 | — | — | — | — | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)茶灰色<br>(内)青灰色 |
| 222-02 | 蓋 | 3B | 南斜面 | | — | — | — | — | ヘラ記号 | (外)回転ナデ・ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 層位 | 口縁 | 器高 | 最大径 | 底径 | 形態・文様の特徴 | 調整 | 胎土 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 222-03 | 壺形 | 2D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)同転・静止ナデ | 1㎜程度の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-04 | 壺形<br>(大井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 淡青灰色 |
| 222-05 | 壺形<br>(大井or底) | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号「×」 | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 222-06 | 壺形<br>(大井or底) | | 1トレンチ | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号「×」 | (外)ヘラ切り後ナデ 回転ナデ(内)静止・回転ナデ | 密 3㎜程度の砂粒多い | (外)淡褐灰色<br>(内)淡褐灰色 |
| 222-07 | 坏(底部) | 1C北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号「×」 | (外)<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 222-08 | 坏蓋 | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | | (外)回転ナデ ヘラ切り<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)明青〜灰色(内)灰色 |
| 222-09 | 壺形 | 2D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)静止ナデ 後ヘラ切り<br>(内)静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-10 | 壺形<br>(大井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 222-11 | 蓋 | 1C北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラ切り後静止ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-12 | 坏?<br>還状部? | 1D | | 包含層 | − | − | − | 7 | ヘラ記号 | (外)回転ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-13 | 壺形(坏蓋) | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号? | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 〜1.5㎜の砂粒含む | (外)灰白色<br>(内)灰白色 |
| 222-14 | 壺形(坏蓋) | | 2トレンチ | 黒色土 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密〜1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-15 | 蓋 | 2D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転ナデ | 1㎜の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)白灰色 |
| 222-16 | 壺形(坏蓋) | | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)青灰色 |
| 222-17 | 壺形(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ナデ ヘラケズリ<br>(内)ナデ | 密 | (外)白色<br>(内)白色 |
| 222-18 | 壺形(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密1.5㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)黄〜灰色 |
| 222-19 | 蓋 | 2A | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ切り | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)回転ナデ ナデ | 密 〜5㎜程の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 222-20 | 壺形(坏蓋) | 1D | | 包含層 | − | − | − | 6.6 | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ後ナデ<br>(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)暗青灰色<br>(内)青灰色 |
| 222-21 | 壺形(坏蓋) | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止ナデ | 密 1㎜程の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 222-22 | 壺形<br>(天井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)淡青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 222-23 | 坏蓋 | 1B | | 耕作土 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ 回転ナデ(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)赤褐色<br>(内)赤褐色 |
| 222-24 | 壺形<br>(大井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | | (外)ヘラ切り後ナデ<br>(内)静止・回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡灰色 |
| 222-25 | 壺形 | 2D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ・ナデ<br>(内)回転・静止ナデ | 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰色 |
| 222-26 | 壺形<br>(大井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後回転ヘラケズリ<br>(内)静止ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)明青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 222-27 | 壺形<br>(天井or底) | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)ヘラ切り後ナデ 回転ナデ(内)静止・回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | 暗青灰色 |
| 222-28 | 壺形(坏身) | 2B | 横断ベルト | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ(内)ナデ 回転ナデ | 密〜1.5㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 222-29 | 坏身 | 1D北 | | 包含層 | − | − | − | 6.2 | ヘラ記号 | (外)回転ナデ後ナデ<br>(内)ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 青灰色 |
| 222-30 | 坏(底部) | 1C | サブトレンチ | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ<br>(内)ナデ 回転ナデ | 密 2㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)淡青灰色 |
| 223-01 | 壺形(坏蓋) | 2A | | 包含層 | − | − | − | 5.4 | ヘラ記号 | (外)回転ナデ ヘラ切り<br>(内)回転ナデ ナデ | 〜2㎜程の砂粒含む | (外)灰色<br>(内)灰色 |
| 223-02 | 蓋(底部) | 1D | | 包含層 | − | − | − | 4.8 | ヘラ記号 | (外)回転ナデ ヘラ切り<br>(内)回転ナデ後ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | 灰青色 |
| 223-03 | 蓋(坏蓋) | 1C北 | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ記号 | (外)回転ヘラケズリ ヘラ切り後ナデ(内)回転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡白灰色<br>(内)青白灰色 |
| 223-04 | 壺形(坏蓋) | 2A | | 包含層 | − | − | − | − | 板目痕 | (外)ヘラ切り後ナデ 回転ヘラケズリ(内)回転ナデ ナデ | 密 〜2㎜程の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)淡灰色 |
| 223-05 | 坏身 | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | ヘラ切り後ヘラケズリ | (外)回転ナデ後ナデ(内)回転ナデ 回転ナデ後ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)青灰色<br>(内)灰青色 |
| 223-06 | はそう | 1D | | 包含層 | − | − | − | − | 沈線文 波状文 | (外)カキ目<br>(内)同転ナデ | 密 1㎜以下の砂粒含む | (外)淡灰色<br>(内)暗灰色 |

第12表　竹ノ崎遺跡　石製品　観察表

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 土層 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石材 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 226-01 | 石鏃 | 2A | | 包含層 | 2.6 | 1.8 | 0.35 | 1.57 | サヌカイト?<br>安山岩 | 灰色 | 平基式 |
| 226-02 | 石鏃 | 2C | | 包含層 | 2.2 | 1.4 | 0.3 | 0.71 | 安山岩 | 灰色 | 凹基式 |
| 226-03 | 石鏃 | 1D北 | | 包含層 | 1.8 | 1.6 | 0.41 | 0.92 | 安山岩 | 灰色 | 凹基式 |
| 226-04 | 石斧 | 2D | | 包含層 | 11.3 | 5.8 | 4 | 442 | | 淡黄褐色 | 基部欠損　敲打痕 |
| 226-05 | 敲石 | | 5トレンチ | 表土 | 9.9 | 9.7 | 5.2 | 719 | | 淡褐色 | |
| 226-06 | 敲石 | | 4トレンチ | 包含層 | 11.8 | 11.4 | 5.2 | 911 | | 茶褐色 | 敲打痕　一部剥離 |
| 227-01 | 砥石 | 1C北 | | 包含層 | 12.8 | 13.5 | 2.7 | 599 | 砂岩? | 淡褐色 | 3面の使用痕 |
| 227-02 | 砥石 | 1B | | 包含層 | 11.4 | 7.7 | 3.9 | 415 | | 淡緑灰色 | 1面の使用痕 |
| 227-03 | 砥石 | 2A | | 包含層 | 10.9 | (5.8) | 3.8 | 367 | | 淡乳白色 | 端部欠損 |
| 227-04 | 砥石 | 2D | | 包含層 | 9.9 | 4.2 | 2.2 | 167 | | 淡黄褐色 | 5面の使用痕 |
| 227-05 | 砥石 | 1A | | 包含層 | 8.9 | 4.1 | 3.1 | 146 | | 淡黄褐色 | 2面もしくは3面の使用痕 |
| 227-06 | 砥石 | 1C北 | | 包含層 | 5 | 2.7 | 2.4 | 45.5 | | 明褐色 | 4面の使用痕 |
| 228-08 | 五輪塔 | 3A | 6トレンチ | 表土 | 25.2 | 16.8 | 16.5 | 4.65k | 凝灰岩 | 淡灰色 | 頂部欠損　ホゾ欠損 |

第13表　竹ノ崎遺跡　小玉　観察表

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 上層 | 長さ(mm) | 径(mm) | 孔径(mm) | 重さ(g) | 石材 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 228-01 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 4.5 | 6.5 | 1.8 | 0.25 | 滑石 | 灰色 | |
| 228-02 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 4.5 | 6.6 | 1.7 | 0.23 | 滑石 | 灰色 | やや欠損 |
| 228-03 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 3.8 | 6.7 | 1.8 | 0.19 | 滑石 | 灰色 | |
| 228-04 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 2.9 | 6.7 | 1.8 | 0.20 | 滑石 | 灰色 | |
| 228-05 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 2.3 | 6.4 | 1.7 | 0.13 | 滑石 | 灰色 | |
| 228-06 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 3以上 | 6.6 | 1.8 | 0.22 | 滑石 | 灰色 | 片面欠損 |
| 228-07 | 臼玉 | 3 | | 包含層 | 2.8 | 6.6 | 1.7 | 0.13 | 滑石 | 灰色 | 両面とも3/4以上欠損 |

第14表　竹ノ崎遺跡　鉄器　観察表

| 挿図No. | 器種 | 区 | 遺構 | 土層 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 157-01 | 直刀 | 4 | 1号穴 | (玄室) | 21.3 | | | |
| 225-01 | 直刀 | 4B | | 包含層 | 28.4 | | | |
| 225-02 | 直刀 | 2B | | 包含層 | 15.6 | 4.1 | 0.85 | 刀身部に木質付着 |
| 225-03 | 鎌の刀 | 2D | | 包含層 | 8.3 | 2.6 | 0.4 | 両端部欠損 |
| 225-04 | 鏃? | 2A | | 包含層 | 3.8 | 1.9 | 0.2 | 先端部・刀部・基部欠損 |
| 225-05 | 釘 | 2B | | 包含層 | 3.5 | | | 先端部曲がる |
| 225-06 | 釘 | 2B | | 包含層 | 3.6 | | | 先端部欠損 |
| 225-07 | 釘 | 2B | | 包含層 | 2.7 | | | 先端部欠損 |
| 225-08 | 釘 | 2C | | 包含層 | 4.0 | | | 先端部欠損 |
| 225-09 | 釘 | 2C | | 包含層 | 2.6 | | | 先端部欠損 |
| 225-10 | 釘 | 1D北 | | 包含層 | 5.2 | | | 先端部欠損 |

## 第4節　小　結

これまで述べてきたように、竹ノ崎遺跡では古墳時代後期の横穴墓が検出され、また包含層からは多数の弥生土器、土師器、須恵器が出土している。最後にこれらについて、若干の検討をおこなって記述を終わりたい。

### 1．横穴墓について

横穴墓は、岩盤に穿たれたものを2基検出している。これらは2基とも玄室プランが正方形に近いものである。また、1号横穴墓は未整形のものであるが、天井部はドーム形となり、2号横穴墓の天井部は家形である。

これらの形態について、同一流域の宍道川周辺の横穴墓と比較してみたい。宍道川流域では観音寺横穴墓[高38]、矢頭横穴墓[40,39]、OM横穴墓[46,40]の3基の横穴墓がすでに確認されている。これらの玄室形態が判るものは、観音寺・矢頭横穴墓の2基であり、前者が横長のプランで平入りの断面三角形であり、後者が正方形プランの妻入りの家形である。これらのうちで、矢頭横穴墓は竹ノ崎2号横穴墓と比較的似ているものであるが、2号横穴墓が妻入りか平入りなのか不明であり、良く分からない。現状では、この地域ではいわゆる「意宇型」横穴墓[高41]が存在していない点と緩長プランのものが存在していない点が指摘できようか。

次に、宍道町内所在の横穴墓の中で、岩盤に穿つ横穴墓と比較してみたい。岩盤に穿たれた横穴墓は、すでに指摘されているように正方形か横長プランの玄室で平入りのものであるという特徴が認められる[高42]。竹ノ崎の横穴墓もその特徴に当てはまるものであり、宍道町内所在の横穴墓の特徴として挙げられる。また、この玄室形態の特徴の背景には、同一流域に所在する宍道要害山古墳[高43]でも認められる「石棺式石室」の影響があるものと推測される。最後に検出した横穴墓の時期について検討してみたい。竹ノ崎遺跡の横穴墓からは、須恵器が出土していないことから、時期を確定することは不可能であるが、宍道町内の横穴墓の類例からとりあえず導き出しておきたい。まず、同一流域の矢頭横穴墓は、出土須恵器から出雲5期と考えられ、岩盤に穿たれた隨音寺横穴墓群1号墓からは出雲6期の輪状つまみ蓋が出土している。また、出雲地方の横穴墓で岩盤に穿たれた横穴墓は、出雲5期以降の時期のものである。これらのことから、竹ノ崎横穴墓は、出雲5期以降の時期が想定される可能性が高いものと現状では考えることができるが、今後の類例を待って再検討が必要である。

### 2．線刻壁画について

2号横穴墓の奥壁には、線刻壁画が描かれている。現在、島根県内の横穴墓の玄室内で線刻壁画が確認されている例は10基[高44]存在し、本例が11例目と考えられる。これらの壁画の見られる横穴墓のうちで人物が描かれているものは、十王免横穴墓群[高45]、狐谷横穴墓群[高46]、深田谷横穴墓[高47]、飯ノ山横穴墓[高48]、上塩冶横穴墓群[高49]が存在している。これらの類例と比較すると竹ノ崎遺跡で見られる光背状の表現は認められず、さらに、人面をここまで写実的に表現したものも存在しない。このことから、古墳時代の線刻ではない可能性も考えられるが、いずれにしろ今後の良好な類例の増加を待ち、他地域の例も含めて検討が必要なものであろう。

第15表　竹ノ崎遺跡　出土土器時期別消長表

| 時代 | | 編年 | | 弥生土器・土師器 | | | | | 須恵器 | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 甕・壺 | 高杯 | 杯・鉢 | その他 | 合計 | 坏蓋 | 坏・皿 | 高杯 | 合計 | |
| 縄文時代 | | | | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 弥生時代 | 前期 | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 中期 | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 後期 | 草出1 | 後期前葉 | 100 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| | | 草田2 | 後期中葉 | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 草田3 | 後期後葉 | 43 | 0 | 0 | 11 | 54 | 0 | 0 | 0 | 0 | 54 |
| | | 草田4 | | 78 | 0 | 0 | 0 | 78 | 0 | 0 | 0 | 0 | 78 |
| | | 草田5 | 終末 | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 草田6 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 古墳時代 | 前期 | 松山Ⅰ期最古 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 松山Ⅰ期古 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 松山Ⅰ期新 | | 17 | 3 | 0 | 14 | 34 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 |
| | 中期 | 松山Ⅱ期古 | (上野1号墳) | 51 | 24 | 0 | 9 | 84 | 0 | 0 | 0 | 0 | 84 |
| | | 松山Ⅱ期新 | | 51 | 24 | 0 | 19 | 94 | 0 | 0 | 0 | 0 | 94 |
| | | 松山Ⅲ期 | 初期須恵器 | 318 | 55 | 114 | 41 | 328 | 0 | 0 | 0 | 0 | 528 |
| | | 松山Ⅳ期 | 出雲1期 | 236 | 73 | 162 | 54 | 525 | 62 | 9 | 3 | 74 | 599 |
| | | | 出雲2期 | 106 | 23 | 48 | 21 | 198 | 62 | 9 | 3 | 74 | 272 |
| | 後期 | 高広ⅠA | 出雲3期 | 100 | 11 | 0 | 8 | 119 | 62 | 30 | 53 | 145 | 264 |
| | | 高広ⅠB | 出雲4期 | 167 | 0 | 0 | 0 | 167 | 28 | 30 | 53 | 111 | 278 |
| | | 高広(一) | 出雲5期 | 90 | 0 | 0 | 0 | 90 | 244 | 103 | 79 | 426 | 516 |
| 飛鳥時代 | | 高広ⅡAB期 | 出雲6期a b c | 90 | 0 | 1 | 0 | 91 | 219 | 105 | 77 | 401 | 492 |
| | | 高広ⅡA期 | 出雲6期d | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31 | 23 | 0 | 54 | 54 |
| 奈良時代 | | 高広Ⅱ期B | 出雲7・8期 | 33 | 0 | 1 | 3 | 57 | 125 | 124 | 0 | 249 | 306 |
| 平安時代 | | 高広Ⅲ期A | | 53 | 0 | 0 | 3 | 56 | 3 | 152 | 0 | 155 | 211 |
| | | 高広Ⅲ期B | | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 32 | 136 | 0 | 168 | 171 |
| | | 高広Ⅳ期 | | 0 | 0 | 1 | 51 | 52 | 0 | 0 | 0 | 0 | 32 |
| 合計 | | | | 1557 | 213 | 328 | 237 | 2335 | 868 | 721 | 268 | 1857 | 4192 |

### 3．包含層出土遺物について（第15表）

竹ノ崎遺跡では、1区から3区の谷底部分から多数の土器が出土している。これらの土器を分類し、その個体数をカウントしたものをすでに表1・2で掲載している。この表から時期ごとの土器の個体数を表したものが第15表である。この第15表は、作成する上でいくつかの問題点を残すものであり、細かな時期について検討することは不可能なものであるが、大雑把な傾向を捉えることは可能と考えられる。

**表の作成過程について**　表は、1・2表で取り上げた器種の中で、ある程度の時期が判るものを取り挙げたものである。ただし、分類が大雑把なものであったことから、器種によっては時期に幅を持たせているものが多い点が問題として存在している。この時期幅を持たせて分類している器種については、今回の表作成ではとりあえず係わっている各時期に等分に振り分けることにした。この様な過程で表を作成していることから細かな時期について土器の個体数の増減を捉えて検討することは、危険が伴うものである。また、表の中で個体数が0の時期があるが、実際にはその時期の土器が出土している可能性は、十分考えられものである。そこで、ここでは大きな時期設定の中で検討したい。

**土器の個体数の増減について**　表をみれば、判るようにある程度の土器が出土している時期は、弥生時代後期以降であることは間違いないものと考えられる。また、土器が認められる時期はおおよそ高広Ⅴ期以降までであり、実年代では10世紀頃までと思われる。表では各時期の土器の個体数も集計しているが、土師器と須恵器の共伴関係について検討不十分な点もあることから、まず、それぞれについて個体数の増減について検討したい。

**弥生土器・土師器**　弥生土器は、弥生時代後期のものが大半を占めており、草田1期～草田5期までのものがある程度出土している。これらの土器は、上方の上野遺跡で草田3～5期の遺物跡が検出されており、この時期の土器については、上方から廃棄されたものが出土している可能性が想定される。そうすれば、草田1期～2期のものだけが、本来竹ノ崎遺跡で消費されたものと推測されようか。一方で、草田6期の土器や、その次の古墳時代の松山Ⅰ期最古段階・古段階の土師器は、認められない。このことから、弥生時代後期末～古墳時代前期前半までの期間の竹ノ崎遺跡では、断絶が存在することが指摘できる。

松山Ⅰ期新段階になるとある程度の土器の出土数が見られ、松山Ⅲ期及びⅣ期頃に出土数のピークを認めることができる。この松山Ⅲ・Ⅳ期といった時期は、高坏の出土量が多い時期であることや、坏・鉢・小形壺もこの時期に考えていることが、出土数の多さに関係している可能性も考えられるが、甕・壺の出土数も多いものである。このように数量が多いことから、この時期（古墳時代中期後半～後期初頭頃）が竹ノ崎遺跡の中心的な時期として捉えることも可能と考えられる。

松山Ⅳ期以降は、甕の編年観があまり定まったものではないこともあり、問題点も多く含み、結果的に高広ⅢA期、高広ⅣB期、高広Ⅴ期の土師器が認められない結果になっているが、本来は、位置付けられるべき土器が位置付けられていない可能性が高い。このことから細かな点については、検討不可能であるが、古墳時代前期後葉～平安時代（松山Ⅳ期以降～高広Ⅳ期）頃の土器も継続的に存在しているものと考えた方が無難と思われる。

以上、弥生土器・土師器について述べてきたことをもう一度まとめると以下のようになる。

弥生時代後期から一定量の出土が見られ、弥生時代後期末～古墳時代前期前半に断絶が認められる。そして古墳時代前期後半～平安時代頃まで継続的に出土が認められ、ピークは古墳時代中期後葉～後期初頭頃と考えらえる。

**須恵器**　次に須恵器について検討してみたい。須恵器は、出雲１期～高広Ⅳｂ期頃まで継続的に出土量が認められ、高広Ⅴ期のものが少数であることを指摘することが可能である。なお、高広ⅢＡ期が量的に少ないことが認められるが、これは器種で言えば蓋とセットにならないタイプの無高台坏を高広ⅢＡ期に入れていない点が原因と思われる。実際は、高広ⅢＡ期に含まれるものも高広ⅣＢ期に含めている可能性が考えられ、よって、高広ⅢＡ期に土器が減少している点については、実態と異なっているものと思われる。おそらく高広ⅢＡ期の土器の個体数は、高広ⅢＢ期と数量的にはあまり差がない可能性が考えられる。

須恵器の個体数のピークは出雲５期～６期（高広Ⅱ期）に認められ、須恵器から見た場合には、この時期（おそらく７世紀前半を中心とする時期）が、遺跡の中心的な時期と考えられる。

**土器から見た遺跡の消長**　以上、これまで弥生土器・土師器と須恵器の２つに分けて検討してきたが、最後に両者を総合的に見て遺跡の土器の個体数から見た消長について整理しておきたい。

竹ノ崎遺跡は弥生時代後期から基本的に始まり、後期末～古墳時代前期前半の断絶を挟み、古墳時代前期後半～平安時代頃まで継続的に遺物が見られる。また、古墳時代中期後葉～後期初頭と７世紀前半頃に個体数の増加を認めることができる。

以上のように出土土器の時期的な傾向について検討してきたが、これらの出土土器はおそらくこの遺跡内の谷部に存在していたであろう集落で使用されていたものと考えられる。調査では、明確な建物跡などの遺構の検出はできなかったが、出土土器が表す時期の集落が存在していた可能性が高いものと推測される。また、出土土器の増減は、本来存在していた集落の消長をある程度反映したものと考えられる。

## ４．まとめ

以上述べてきたように、竹ノ崎遺跡では、７世紀頃の横穴墓が検出され、弥生時代後期～平安時代の集落の存在を想定させる土器が出土している。最後に、これらの資料について今後の課題点等を述べて本章を終わりたい。

横穴墓については、岩盤に穿たれた時期が分かる良好な資料の蓄積、未開口の線刻壁画資料の調査等によって再検討が必要なものと考えられる。

出土土器については、その数量から想定される集落の消長の特徴を踏まえて、他の遺跡の状況と比較検討が必要と考えられる。また、弥生時代後期末～古墳時代前期前半の断絶後の前期後半から出土土器が見られるようになるが、この時期は、上野１号墳が築造される時期であり、その関連についても今後検討すべきものと思われる。

註1　島根県教育委員会2000年『野津原Ⅱ遺跡（西区）・女夫岩西遺跡・城山遺跡』

註2　大谷晃二1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集　以下、出土須恵器で出雲○期と表記したものは、この文献による時期区分である。

註3　島根県教育委員会1997『島田池遺跡・鶴貫遺跡』

註4　『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会1984年

註5　松本岩雄「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』1992年　木耳社

註6　島根県鹿島町教育委員会『南講武草田遺跡』1992年による。これより以降の文章について弥生土器で、草田○期としたものは、この文献によるものである。

註7　高畑知功「備中地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰地域』1992年　木耳社

註8　島根県教育委員会「平所遺跡（1）」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』1976年

註9　松山智弘「小谷式再検討―出雲平野における新資料から―」『島根考古学会誌第17集』2000年

松山智弘「出雲における古墳時代前半期の土器の様相―大東式の再検討―」『島根考古学会誌第8集』1991年

以下、古墳時代前半期の土師器の記述については、この文献の編年観に依拠し、松山Ⅰ期最古段階～Ⅳ期（大木式、小谷1～4式、大東式、大敷中層式、大敷上層式）と記述する。

註10　島根県教育委員会1994年『臼コクリ遺跡・大原遺跡』

註11　松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団2000年『北小原古墳群発掘調査報告書』

註12　本報告書「上野遺跡Ⅱ区」より出土している。

註13　島根県斐川町教育委員会1995年『町道杉沢線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報（杉沢遺跡）』

註14　松山智弘「出雲における古墳時代前半期の土器の様相―大東式の再検討―」『島根考古学会誌第8集』1991年

以下、高坏の坏部形態については高坏A～B、技法については、細分の可能性も存在するが、接合法α、β、γと上記の文献で使用されているものを踏襲する。

註15　松山の註12の文献では、α技法のものはⅠ期の特徴であるが、今回坏部の調整や形態等から考えて新しい様相のものにも存在した。このことから、この技法が残るものと判断したのでα技法のものでもⅠ期以降の年代を考えている。

註16　西　弘海『土器様式の成立と展開』1976年

註17　広江耕史「島根県における中世土器について」『松江考古第8号』1992年　松江考古学談話会

註18　福富Ⅰ遺跡の玉作工房跡で、共伴事例が存在する。　島根県教育委員会1997年『福富Ⅰ遺跡・屋形1号墳』

註19　八束郡東出雲町の渋山池遺跡では、出雲4期の須恵器と共伴する事例がSB04で、出雲6期に共伴する事例がSB11等で存在している。　島根県教育委員会1997年『渋山池遺跡・原ノ前遺跡』

註20　広江耕史「山陰の煮炊具―出雲・石見―」『古代の土器研究―律令的土器様式の西・東４煮炊具―』1996年

註21　註17文献より

註22　須恵器の編年的位置付けについては、以下の２つの文献による編年案による。基本的に古墳時代に属するものについては、大谷の編年案に基づき、古墳時代以降のものは高広遺跡の編年案で記述する。なお、大谷の文献で時期を表現するときは、出雲○期と高広遺跡の場合は高広○期として記述する。また、大谷の検討で設定された型式名を使用する時には、大谷○窯といった用法でおこなう。

大谷晃二1994年「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会1984年

註23　坏Hといったように器形の種類名の後にアルファベットを付したものは、奈良国立文化財研究所の報告書で使用されているものを参考にしている。以下対応できる器形ついては、これを用いながら記述する。

註24　出雲国庁跡の報告の中で、須恵器第５形式の一群の中に類似する蓋が掲載されている。

『出雲国庁跡発掘調査概報』松江市教育委員会1970年

註25　須恵器の糸切り手法の採用は、７世紀末と推測されている。

柳浦俊一1995年「出雲における須恵器の生産・流通と特質」『風土記の考古学３―出雲国風土記の巻―』同成社

註26　柳浦俊一1980年「山雲地方における歴史時代須恵器の編年試論」『松江考古』第３号

註27　大谷晃二の分類による長頸壺である。註１文献

註28　淡山池遺跡のSK28の溜桝状施設から出土した壺が類似している。また、この土坑からは、灰釉陶器の皿等が出土している。註16文献より

註29　山守免遺跡では、高広ⅣB期頃の坏と共伴しており、古曽志平廻Ⅲ区１・２号窯跡灰原出土のものは、高広Ⅴ期頃の坏・皿と共伴している。

島根県教育委員会2000年『勝負廻Ⅰ・白石大谷Ⅱ・シトギ免・野津原Ⅱ・山守免・石地蔵遺跡』

島根県教育委員会1989年『古曽志遺跡群発掘調査報告書』

註30　古代の土器研究会編1993年『古代の土器２　都城の土器集成Ⅱ』を参照した。それによると平安京西京ＳＸ25、平安京右京三条四坊二町ＳＫ09、平城京東三条大路SD650A、平城京ＳＫ1623等で類似する器種が出土している。

註31　今回高坏形器台と判断しているが、他の器種として脚付壺、装飾器台等の可能性も存在する。

註32　島根県教育委員会1976年「大坪古墳群」『国道９号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

松江市教育委員会1982年『乃木二子塚古墳他詳細分布調査報告』

松江市教育委員会1979年『史跡大庭鶏塚発掘調査報告』

松江市教育委員会1985年『史跡右屋古墳』

出雲市教育委員会1981年「Ⅲ間谷西遺跡の発掘調査」『出雲平野南部地建設工事に伴う埋蔵文

化財発掘調査報告書』

川原和人1978年「島根県発見の朝鮮系陶質土器」『古文化談叢』第5集　九州古代文化研究会

また、松江市の出雲国府跡の調査でも出土している。(1999年度調査、埋文センター柳浦俊一氏ご教示)

註33　中村　浩『和泉陶邑窯の研究』1981年　柏書房

註34　松江市福富Ⅰ遺跡では4区SB12から出土例、松江市連行遺跡では包含層から出土、玉湯町岩屋遺跡では、加工段から出土している。

註15文献、島根県教育委員会2001年『岩屋遺跡・平床Ⅱ遺跡』、連行遺跡は広江耕史氏(島根県埋蔵文化財調査センター)ご教示。

註35　ちなみに小形甕は、口径15cm前後のもので、もう一回り小さいものを念頭に置いている。なお、大形、中形、小形とサイズで分けて呼称しているが、これは古墳時代後期の出土品を主に検討して呼称しているものであり、それ前後の甕に対しては、適切な呼称では無いのかもしれない。

註36　直刀については、次の文献を参照した。

臼杵　勲1984年「古墳時代の鉄刀について」『日本古代文化研究』創刊号　古墳文化研究会

註37　鉄釘については、次の文献を参照した。

田中彩太1978年「古墳時代木棺に用いられた緊結金具」『考古学研究』第25巻第2号考古学研究会

註38　宍道町教育委員会「随音寺横穴群発掘調査報告書」『宍道町埋蔵文化財調査報告』5　1986年

註39　宍道町教育委員会「清水谷、矢原遺跡発掘調査報告書」『宍道町埋蔵文化財調査報告』4　1985年

註40　西尾克己他編『宍道町歴史資料集(古墳時代編Ⅰ)』宍道町教育委員会　1993年

註41　出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6　1987年

註42　西尾克己他編『宍道町歴史資料集(古墳時代編Ⅰ)』宍道町教育委員会　1993年

註43　「宍道町の古墳時代」『宍道町ふるさと文庫』6　宍道町教育委員会　1992年

註44　『上沢Ⅱ遺跡・狐廻谷古墳・土井谷城跡・上塩冶横穴墓群』島根県教育委員会1998年の集成による。

註45　島根大学考古学研究会「十王免横穴群発掘調査報告」『嵩田考古10』1968年

註46　島根県教育委員会「狐谷横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』1977年

註47　池田満雄「芦渡町深田谷横穴」『出雲市の文化財2』1960年

註48　勝部明生「飯の山横穴」『隠岐』1968年

註49　「上沢Ⅱ遺跡・狐廻谷古墳・土井谷城跡・上塩冶横穴墓群」島根県教育委員会1998年

# 第７章　自然科学的分析

## 上野１号墳から出土した槍の柄に残る漆膜の構造について

京都造形芸術大学　岡田文男
宮内庁正倉院事務所　成瀬正和

### １．はじめに

上野１号墳から出土した槍は、鉄製の身から木質の柄まで、槍の全長や細部構造が判別できる状態で遺存していた。槍の身の茎は木質の柄に挟まれ、茎部分の木質表面には柄と直交して糸が巻かれ、その上に黒漆が塗布されていた。茎から離れた柄の木質は完全に消失していたが、表面に塗布された漆と見られる塗膜が非常に脆い状態で遺存していた。その部分は通常観察される漆膜と様子が異なり、やや灰色ぎみで、表面がざらついていた。そこで茎の装着部分と柄の２箇所の塗膜について、薄片による断面観察を行ない、おもに塗装構造を調査した。

### ２．調査方法

槍の茎の装着部と、茎から離れた柄の部分の塗膜それぞれ約２㎜角を採取し、エポキシ樹脂に包埋したのち塗膜断面を研磨し、約10μｍの薄片に仕上げ、生物顕微鏡下で観察した。柄の塗膜部分から鉱物粒子が検出されたことから、その部分について走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製走査型電子顕微鏡JSM-5800LV）とエネルギー分散型Ｘ線分析装置（JED-2140X）を用いて、無蒸着、低真空（70Pa）下で、反射電子像の観察、元素マッピング、定性分析を行なった。

### ３．観察結果

**(1)槍の茎装着部の塗膜（図版174　写真(1)～⑥）**

塗膜の表面はつやのない黒色を呈している（写真(1)、②）。塗膜断面の厚さは約0.5㎜で、塗膜下部に植物繊維の糸断面が均等に配列している（写真③、④）。木質の表面に巻かれた糸は完全に埋まり、表面が平滑になるまで、約６回の塗装が行われている（写真⑤）。糸は約0.5㎜間隔で等間隔に並ぶ。糸断面は円形に近く、糸の直径は約0.45㎜。植物繊維の内孔は扁平に潰れているが、形状や大きさは大麻に類似する（写真⑥）。塗膜の最下層は部分的に黄褐色透明であるが、その上の層ではすべて黒色顔料が混和されている。黒色顔料の濃度は下層が上層よりも濃い。

**(2)槍の柄の塗膜（図版174　写真⑦～⑧・図版175）**

茎から離れた柄の部分の塗膜は非常に脆く、採取した試料は小破片で、実体顕微鏡下では、塗膜表面に黒色の微粒子が密に分散しているのが観察される（写真⑦）。塗膜断面には褐色の膠着剤中に黒色や無色の鉱物粒子が観察される（写真⑧）。蛍光Ｘ線分析による元素マッピングの結果、粒子部分から鉄（Fe）とチタン（Ti）が検出された。無色鉱物からはケイ素（Si）、アルミニウム（Al）、カルシウム（Ca）、カリウム（K）などが検出された（図版175）。

## 4．考　察

### (1)槍の身の装着部に巻かれた糸の種類と塗装について

槍の茎装着部に巻かれた糸の材質は植物繊維であったが、同様の例が石川県七尾市国分尼塚から出土した槍の装着部でも確認されている。両者とも、糸を埋めるように漆が繰り返し塗付され、漆に黒色顔料が用いられた丁寧なつくりであることが共通する(報告書作成中)。糸直下の漆が黄褐色透明であるのは糸を固着するための生漆であることを示す。その上に塗布された漆がやや黒味を帯びているのは黒色顔料が混和されたことによると見られる。黒色が下層ほど濃いのは下層のほうが上層よりも黒色顔料の濃度が高いことを示している。

このような技法は弥生時代後期以降に見られるもので、古墳時代前期の武具類に塗布された漆に例がある。(註1)

### (2)柄に蒔かれた砂鉄

槍の柄に漆が塗られ、そこに砂鉄が蒔かれている例として、断片であるが石川県国分尼塚出土の槍がある。柄の部分の漆に砂鉄が蒔かれることについては表面がざらついていることからすべり止めの機能を果たした可能性がある。砂鉄が用いられた理由として、砂鉄が黒色であること、均一な大きさの粒子からなることなどが考えられる。

註1　中川正人:「雪野山古墳出土漆製品の材質と技法」『雪野山古墳の研究考察篇』pp.411-431、雪野山古墳発掘調査団、1996

# 上野１号墳から出土した刀子に付着した繊維の観察

京都造形芸術大学　岡　田　文　男

## 1．はじめに

上野１号墳から出土した刀子の側面に、平織りの布が付着しており、他の側面には植物痕らしきものが付着していた。両者について、薄片を作製し、顕微鏡下で組織を観察した。

## 2．結果 (図版176　写真①～⑧)

平織りの布の材質は絹糸であった（写真①～⑥)。写真には縦糸の断面が水平方向に走り、緯糸がその上下に写っている（写真②)。縦糸にわずかながら撚りがかかっているのが観察される（③、④)。絹糸の断面は人眼形で、１本の糸を構成する絹の単繊維数は約140である（写真⑤、⑥)。植物痕のように見えたものの断面にも絹糸の断面が観察された（写真⑦、⑧)。刀子の両面に見られた絹布は本来同一のもので、刀子に巻きつけられていた可能性がある。

# 上野１号墳出土遺物の理化学的分析

㈱元興寺文化財研究所

## １．はじめに

島根県教育委員会により中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内で発掘調査された上野１号墳出土遺物の保存処理及び理化学的分析は、財団法人元興寺文化財研究所保存科学センターへ委託された。ここでは保存処理及び理化学的分析により得られた若干の知見を報告する。尚、保存処理は㈱元興寺文化財研究所保存科学センター金属製品保存処理室の小村眞理が行い、各種分析は研究開発室の井上美知子が樹種鑑定、塗膜分析、繊維分析を、菅井裕子が顔料分析を行った。

## ２．分析対象と分析内容

今回は、①第一主体内の赤色顔料分析、②刀子に付着した木質、および鏡周辺土壌中の木質の樹種鑑定、③青銅鏡に付着した布の分析、④小剣はばき部分に付着した膜の分析を行った。

**分析目的**

① 赤色顔料は、朱かベンガラか

② 刀子は、出土状況から、棺の鎹のような用途で使用されている可能性が考えられたが、刀子に付着した木質は棺材の可能性があるか

青銅鏡は、鏡背面が上を向き、その上に拳大の石が乗って出土した。鏡面下部に木質が確認されたが、この木質は棺材なのか、鏡箱なのか

③ 青銅鏡に付着した布の種類は

④ 小剣はばき部分に付着した膜は漆膜か

**分析内容**

各遺物について、以下のような内容で調査を実施した。

表―１　分析対象と調査項目

## ３．赤色顔料の分析

３－１．分析対象

上野１号墳第１主体内の赤色部分の土をサンプリングして赤色顔料の分析を行った。

サンプリング箇所を図１に示す。

分析は以下の4点(図版177　写真参照)を行った。

- 試料№1の赤色部分
- 試料№2の赤色部分
- 試料№3　(比較試料)
- 試料№4　(比較試料)

試料№3、4の色調は全体が黄～茶褐色で、№1、2のように鮮明な色調の部位が観察されなかった。そのため、特に場所は定めずに数カ所ずつの分析を行った。

3－2．使用機器及び測定条件

使用分析機器：

- エネルギー分散型ケイ光X線分析装置(XRF)(セイコーインスツルメンツ㈱製SEA5230)

試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有のケイ光X線を検出することにより元素を同定する。ナトリウムより重い元素が検出可能である。

測定条件：モリブデン管球使用、大気雰囲気下、管電圧50kV、管電流1000μA

- 実体顕微鏡　(㈱オリンパス製SZH-ILLD)

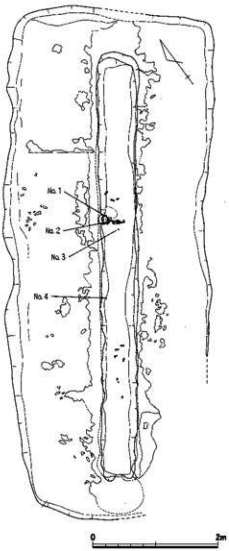



**図1　赤色顔料サンプリング箇所**

3－3．分析結果

XRFによる元素分析の結果、試料№1、№2、及び№3からは水銀(Hg)、鉄(Fe)を検出した(スペクトル参照　図版177)。水銀は水銀朱(硫化水銀：HgS)に由来するものとみられる。鉄は土壌成分またはベンガラ(酸化第二鉄：$Fe_2O_3$)に由来すると見られるが、試料の状態からは土壌成分である可能性が高いと考える。

試料№4からは鉄、チタン(Ti)などを検出した。水銀朱が含まれていないとみられる。

## 4．樹種鑑定

4－1　分析対象

- 刀子に付着した木質
- 鏡周辺の土壌中の木質　(図版178)

4－2　使用機器および鑑定方法

使用機器：

- 走査型電子顕微鏡　(日立製作所㈱S-415)
- 生物顕微鏡　(オリンパス光学㈱BX-50)

4－3　方法および結果

特に鉄製遺物に伴う有機物は、錆化し、組織の形のみを保持している場合が多い。当遺物も同様であり、通常行う徒手による切片作製ができなかったため、以下の方法で鑑定を行った。

●刀子付着木質

極微量をメスで掻き取り、木口面、柾目面、板目面が表面に出るように面を削った後、走査型電子顕微鏡で組織観察と写真撮影を行った。

木口面（図版179　写真3－①）に道管がみられたことより、広葉樹であることが明らかとなったが、1年輪内での配列状態が不明なため環孔材、散孔材、放射孔材の分類ができなかった。また、樹種の同定に必要な板目面（図版179　写真3－②）では放射組織の形態を確認することができず、また、柾目面は面を出すことができなかった。そのため、広葉樹の樹種まで鑑定することができず植材の可能性は推測できなかった。

●青銅鏡周辺の土壌中の木質

鏡面側にみられた土壌1（図178　写真1）の木質部分は非常にかたく、メスやナイフで切ることができなかった。そこで、電動のこぎりで一部を切り取った後、ミクロトームを用いて、鑑定に必要な木口面、柾目面、板目面の切片を作製し、観察を行った。

木口面（図版180　写真4－a）……環孔材で孔圏部の道管は単独または2～3個繋がっている、孔圏外では複合して分布し、徐々に小さくなっている。

板目面（図版180　写真4－b）……放射組織は1－6細胞列、50細胞高に達するものがある。上下縁辺には単列の直立細胞が1－2層存在する。

柾目面（図版180　写真4－c）……充分な知見を得られなかったが道管は単穿孔を有する。

以上より鏡面側にみられた木材はヤマグワと考えられた。

鏡背側の土壌2（図版178　写真2）中には、部分的に木質と見られるかけらがみられたが、連続性がなく木材としての組織も確認できなかった。

土壌中の木質は、棺材か鏡箱かを確定することはできなかった。

## 5．青銅鏡付着布の分析

5－1　分析対象

青銅鏡背面に付着していた布

5－2　使用機器及び測定条件

使用分析機器：

●フーリエ変換型赤外分光光度計（ＦＴ－ＩＲ）（日本電子㈱製JIR-6000）

試料に赤外線を照射し、そこから得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

測定条件：KBr錠剤法*　分解能4cm$^{-1}$、検出器TGS　（＊KBr（臭化カリウム）錠剤法試料をKBrと混合、圧縮し錠剤を作製して行う分析法）

●生物顕微鏡（㈱オリンパスBX-50）

●実体顕微鏡（㈱オリンパスSZH-LLD）

5－3　方法および結果

銅鏡のクリーニング時、銅鏡破片1．2（図版181　写真5－a，b）および鏡背が接した土壌（図版185　写真9－a）に僅かに布目が観察された（図版182～185）。鏡面付着繊維を極微量を採取し、分析を行った。

●布の繊維組成分析

FT-IR分析の結果、緑青や土壌成分の吸収ピークと共に植物性繊維の吸収ピークがみられた（図2）。

生物顕微鏡による観察の結果、繊維の幅は16～20$\mu$mで、繊維側面に縦の条線、所々に横の条線がみられた（図版186　写真10）。以上より、布の繊維は麻系（大麻か苧麻）のじん皮繊維と考えられた。

●布の織り密度測定

布が最も良好に付着していた破片1の鏡面の実体顕微鏡観察で糸の撚りは見られなかった。また、布は平織で織り密度は27×50（1㎠）であった（図版182　写真6－c）。

## 8．小剣の膜分析

6－1　分析対象

No.4小剣はばき部の膜状組織

6－2　使用機器及び測定条件

使用分析機器：

●フーリエ変換型赤外分光光度計（FT-IR）（日本電子㈱製JIR-6000）

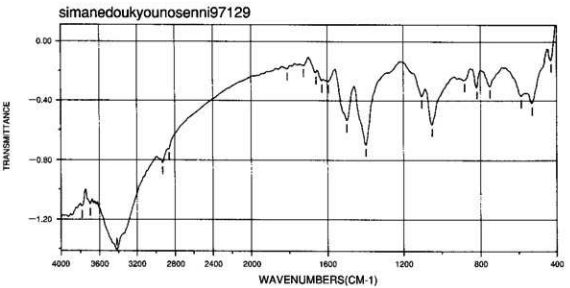
試料に赤外線を照射し、そこから得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

測定条件：KBr錠剤法*　分解能4cm$^{-1}$、検出器TGS（＊試料をKBr（臭化カリウム）と混合、圧縮し錠剤を作製して行う分析法）

6－3　方法および結果

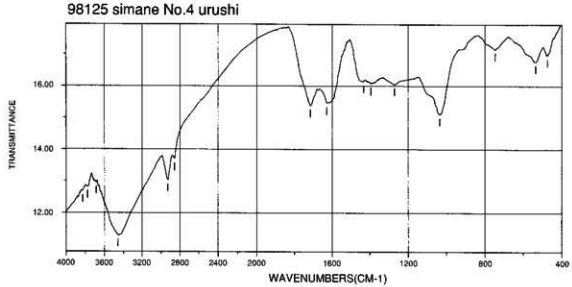
極微量採取しFT-IRで分析を行った。

FT-IR分析の結果3460,2930～2860,1720,1620,1460,1270cm$^{-1}$付近に漆の吸収がみられ、漆膜であることが判った（図3、4）。



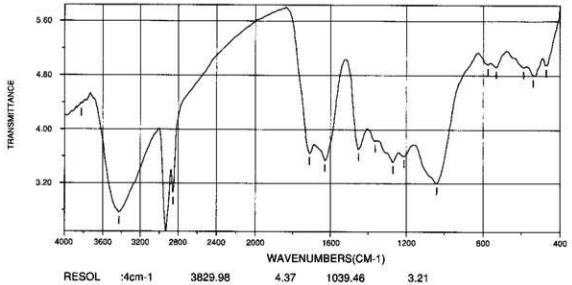

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RESOL | :4cm-1 | 3999.69 | −1.19 | 1629.57 | −0.26 | 528.41 | −0.26 |
| SCANS | :1000 | 3783.70 | −1.11 | 1596.79 | −0.27 | 431.98 | −0.27 |
| AMPGAIN | : ×16 | 3694.99 | −1.10 | 1496.51 | −0.53 | | −0.53 |
| P.INT | :2cm-1 | 3417.28 | −1.40 | 1396.23 | −0.69 | | −0.69 |
| BEAM | :single | 2925.52 | −0.82 | 1103.10 | −0.37 | | −0.37 |
| S.SPEED | :TGS | 2854.17 | −0.72 | 1051.03 | −0.56 | | −0.56 |
| S.NUMBER | :497 | 1810.85 | −0.18 | 883.25 | −0.26 | | −0.26 |
| M.DATE | :1/28/98 | 1726.00 | −0.16 | 819.61 | −0.31 | | −0.31 |
| | | 1660.43 | −0.21 | 750.18 | −0.30 | | −0.30 |
| | | 1631.50 | −0.26 | 586.26 | −0.36 | | −0.36 |

図2　付着繊維の FT-IRチャート




| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| RESOL | :4cm-1 | 3829.98 | 12.69 | 1270.88 | 16.06 |
| SCANS | :940 | 3779.84 | 12.83 | 1035.60 | 15.12 |
| AMPGAIN | : X8 | 3687.27 | 12.96 | 748.25 | 17.16 |
| P.INT | :2cm-1 | 3457.78 | 11.30 | 536.12 | 16.77 |
| BEAM | :single | 2929.38 | 13.02 | 474.41 | 16.97 |
| S.SPEED | :TGS | 2859.95 | 13.69 | | |
| S.NUMBER | :1004 | 1716.36 | 15.39 | | |
| M.DATE | :10/22/99 | 1629.57 | 15.46 | | |
| | | 1434.80 | 16.14 | | |
| | | 1396.23 | 16.09 | | |

図3　膜の FT-IRチャート




| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| RESOL | :4cm-1 | 3829.98 | 4.37 | 1039.46 | 3.21 |
| SCANS | :555 | 3425.00 | 2.76 | 775.25 | 4.97 |
| AMPGAIN | : X32 | 2927.45 | 2.48 | 730.90 | 4.93 |
| P.INT | :2cm-1 | 2856.09 | 3.05 | 588.19 | 4.93 |
| BEAM | :single | 1710.57 | 3.66 | 539.98 | 4.81 |
| S.SPEED | :TGS | 1629.57 | 3.55 | 472.48 | 4.96 |
| S.NUMBER | :1053 | 1450.22 | 3.71 | | |
| M.DATE | :2/4/0 | 1363.44 | 3.84 | | |
| | | 1268.95 | 3.53 | | |
| | | 1211.09 | 3.61 | | |

図4　漆(標準)の FT-IRチャート

# 上野遺跡埋蔵文化財調査に伴う土壌分析結果

島根大学生物資源科学部土壌圏生態工学研究室
若月利之、佐藤邦明

## 1．目　的

平成12年6月2日、島根県埋蔵文化財調査センターより依頼された土壌標本（資料№1～19）について、埴輪土器が遺体埋設に使用されたかの有無を土壌の理化学分析により調べること。

## 2．方　法

土色を観察しその後、一般理化学分析を行った。炭素（C）・窒素（N）は住友化学NCアナラーザーで測定した。その他の無機元素は土壌を0.1規定塩酸溶液（土壌：溶液＝5 g：30mℓ）で2時間抽出を3回反復後、100mℓとして、抽出液を島津製のICP2000（高周波プラズマ発光分析装置）で分析した。

## 3．結果と考察

分析結果、土色を表1，2に示した。肉眼的観察の結果は、本土壌は黒ボク土的な性質が弱いことを示す。各元素の濃度は、105℃乾燥土当たりで計算してある。埴輪土器の内部及び外部、周辺土壌間（№1～6、7～8、9～12、13～15、16～19）においては多少の数値の差が認められたものの、全体を通して特に突出したデータは得られなかった。

斐伊中山古墳群―西支群―（1994年3月）の調査結果の際に行った古墳の埋葬主体床面における屍体の位置同定では、屍体のあったと思われる土壌面からは多量の可溶性リン（P）が検出された。しかし今回の分析結果は、どれもリン濃度が低く、埴輪土器に屍体が埋葬されていたことを示す知見は認められなかった。

また、全体的に比較的高い交換性カリウム及びナトリウムの濃度が見られ、同じような傾向が平田遺跡（1997年3月）の調査においても見られた。リン濃度が高く屍体が埋葬されていると考えられた土壌では、交換性カリウムの濃度が低かったのに対し、出土した墳内の土壌において、リン濃度が低く交換性カリウム濃度が高い、という分析結果が出た。よって、リン濃度が高いのは埋葬によるもの、リン濃度が低くカリウムやナトリウム濃度が比較的高いのはその他の目的、例えばシイ、クルミ、ドングリなどの保存、あるいはその他の食品の保存によるものかもしれない。

しかしそれは推測であり、一般の土壌では交換性カルシウムの量はマグネシウムよりも多いのだが、分析結果より、カルシウムの値が低く、かなりの溶脱が起こっているのではないかと考えられ、長い年月を経て、屍体由来のリンが溶脱してしまったという可能性も否定することはできない。

第16表　埴輪棺土壌分析結果（水分含量、T－C・T－N、0.1規定塩酸抽出法）

UENO ANCIENT SAMPLE-LABORATORY ANALYTICAL RESULTS-SET

| No. | 水分含量 | TC | TN | C/N | Ca | Mg | K | Na | S | Mn | Mo | Zn | Cu | P |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | (%) | (%) | (%) | ratio | (cmol(+)/Kg) | | | | (mg/kg) | | | | | |
| 1 | 4.83 | 2.23 | 0.15 | 15.06 | 0.63 | 0.91 | 0.86 | 0.31 | 22.2 | 23.0 | 10.5 | 4.8 | 1.3 | 8.4 |
| 2 | 6.26 | 1.67 | 0.14 | 12.36 | 0.23 | 0.67 | 0.45 | 0.38 | 36.1 | 10.0 | 11.4 | 3.8 | 2.5 | 9.9 |
| 3 | 4.94 | 1.56 | 0.12 | 12.56 | 0.10 | 0.81 | 0.50 | 0.36 | 22.8 | 4.4 | 11.5 | 2.4 | 1.3 | 9.1 |
| 4 | 5.66 | 1.37 | 0.12 | 11.84 | 0.14 | 0.69 | 0.38 | 0.34 | 29.1 | 4.7 | 10.4 | 3.2 | 2.1 | 8.3 |
| 5 | 5.36 | 2.39 | 0.15 | 15.91 | 0.42 | 0.84 | 0.78 | 0.37 | 24.2 | 24.1 | 12.2 | 5.2 | 1.5 | 10.1 |
| 6 | 6.20 | 1.96 | 0.15 | 13.05 | 0.19 | 0.68 | 0.46 | 0.38 | 36.9 | 18.9 | 12.2 | 5.4 | 2.1 | 10.5 |
| 7 | 4.01 | 1.36 | 0.12 | 11.41 | 0.26 | 0.76 | 0.32 | 0.18 | 12.2 | 26.0 | 7.3 | 6.8 | 1.8 | 5.3 |
| 8 | 5.15 | 0.71 | 0.09 | 7.68 | 0.40 | 0.94 | 0.37 | 0.20 | 19.0 | 19.9 | 7.5 | 6.1 | 2.0 | 5.0 |
| 9 | 6.25 | 1.86 | 0.14 | 13.23 | 0.19 | 1.01 | 0.30 | 0.31 | 20.7 | 42.9 | 10.0 | 8.1 | 2.6 | 7.4 |
| 10 | 6.16 | 1.67 | 0.13 | 13.03 | 0.33 | 0.93 | 0.34 | 0.28 | 20.2 | 6.4 | 10.3 | 7.7 | 3.1 | 7.7 |
| 11 | 5.98 | 1.48 | 0.11 | 13.26 | 0.45 | 1.04 | 0.35 | 0.26 | 19.3 | 12.4 | 10.9 | 8.5 | 2.9 | 8.3 |
| 12 | 5.94 | 2.15 | 0.15 | 14.70 | 0.49 | 1.11 | 0.49 | 0.27 | 21.5 | 11.0 | 10.8 | 8.7 | 2.7 | 8.5 |
| 13 | 5.61 | 0.97 | 0.10 | 9.95 | 0.34 | 1.43 | 0.26 | 0.18 | 19.6 | 3.1 | 8.4 | 2.0 | 1.9 | 5.4 |
| 14 | 6.70 | 0.88 | 0.10 | 8.95 | 0.33 | 1.57 | 0.35 | 0.20 | 19.0 | 3.0 | 9.1 | 2.4 | 1.8 | 5.7 |
| 15 | 6.92 | 0.66 | 0.09 | 7.46 | 0.24 | 1.44 | 0.30 | 0.24 | 22.0 | 1.5 | 9.2 | 3.0 | 1.7 | 6.3 |
| 16 | 3.02 | 0.72 | 0.08 | 8.88 | 0.32 | 0.71 | 0.37 | 0.15 | 19.1 | 5.8 | 5.9 | 2.9 | 1.6 | 3.7 |
| 17 | 2.63 | 0.51 | 0.07 | 7.53 | 0.17 | 1.13 | 0.31 | 0.17 | 25.6 | 7.4 | 5.9 | 1.9 | 1.4 | 3.5 |
| 18 | 3.39 | 0.86 | 0.08 | 10.74 | 0.11 | 1.41 | 0.28 | 0.23 | 22.0 | 24.5 | 7.5 | 2.8 | 1.9 | 5.0 |
| 19 | 3.19 | 0.45 | 0.07 | 6.86 | 0.24 | 0.95 | 0.34 | 0.17 | 28.2 | 7.1 | 6.3 | 2.6 | 1.3 | 3.1 |

第17表　標本土壌土色

| No. | 乾　土 | | 湿　土 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 黒褐 | 7.5YR3/2 |
| 2 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 暗赤褐 | 5YR3/3 |
| 3 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 褐 | 7.5YR4/4 |
| 4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 暗赤褐 | 5YR3/3 |
| 5 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 |
| 6 | にぶい褐 | 7.5YR5/4 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 7 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 暗褐 | 10YR3/4 |
| 8 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 9 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 10 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 11 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 12 | にぶい黄褐 | 10YR5/3 | 暗褐 | 7.5YR3/4 |
| 13 | にぶい黄褐 | 10YR5/4 | 暗赤褐 | 5YR3/4 |
| 14 | 黄褐 | 10YR5/6 | 暗赤褐 | 5YR3/4 |
| 15 | 黄褐 | 10YR5/8 | 暗赤褐 | 5YR3/4 |
| 16 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 褐 | 10YR4/4 |
| 17 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 褐 | 10YR4/4 |
| 18 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 褐 | 10YR4/4 |
| 19 | にぶい黄橙 | 10YR6/4 | 褐 | 10YR4/6 |

第18表　埴輪棺土壌サンプル

| No. | 棺 | | |
|---|---|---|---|
| 1 | SX-01 | 棺内　Cベルト　中 | 5層 |
| 2 | SX-01 | 棺内　Aベルト　中 | 棺内 |
| 3 | SX-01 | 棺内　B、Dベルト　上 | 2層 |
| 4 | SX-01 | 棺内　Aベルト　上 | |
| 5 | SX-01 | Cベルト　下 | 5層 |
| 6 | SX-01 | 棺内　Aベルト　下 | 棺外 |
| 7 | SX-03 | 棺内　南東　上 | 上層 |
| 8 | SX-03 | 棺内　南東　下 | 下層 |
| 9 | SX-04 | Bアゼ　土色③ | 3層 |
| 10 | SX-04 | Cアゼ　土色③ | |
| 11 | SX-04 | D区－④ | 4層　棺外 |
| 12 | SX-04 | D区－⑤ | 5層墓坑外 |
| 13 | SX-05 | 棺内　C区　黄　下 | |
| 14 | SX-05 | 棺内　A区　下下 | |
| 15 | SX-05 | 棺内　C区　下下下 | |
| 16 | SX-06 | B－3 | 上層 |
| 17 | SX-06 | B－3 | |
| 18 | SX-06 | C－4 | 下層 |
| 19 | SX-06 | D－4 | |

# 第8章　まとめにかえて

## 第1節　上野1号墳の墳丘・主体部について

**墳丘の構築**　上野1号墳は、長径約40m、短径約37mの楕円形を呈し、高さ約5mの古墳であった。墳丘は地山を削り出した後、盛り土を行って墳丘を構築している。以下、調査結果より墳丘の構築過程を想像を交えて復元していく。

上野1号墳付近の旧地形は、上野1号墳墳頂付近をピークにした尾根筋となっていたものと思われ、東側は急斜面となって落ち込んでいたものと思われる。墳丘盛り土を除去した状況では、最終的な墳頂中心よりも南西側を中心とした平坦面が削り出されており、落ち込んでいる東側を避けるように墳丘の構築が始まったことを示している。この平坦面上には浅い溝2が巡っており、この溝が最初の盛り土の割付線となる可能性は本文で述べた。この内側に盛り土が行われ、墳頂の中心を東へ移動する作業が行われる。この後に溝1が楕円形に掘られるが、溝1の形状は最終的な墳丘の1/2の大きさになるように掘られ、この時点で、最終的な墳丘の平面形が決定している。おそらく、溝1の掘削の直後に墳端部の成形が行われるものと思われる。なお、溝1底部より埴輪小片が出土していることから、溝1を割付線とし溝1内側への盛り土が完了した時点で、墳頂部に埴輪が持ち込まれている可能性がある。また、上野1号墳には葺き石が認められないが、墳頂部には白色粘土が厚く盛られ、墳頂部周辺の化粧が行われている。墳頂部付近の盛り土が完了すると、溝1の埋め戻しが行われ、溝1付近をテラスとする2段築成の楕円形墳丘が完成したと思われる。長径約40mの規模は、この時期の円墳としては大垣内塚1号墳に次ぐ規模となり、松本1号墳(前方後方墳)、大寺1号墳(前方後円墳)に匹敵する。

上野遺跡Ⅱ区からは鰭付円筒埴輪を始め多くの埴輪が出土しているが、この埴輪は、いわゆる特殊円筒土器を除けば県内最古級である。同時期で埴輪を持つ古墳としては、大垣大塚1号墳(松江市)、五反田1号墳(安来市)が知られているほか、向山遺跡(安来市)の埴輪がある。大垣大塚1号墳・向山遺跡の埴輪は方形スカシを持つもので、高橋克壽氏が大和北部型と呼ぶ規格性の高い埴輪で、上野1号墳のものと同じ出自である可能性がある。ただ、上野1号墳には3グループ程度の差が見られ、方形スカシ自体が存在しないなど相違点も多く見られる。一方、因幡の里仁古墳群出土の埴輪は、上野遺跡2区の埴輪との共通点が極めて多い。里仁古墳群の埴輪に特徴的な点は、上野遺跡Ⅱ区と同じ大和北部型と呼ばれる鰭付円筒埴輪の存在であるが、大和には存在しない最上段スカシが見られる点である。上野遺跡1号墳の鰭付円筒埴輪には最上段スカシは見られないが、上野遺跡Ⅱ区には最上段スカシを持つ円筒埴輪は多く見られ、その共通性は注目される。

上野1号墳には葺き石が存在していない。大成・造山1・3号墳に葺き石が見られる他、同じ荒島丘陵に位置し竪穴式石槨を持つ塩津山1号墳でも貼り石状の外表施設を持つ。上野1号墳と同時の円形墳では大垣大塚1号墳・大寺1号墳・山地古墳でも葺き石が見られる。一方、葺き石の無い古墳は、奥才13・14号墳や釜代1号墳など20m以下の小規模なものに多いことから葺き石の有無を古墳のステータスの大小と見ることもできる。しかしながら、三角縁神獣鏡を持つ神原神社古墳や50mの前方後方墳である松本1号墳に葺き石がなく、葺き石の有無が近隣古墳間で共通するという特徴が見られることから、単純に地域色とも考えられる。布志名大谷1号墳・上野1号墳など穴道

湖南岸地域は葺き石を葺かない地域性が有るものと見られる。

**主体部の構築**　墳頂部に造られた3基の主体部は、検出できた範囲では掘り込み面に差が見られない。各主体部は、墳頂部の白色粘土による化粧が完了してから、墓壙の掘削を開始している。調査結果より第1主体部の構築過程を想像を交えて復元する。

最初の行程として、第1主体部の墓壙は断面箱形に掘り込んでいるが、木棺を置く部分は僅かに高く掘り残している。掘り込みは盛り土内で完結しており、地山には達していない。第2の工程として、木棺を置く部分を残して両側を一旦埋め戻した後に、棺床粘土が張られる。ここで、棺身が置かれるが、棺身の断面形が必ずしも半円形でない可能性がある。第1主体部内の土層断面で見る限り、棺床が水平になり、稜はないものの、両壁面が直線的に斜めに延びるように見える。棺床粘土と棺側粘土下半は、場所によっては途切れる部分も見え、小工程に分けられる可能性がある。蓋の形状は全く不明であるが、棺身は多角形に近い形状であった可能性がある。いつの時点で蓋をするかは不明であるが、粘土槨は下半が完了した時点で作業を止め、棺外の棺床粘土の上面に槍・剣が置かれる。第3工程として、その上から棺蓋の被覆粘土が施されるが、被覆粘土は、棺蓋上面まで及ばないか、非常に薄いものになる。槍・剣を副葬する時点で、棺床粘土と被覆粘土の間に橙色土層が見られることから、被覆粘土を行うまでの間には若干の時間があり、墓壙内を多くの人間が動き回っていると想像される。棺蓋の被覆が終了すると、最終工程で墓壙全体が埋め戻されるが、埋め戻しは両側から大胆に行われているものと思われる。埋め戻しが終了した後、標石・供献土器を供えて、第1主体部が完成したものと思われる。

ところで、第1主体部は縦断面の棺中央付近だけが真っ先に埋没した可能性があることは本文中でも述べた。この木棺は、刳り抜き式の割竹形木棺と考えられ、三分割する仕切が存在した可能性を本部中で指摘しているが、仕切の両側からは遺物が出土しないと言う事実がある。黒塚古墳では、棺中央の約2.8mの部分のみが刳り貫かれていた可能性が指摘されている。[narabi15] 同様の棺構造を、上野1号墳に当てはめると、刀子の出土位置間が棺中央の内法と考えられ、黒塚古墳ほぼ同じ中央の2.7mの部分のみが刳り貫かれていた可能性がある。

第2主体部は粘土槨ではないが、墓壙の掘り方が異なっている。第1工程では、棺床面まで墓壙を掘り込むことはせず、棺を置く位置をあらかじめ溝状に掘り窪めている。このために第1主体部の第2工程に当たる作業は存在しない。棺構造が不明で、副葬品が存在しないことからその後の工程は明らかでないが、最終的な埋め戻しは第1主体部と同様に両側から大胆に行われているようである。

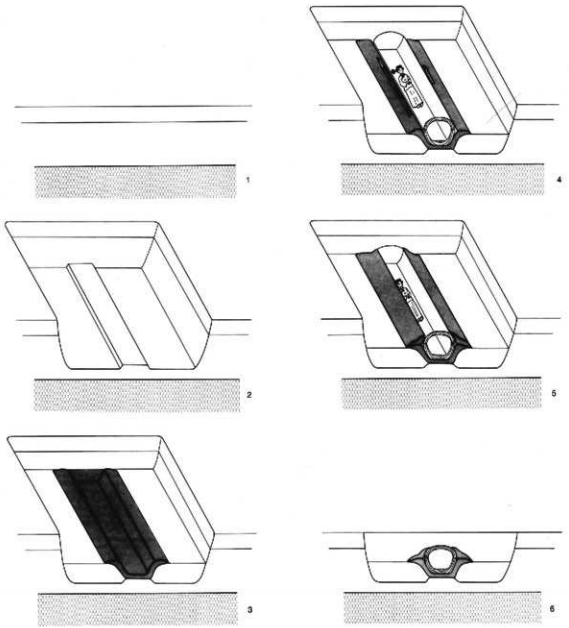
上野1号墳第1主体部の粘土槨は上面の被覆が不明瞭なものの、棺床粘土、棺側粘土、被覆粘土の各工程を分けて行っており、割竹型木棺を納めるという通常の粘土槨とほぼ同じ構造を持つと考えられる。出雲の古墳で粘土槨を持つ古墳としては、釜代1号墳、松本1号墳、斐伊中山2号墳、[kaki16] 布志名大谷1号墳[sue17]がある。このうち釜代1号墳は2基の主体部を持ち、第1主体部は調査されていないが、両者とも粘土槨であることが確かめられている。調査された第2主体部は割竹形木棺を納め、棺床・棺側・被覆粘土の区別のあるものである。一方、斐伊中山2号墳は第3主体部と第4主体部が粘土槨とされているが、第4主体部は割竹形木棺の棺床のみに、第3主体部は箱式木棺の被覆のみに粘土を使用するものである。同様に松本1号墳は箱形木棺を使用しており、布志名大谷1号墳では割竹形木棺の被覆にのみ粘土を使用し、棺床に粘土はなく、小口の閉塞には石を使用する

ものになっている。上野１号墳についても上面の被覆が極端に少ないか、白くなく精選されていない粘土を使用したと思われることから、割竹形木棺を納め、上面までを白色粘土で完全に被覆する粘土槨は、現在知られている遺跡では釜代１号墳しか存在しないことになる。

## 第２節　上野１号墳出土土器について

上野１号墳第１主体部直上からは多数の供献土器が出土したほか、第３主体部埴輪棺の閉塞には大型土器底部が使用されていた。

第１主体部直上で出土した直口壺は、夫敷遺跡中層出土の直口壺（第185）と形態、調整の似るものである。相違点としては、夫敷遺跡出土遺物は口縁部がやや短く、内湾気味になるなどの点が見られ、上野遺跡出土直口壺が先行する。夫敷遺跡中層は古墳時代中期中葉とされている。一方、上野１号墳の高坏には坏部の稜が存在せず、小谷式の範疇に含まれる器種と認識しているが、脚部との接合に中




第229図　上野１号墳第１主体部構築過程復元想像図

央充填を行った痕跡がほとんど見られない。また、脚部に円形スカシを持つなど僅かに畿内的な要素を持つものが見られる。

上野1号墳第1主体部出土遺物の中で特徴的な土器に小型器台がある。口縁部の形状の判る個体がないが、貫通孔を開ける小型器台は、近隣ではあまり見かけない器種である。上野1号墳では直口壺が8点前後、小型丸底壺が3点前後、甕が1点しか見られないが、これに対して開地谷型器台が14点前後あるものと見られることから、小型器台に乗る壺が存在しないことになる。現状では器台かどうかも疑わしい器種であり、類例を待ちたい。

出雲地方における古墳時代前期の土器について布留式との併行関係を重視しながら編年的[井守19]に整理した松山氏によると、上野1号墳第1主体部の土器は、釜代1号墳（松江市）山地古墳（出雲市）と並んで、2期古段階と位置づけられている。松山氏は、2期古段階は段を持つ高坏など大東式の器種と供に鼓形器台が含まれている時期とし、壺棺も完全な丸底になる、とされている。しかしながら、上野1号墳第3主体部の大型土器底部は完全な平底であるため、丸底の壺棺として紹介された山地古墳よりも古相を呈する可能性がある。

上野1号墳出土土器の特徴としては、高坏の坏部に稜が入り始める点、見慣れない形状の小型器台が存在すること、開地谷型と言われる稜のない鼓形器台が存在することなどが挙げられる。この内開地谷型器台は、本文中でも述べたとおり、稜がない以外の特徴は小谷期の器台に共通するもので、同時期とされる釜代1号墳の器台のようなハケによる調整やスカシなど特異な要素は見られない。奥才古墳群（鹿島町）での同時期の古墳としては、奥才12・13・14号墳が考えられるが、いずれも供献土器はなく、土器棺での比較となるが14号墳には土器棺も伴っていない。奥才13号墳の壺棺は、外面ハケメ調整し、明確な底部を持つ点で上野1号墳のものに近い。一方奥才12号墳の土器棺は、僅かに底部の痕跡を留めるに過ぎず、山地古墳の土器棺に近い。奥才13号墳は方墳で、隣接する円墳（奥才14号墳）に先行することが確認されており、松山編年の1期新相に含まれると考えられる。

松山編年で上野1号墳を1期新相より新しくせざるを得なかった理由に、開地谷型器台の存在がある。土器様式で画期を求める以上、通常の小谷型器台に対して別の要素を含む開地谷型器台を新しく考えるのは当然の結果であり、それ自体を否定する根拠は持ち得ないが、上野1号墳の土器相は、松山編年の2期古相よりは、むしろ1期新相に入り込む可能性が強く、2期古相であっても山地古墳・釜代1号墳より古いと考えられる要素が多い。

## 第3節　上野1号墳出土金属器について

上野1号墳第1主体部の粘土槨からは剣・槍を塗り込められたような状態で検出している。これらの剣・槍はいずれも抜き身と考えられ鞘の痕跡は見られない。出雲地方の中型以上の前期古墳で、鞘入りで刀剣類を副葬する古墳は、大成古墳・神原神社古墳が知られる一方、抜き身で副葬されている可能性の高いものに松本1号墳・寺床1号墳・奥才14号墳が知られている。このことについて宇垣匡雅氏[宇垣20]は、上位の階層のみが鞘入りで副葬し、下位の階層は抜き身・布巻きで副葬するとされ、階層格差の表示と考えられている。しかしながら、鞘入りで副葬される古墳は、いずれも松山編年の1期古段階のものに限られ、抜き身で副葬される古墳が1期新段階から2期の古墳である点から時期差と捉える方が自然に思われる。

上野1号墳第1主体部から出土した2本の剣は、いずれも木装黒漆塗りの柄装具が残存していた。

短剣（115－6）は資田分類のA1類[注21]に含まれるもので、柄縁だけが残存する。本体と柱状突起の面は連続しないもので、柱状突起の形状は不明である。柄間装具は2枚で構成され、柄縁の頭側に差し込む形状になると思われる。

長剣（115－7）の装具は、柄縁と柄頭装具が残っていた。柄間装具は全く残存していなかったことから、漆塗りではないと考えられ、短剣と同様に2枚の紙材を併せ、柄縁・柄頭装具に差し込むものと思われる。柄頭装具は、木質が腐食し潰れてしまっているために、細かい形状が把握しがたいが、元の形状を反映していると思われる線を辿ると、一見、頭部が傾斜し、断面三角形に近い形状に見える。類例のない形状のため、通常のA1類の柄頭を想定すべきであるが、現状からは、頭端面の窪みや沈線等が認識できないため、変形の柄頭があり得るかもしれない。

上野1号墳第1主体部で出土した剣・槍はいずれも棺外からの出土である。棺内出土の刀子類は非常に小さく武器と呼ぶには躊躇するものであるので、棺内に武器は副葬されていないと言うことができる。

## 第4節　上野遺跡2区出土埴輪について

上野1号墳墳丘からは多量の埴輪片が出土したほか、第3主体部・1～5号埴輪棺に多くの埴輪が使用されていた。これらの埴輪の内、全形が見えるものについてその特徴を整理したものが第19表である。全形が判るものについては、総高70cm前後で、タガ間18cm前後、鰭付朝顔形埴輪と最下段の透孔を除く透孔の形状は逆三角形で、1段あたりの透孔は2方向に開けられるという共通点が見られる一方、ヨコハケの使用やタガ・口縁部の形状、タガ間の透孔の位置などには、すべての要素が完全に一致する個体が見られないほど差異が見られた。

第3主体部に使用される116－1は、最上段にスカシがなく、内面調整がタガを挟んで連続しないという特徴が見られる。製作時にタガまで1工程としたものと考えられる。タガ間約18cmで、最上段を短く作っており、高橋氏の言う「大和北部型」[注22]に共通する特徴を持つものである。

一方、内面調整にタガを越える連続性があると見られる個体には128があり、それには、スカシがタガに接触するか、きわめて近い位置に開けられている。スカシの穿孔とタガの張り付けが別に行われるものと考えられ、スカシまでを1工程としたと思われる。このように仮定すると、内面調整が不明瞭であっても、スカシがタガに近い位置に開くものには、127・131－2・134－2・137・138があり、いずれも最上段スカシを持っている。この内、127・138は断面楕円形を呈する個体である。138は外面調整にヨコハケを使用していない一方、第2段目に劃付線と見られる沈線が見られるものである。

ほぼ全形が判る個体で、以上の分類に含まれなかったものに134－1・135が見られる。134－1は、最上段スカシが見られるものの、口縁部やタガの形状は116－1と共通する一方、第3段目に2次調整のヨコハケが見られる。135は最上段スカシが見られないもので、ヨコハケも確認できず、比較的約束事が守られている個体であるが、スカシを開けない最上段の幅が12.4cmも用意されている。

以上のような差異を仮に時間差と仮定し、鰭付きである116－1を最初のものとすると、次に135で口縁部が長くなり、134－1で最上段にスカシが開けられ、ヨコハケを付加される。最も新しいグループでは、最上段スカシとヨコハケは完全に定着し、作業工程もスカシまでを1工程とするよ

うに変化したものと思われる。

ここで問題となるのは、鰭付朝顔形埴輪である123の扱いである。本文中でも記したとおり、123だけ色調が白みがっており胎土が異なる可能性がある。基部やタガ間の長さは、116－1に一致しており、「大和北部型」の特徴を持つものであるが、「大和北部型」としては新しい要素である楕円形スカシを持つ一方で、古い要素とも取れる頸部のタガが見られないと言った特徴を持っている。近畿地方から直接持ち込まれたとも思えないが、近畿地方の工人が造った物と思われ、他の個体とは製作地が異なっていると思わざるを得ない。

上野遺跡の埴輪は、概ね「大和北部型」の特徴を有しており、116－1については、近畿地方から工人が来て製作している可能性が考えられる。近畿地方の埴輪でよく似たものを探すと、天皇の杜古墳[註23]（京都府）、瓦谷1号墳[註24]（京都府）などがあるが、これらの埴輪とは、タガ間が一致しない。タガ間を含めて似たものには萱振1号墳[註25]（大阪府）がある。

一方、近畿地方以外では、里仁古墳群（鳥取県）のものが共通した特徴を持っている。里仁古墳群出土埴輪では方形スカシを持つものが多く、その点が上野遺跡と異なるが、全体の形状やタガ間、調整などは上野遺跡とほぼ一致する。里仁古墳群出土埴輪は、最上段の幅が、タガ間の距離と等しく、上野遺跡の埴輪より更に口縁部が延び、最上段にスカシを入れるものが極めて多いという特徴があり、近畿地方のものを原型とすると、上野遺跡のものよりも遠いという印象が持たれる。

第19表　埴輪棺観察表

| 実測図番号 | 段 | 外面調整 | 内面調整 | 調整の連続性 | スカシ | スカシの位置 | タガ間距離 | 口縁部の形状 | タガの形状 | 全体の形状 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 116-1 | 4 | タテハケ | タテハケ | | 無し | | 8.7 | ナナメに延びる | つまみ出す形状で高い | 直立して口縁のみ開く | 鰭付き |
| | 3 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 4.3−7.2 | 18 | | | | |
| | 2 | タテハケ | ナナメハケ | 不連続 | 無し | | 17.8 | | | | |
| | 1 | タテハケ | ナナメハケ | 不連続 | 半円形 | 3.5−15.7 | 24 | | | | |
| 119-8 | 1 | タテハケ | ヨコハケ | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | 底部のみ |
| 123 | 4 | タテハケ | タテナデ | 不明 | 無し | | 12.2 | 朝顔・頸部にタガが巡らない | つまみ出す形状で、高く細い | 直立 | 鰭付き |
| | 3 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 楕円形 | 5.7−7.3 | 17.6 | | | | |
| | 2 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 無し | | 17.7 | | | | |
| | 1 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 楕円形 | 4.0−14.4 | 24.3 | | | | |
| 124-3 | 1 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | 底部のみ |
| 125-1 | 4 | 不明 | 不明 | 不明 | 無し | | 8 | 内傾 | 台形高い | | 形状不明 |
| 125-2 | 4 | タテハケ | 不明 | | 不明 | | 11.5 | 端部をナナメに折り返す | 長方形高い | 直立 | |
| | 3 | ヨコハケ | 不明 | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | |
| 125-5 | 1 | タテハケ | 不明 | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | 底部のみ |
| 125-6 | 1 | 不明 | ヨコハケ | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | 底部のみ |
| 125-7 | 1 | 不明 | タテハケ | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | 底部のみ |
| 127 | 4 | 2次ヨコ | ヨコハケ | | 逆三角形 | 6.5−1.6 | 11.5 | 端部を直角に折り返す | 台形低い | 直立 | 楕円筒埴輪 |
| | 3 | 2次ヨコ | タテハケ | 不連続 | 無し | | 17.8 | | | | |
| | 2 | 2次ヨコ | ナナメハケ | 不連続 | 逆三角形 | 4.5−7.3 | 17.8 | | | | |
| | 1 | タテハケ | タテハケ | 不連続 | 不明 | | 不明 | | | | |
| 128 | 4 | 2次ヨコ | 連続ヨコ | | 逆三角形 | 4.9−0 | 11.5 | 端部を直角に折り返す | 台形低い | 直立 | |
| | 3 | 2次ヨコ | ヨコハケ | 不明 | 逆三角形 | 3.4−9.5 | 17.8 | | | | |
| | 2 | 2次ヨコ | ヨコハケ | 不明 | 逆三角形 | 9− | 17.8 | | | | |
| | 1 | 2次タテ | タテ・ヨコ | 連続 | 形状不明 | 5.4− | 不明 | | | | |
| 131-2 | 4 | 2次ヨコ | ヨコハケ | | 逆三角形 | 2.4−1.3 | 10.5 | 端部を直角に折り返す | 台形低い | 直立 | |
| | 3 | 2次ヨコ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 11.8−2.0 | 18.7 | | | | |
| | 2 | 2次ヨコ | ナナメハケ | 連続 | 逆三角形 | 7.3−5.2 | 19.4 | | | | |
| | 1 | タテハケ | タテハケ | 連続 | 無し | | 24.3 | | | | |
| 134-1 | 4 | タテハケ | ナデ | | 逆三角形 | 3.8−3.4 | 12.3 | 端部をナナメに折り、断面三角形 | つまみ出すやや高い | 直立 | |
| | 3 | 2次ヨコ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 5.9−7.4 | 18 | | | | |
| | 2 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 6.6−6.5 | 18 | | | | |
| | 1 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 不明 | | 不明 | | | | |
| 134-2 | 4 | タテハケ | タテハケ | | 逆三角形 | 5.0−2.1 | 12.3 | 外湾させる | 台形低い | 直立 | |
| | 3 | タテハケ | タテハケ | 連続 | 逆三角形 | 5.8− | 不明 | | | | |
| 135 | 4 | ナデ | ナデ | | 無し | | 10.9 | 外湾させる | 台形高い | 開き気味 | |
| | 3 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 5.2−6.7 | 17.2 | | | | |
| | 2 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 逆三角形 | 5.2− | 17 | | | | |
| | 1 | 不明 | 不明 | 不明 | 形状不明 | 3.6− | 不明 | | | | |
| 137 | 4 | 2次ヨコ | ナデ | | 逆三角形 | 6.5−0.8 | 12.4 | 端部を直角に折り返す | 台形高い | 開き気味 | |
| | 3 | 2次ヨコ | ナナメハケ | 不明 | 逆三角形 | 10.5−2.2 | 18 | | | | |
| | 2 | 2次ヨコ | ナナメハケ | 不明 | 逆三角形 | 4.0−8.5 | 18 | | | | |
| | 1 | タテハケ | タテハケ | 不明 | 無し | | 23.5 | | | | |
| 138 | 4 | ヨコナデ | ナデ | | 逆三角形 | 6.5−0.8 | 10.4 | 端部を直角に折り返す | つまみ出す低い | 直立 | 楕円筒埴輪 |
| | 3 | タテハケ | タテハケ | 連続 | 逆三角形 | 10.5−2.2 | 18.5 | | | | |
| | 2 | タテハケ | タテハケ | 連続 | 逆三角形 | 4.0−8.5 | 不明 | | | | |

## 第5節　上野1号墳のその他の副葬品

第1主体部出土玉類には、瑪瑙製の勾玉が含まれていた。近い時期と考えられる古墳出土の勾玉は、寺床1号墳[注26]・五反田1号墳がヒスイ・硬玉、斐伊中山2号墳が緑泥石片岩、釜代1号墳が碧玉と緑色を指向するもので、瑪瑙製のものは見られない。上野1号墳の勾玉は、赤色を指向する最初のものであった可能性が高い。一方、上野1号墳には、同時期の古墳で多く見られる翡翠製の勾玉が含まれ、同様に古い要素と考えられるガラス製の勾玉も合わせて持っており、新旧の両要素を含むものとなっている。

舶載斜縁神獣鏡は寺床1号墳・造山3号墳から出土しているが、仿製斜縁神獣鏡は出雲では初の出土となる。三角縁以外の仿製神獣鏡について福永伸哉氏は[注27]、三角縁神獣鏡以降に仿製が始まるものを新式神獣鏡と呼び、4世紀中葉以降に三角縁神獣鏡に対して排他的な傾向を示しつつ数を増やしていく状況から、畿内政権の主導権を握っていた大和盆地北部及び河内の新興勢力による配布を想定されている。この点は、大和北部型と呼ばれる埴輪や瑪瑙製勾玉を持ち、先行する大型墳を持たない上野1号墳には当てはまる可能性がある。

## 第6節　上野1号墳の位置付け

上野1号墳が立地する宍道町佐々布は、広い平野に面した地域ではない。神原神社古墳・大成古墳を始めとする松山編年の1期古相まで遡る大型古墳はいずれも平野に面した立地となっており、農業生産力を背景に古墳が築かれているものと想像される。一方、1期新相から出現し、先行大型墳を持たない大垣大塚1号墳・大寺1号墳などは、広大な平野に面していない狭わいに、あたかも水上交通路を背景にしたかの様な立地となる。神門水海に面した山地古墳も同様で、いずれも円形を指向した墳形を採用している。出雲の主要古墳では、松山編年の1期新相段階の途中で、方形を指向する墳形を取っていた首長墓が、円形の墳形に変わることが知られ、また、それと同時にそれまで歴代首長墓が造られ続けた安来平野での大型方墳の築造が途絶えるように見える。この点について、「畿内政権の絶対的優位の確立に伴い、安来平野以外の地域の首長に大型前方後円墳の築造を認め、出雲に対する押さえとした。」もしくは、「畿内政権が外縁地域の首長を取り込んで政治的安定を確立した。」ことに伴って、「安来平野の首長に対する優遇措置を停止した。」との考え方がある。しかしながら、神原神社古墳の存在を考えれば、安来平野の首長のみが優遇された事実は考えにくく、全出雲を代表するような首長の存在は、当時の古墳の状況からは考えにくいのではないだろうか。出雲での状況から見れば、首長墓が造られる場所の変化は、小地域の農業生産力を背景に畿内政権との関係を持つ首長から、畿内政権との関係で政治的に保証された首長への変化と捉えることも可能に見え、その後の出雲国としてのまとまりの成立の第一歩と見ることができる。一方、上野1号墳での状況を見ると、埴輪には畿内的な要素を強く感じるものが多く、土器にも畿内の影響を見ることができるが、主体部上に標石を置き、供献土器を供える出雲での伝統的な葬送儀礼を行っている。さらに長剣や瑪瑙の勾玉など、新しい副葬品を持つ一方で、石製腕飾類や甲冑などが見られない。これは、上野1号墳の被葬者が畿内政権を支える一画との個別的な繋がりでの配布を受けたものと想像されるもので、畿内政権そのものとの繋がりとは考えにくい。同時期の山地古墳は、筒形銅器を保持しているが、埴輪や長剣は持っていないなど、個別的な繋がりを想像する事例はあ

る。この時期の畿内政権内では、大和東南部から大和北部へ、さらに河内へと大型古墳の分布の中心が移動する時期に符号するものと思われ、畿内政権内部の政治的過渡期と地方の古墳の動向が一致する資料として注目されるものである。[28][29]

註1 『郷土誌ふるさと秋鹿』秋鹿郷土誌刊行委員会1985年
註2 『松本古墳調査報告』島根県教育委員会1963年
註3 『出雲・上塩冶地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』島根県教育委員会1980年
註4 註1に同じ
註5 『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』島根県教育委員会1998年
註6 『山陰の埴輪』島根県立八雲立つ風土記の丘資料館1981年
註7 高橋克壽「埴輪生産の展開」『考古学研究41－2』1994年
註8 『単仁古墳群』㈶鳥取県教育文化財団1985年
註9 『古代の出雲を考える4 荒島古墳群』出雲考古学研究会1985年
註10 『塩津山古墳群』島根県教育委員会1997年
註11 『山地古墳発掘調査報告書』出雲市教育委員会1986年
註12 『奥才古墳群』鹿島町教育委員会1985年
註13 『釜代1号墳他発掘調査報告書Ⅰ』松江市教育委員会
註14 遠岡法暲「加茂町の古代」『加茂町誌』加茂町1985年
註15 『黒塚古墳発掘調査概報』橿原考古学研究所2000年
註16 『斐伊中山古墳群－西支群－』木次町教育委員会1993年
註17 「大谷1遺跡」『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報8』島根県教育委員会1999年
註18 『国道9号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6（夫敷遺跡）』島根県教育委員会1989年
註19 松山智弘「小谷式再検討」『島根考古学会誌第17集』2000年
註20 宇垣匡雅「前期古墳における刀剣副葬の地域性」『考古学研究第44巻第1号』1997年
註21 置山雅昭「古墳時代の木製刀把装具」『天理大学学報第145輯』1995年
註22 京都大学大学院助手高橋克壽氏の指導を得た
註23 『史跡天皇の杜古墳保存整備事業報告書』京都市文化観光局1994年
註24 『京都府遺跡調査報告書第23冊瓦谷古墳群』㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター1997年
註25 『菖振遺跡』大阪府教育委員会1992年
註26 『寺床遺跡発掘調査概報』東出雲町教育委員会1983年
註27 福永伸哉「古墳時代前期における神獣鏡製作の管理」『国家形成期の考古学』1999年
註28 池淵俊一「方墳世界の実像」『古代出雲文化展図録』島根県古代文化センター1997年
註29 高橋克壽「四世紀の埴輪」『歴史発掘9埴輪の世紀』講談社1996年

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| フリガナ | ウエノイセキ　タケノサキイセキ |
| 書名 | 上野遺跡・竹ノ崎遺跡 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 9 |
| 著者名 | 林 健亮　原田敏照 |
| 編集機関 | 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター　http://www.pref.shimane.jp/section/maibun/ |
| 所在地 | 〒690-0131　島根県松江市打出町33番地　TEL:0852-36-8608代　maibun@pref.shimane.jp |
| 発行年月日 | 西暦2001年3月31日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウエノイセキ<br>上野遺跡 | ヤツカグン<br>八束郡<br>シンジチョウ<br>宍道町<br>オオアザサソウ<br>大字佐々布<br>2606-1番地 | 32307 | | 35度<br>23分<br>23秒 | 132度<br>54分<br>11秒 | H09.04.23<br>～<br>H10.08.31 | 13,000㎡ | 道路建設 |
| タケノサキイセキ<br>竹ノ崎遺跡 | ヤツカグン<br>八束郡<br>シンジチョウ<br>宍道町<br>オオアザサソウ<br>大字佐々布<br>2611-2番地 | 32307 | | 35度<br>23分<br>28秒 | 132度<br>54分<br>20秒 | H09.04.15<br>～<br>H09.10.12 | 2,000㎡ | 道路建設 |

| 遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上野遺跡 | 集落<br>古墳群 | 弥生時代<br>古墳時代 | 竪穴建物跡7<br>古墳9<br>埴輪棺6<br>土壙墓1 | 弥生土器<br>土師器<br>須恵器<br>埴輪<br>鏡鋳<br>木簡<br>武器類 | 前期後半の大型円墳<br>鰭付円筒埴輪 |
| 竹ノ崎遺跡 | 遺物包含層<br>横穴墓 | 弥生時代<br>古墳時代<br>奈良時代 | 横穴墓2 | 弥生土器<br>土師器<br>須恵器<br>刀剣類 | |

**上野遺跡・竹ノ崎遺跡**

中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書9

平成13年3月　発行

発行　日本道路公団　中国支社
　　島根県教育委員会
印刷　株式会社　島根県農協印刷
　　島根県松江市浜乃木二丁目10番52号